研究報告書

Nagoya Urban Institute Research Reports

2007.3

平成18年度　市民研究報告書

私たちの住む街なかの「魅力資産」の
再発見とユニーク活用アイデア
（中川区・港区）

財団法人 名古屋都市センター

はじめに

これまでのまちづくりは行政の先導により進められてきた感がありましたが、近年、市民と行政のパートナーシップによるまちづくりが重視されるなかで、市民の方々が主体となってまちづくりを進める場面が増えつつあります。

財団法人名古屋都市センターでは、名古屋のまちづくりについて市民の目で自主的に研究していただく市民研究員制度を平成１１年度に設けて以来、これまでにも、まちづくりに関する様々なテーマの調査研究が公募により選出された市民研究員により行われてきました。

戦後、名古屋では他都市に誇れる道路や公園等の都市基盤が整備されましたが、市内各地にはまだ多くの歴史的遺産が残っており、市民にとっては大変貴重な財産となっています。

そこで今回の研究テーマは、市民研究員の方に１００年後の名古屋に思いを馳せていただき、後の世代にも受け継いでいきたい街の“魅力資産”を発掘し、それをまちづくりに活かすアイディアとともに市民の方々に広く情報発信していただくということにしました。この研究は名古屋市域を８区域に分け、平成１７～１９年度までの３ヵ年にわたり行う予定です。

平成１８年度は、東・守山区、昭和・天白区、中川・港区の３区域について行い、市民研究員の方々には実際に現地を歩き区域内にある魅力資産を探索し、市民研究員の視点から様々な分野の魅力資産を調査していただき、さらに、それらを今後のまちづくりに活かすユニークなアイディアとして提言していただきました。本報告書は、市民研究員によりその提言内容等を研究成果としてまとめていただいたものであります。

当センターといたしましては、今後とも、市民、学識者、行政等の幅広い視点からの調査研究を通して、名古屋のまちづくりに貢献していく所存です。今後ともこれまでと同様、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成１９年３月

財団法人名古屋都市センター

私たちの住む街なかの「魅力資産」の再発見とユニーク活用アイデア（中川区・港区）

あおなみ線かいわいの活力あるまちづくり
― 時空と人をつなぐ有形資産・無形資産の再発見
～川・みどり・はな・公園・海・神社・人･機能・技術～

平成１８年度　市民研究員
加　藤　　聰
加　藤　隆　夫
築　城　利　彦
野　間　三栄子

● 目次 ●

Ⅰ．概要編 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ｉ頁

Ⅱ．本編

第１章　中川区・港区の変遷 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １頁

１　中川区・港区の古代から中世 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １頁

２　中川区・港区の近世（新田開発） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２頁

３　明治以降の中川区・港区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３頁

第２章　中川区・港区の資産 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５頁

１　交通機関 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５頁

１．１　名古屋市バス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５頁

１．２　名古屋市地下鉄 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５頁

１．３　関西本線、東海道本線及び中央本線並びに東海道新幹線 ・ ５頁

１．４　近畿日本鉄道名古屋線 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５頁

１．５　名古屋臨海高速鉄道（あおなみ線） ・・・・・・・・・・・・・・ ６頁

１．６　その他の交通機関 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６頁

２　河川・運河 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２頁

２．１　福田川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２頁

２．２　戸田川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２頁

２．３　新川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２頁

２．４　庄内川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２頁

２．５　荒子川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２頁

２．６　服部川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７頁

２．７　中川運河 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７頁

２．８　小碓運河 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７頁

２．９　南郊運河 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７頁

２．１０　荒子川運河 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７頁

２．１１　港北運河 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７頁

２．１２　日光川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７頁

２．１３　堀川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７頁

２．１４　山崎川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８頁

２．１５　大江川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８頁

２．１６　天白川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８頁

２．１７　十一屋川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８頁

３　みどり・はな　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１頁
３．１　名古屋のみどりの現状　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１頁
３．２　中川区・港区のみどりの現状　・・・・・・・・・・・・・・・　２２頁
３．３　あおなみ線沿いのみどりの現状　・・・・・・・・・・・・・・　２６頁
３．４　保存樹　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５頁
４　公園　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４１頁
５　神社・仏閣　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５３頁
５．１　神明社　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５３頁
５．２　熱田神宮・八剣社・素盞嗚神社　・・・・・・・・・・・・・・　６０頁
５．３　八幡神社　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６５頁
５．４　秋葉社　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６８頁
５．５　稲荷社　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７０頁
５．６　その他の神様を祀る神社　・・・・・・・・・・・・・・・・・　７１頁
５．７　荒子観音　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７８頁
６　バリアフリー（点字ブロック）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　８０頁
７　まちなみ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８３頁
８　人的資産　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８７頁
９　藤前干潟　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９１頁
１０　金城ふ頭　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９３頁

第３章　中川区・港区の資産の活用アイデア　・・・・・・・・・・・・・　９８頁
１　提案１：　「あおなみ線を活用しよう！」　・・・・・・・・・・・・　９８頁
１．１　「あおなみ線に乗って出掛けよう！」　・・・・・・・・・・・　９８頁
１．２　「あおなみ線を有名地にしよう！」　・・・・・・・・・・・・１００頁
１．３　「文化施設を誘致しよう！」　・・・・・・・・・・・・・・・１００頁
２　提案２：　「荒子川を活かそう！」　・・・・・・・・・・・・・・・１０２頁
３　提案３：　「みどりを増やそう！」　・・・・・・・・・・・・・・・１０４頁
４　提案４：　「バリアフリーのまちづくりをしよう！」　・・・・・・・１０６頁
５　提案５：　「あおなみ線沿いのまちなみを構築しよう！」　・・・・・１０７頁
６　提案６：　「人的資産を活かそう！」　・・・・・・・・・・・・・・１１３頁
７　提案７：　「藤前干潟へ出掛けよう！」　・・・・・・・・・・・・・１１４頁
８　提案８：　「みなと・みらい・ゆめ公園を創ろう！」　・・・・・・・１１４頁

第４章　持続可能な提案とするためには　・・・・・・・・・・・・・・・１１６頁

Ⅰ．概要編

Ⅰ．概要編

グループ③の私たちは中川区・港区の魅力資産の再発見と活用アイデアを担当した。

中川区は古墳時代から人が住み付き、貝塚や古墳のような遺跡がみられ、それ以降、天平元（７２９）年に泰澄和尚に開基された荒子観音や円覚寺所蔵の尾張国富田荘絵図等に示されているように歴史的資産がある。一方、港区は近世の新田開発が行われるまでは殆どが海の中にあり、歴史的には新しい地域ということもであって歴史的な資産としては近世から現代にかけた新しいものばかりである。また、中京工業地帯の主要な工業地帯としての役割も担っている。さらに、追い討ちをかけるように昭和３４（１９５９）年９月の伊勢湾台風によっても歴史的な資産を失っている。このような成り立ちそして特徴が異なる２つの区についてどのような研究アプローチを取ったら良いのかに時間を費やした。

そこで、その２つの区の中心を縦断するように名古屋臨海高速鉄道（あおなみ線）にスポットを当てた。あおなみ線は「２００５年日本国際博覧会（愛・地球博)」の開幕直前の２００４年１０月６日に開業され、愛・地球博の閉幕後は乗客が減少していた。折しも、同じ愛知県内にある桃花台線が廃止されるというニュースが入る中、あおなみ線も同じ運命を辿らないようにしたいという思い、そしてあおなみ線を巻き込んだ形の地域発展を進めることが地域に役立つという考えからあおなみ線を中心において月２回の定例会議及び分担毎の現地調査を行い、中川区・港区の魅力資産の再発見し、それを元に活用アイデアを提案した。

現状把握として、第１章で中川区・港区の変遷を調査して述べた。すなわち、古代から中世、近世、明治以降の歴史をまとめた。

次に、第２章では下記の考え方を元に中川区・港区の資産の抽出を行った。すなわち、現状・現在の資産を把握するために、時空（とき）という考え方に注目して時間の流れと空間の広がりに関連のある資産を探索・再発見した。①歴史や文化といった時間の流れや人の営みを感じさせる要素、②生活の基盤となる場所と場所をつなぐインフラ的な要素、③名古屋という大都市の中に自然を感じる要素、という３種類の有形資産、そして、④人という人的要素という無形資産の４種類について資産を抽出した。

具体的には、項目①として神社仏閣、バリアフリー（点字ブロック)、まちなみ。項目②として交通機関、川（橋)、公園、金城ふ頭。項目③として川、みどり、藤前干潟。項目④として地域で活躍する人々を、それぞれの項目毎に資産の抽出を行った。図書館や官公庁の文献や資料では分からないこともあるため、どのような資産についてもフィールド調査を行い、写真や絵などによる視覚的な情報を盛り込んだ。また、人材という無形資産の調査には名古屋市技能功労者にスポットを当ててアンケート調査も行った。ただし、藤前干潟へ飛来する鳥の推移について調査したが、その推移を裏付ける根拠を見出すことができず、そのデータだけから判断すると誤解を受ける可能性があるデータとなったため、掲載

は控えた。

第１章と第２章を受けて、第３章では抽出した資産の活用アイデアを提案した。短期間で実現が可能なもの、実現には時間がかかるもの、現状のままでは実現が難しいが実現したいことを織り交ぜて大きな提案項目としては下記の８提案を挙げて、その具体的な実施方法についても提案した。これら提案について実施に向けた精査が必要となる。

提案１	あおなみ線を活用しよう！	
	「あおなみ線に乗って出掛けよう！」	１０点（一部要望的要素）
	「あおなみ線を有名地にしよう！」	２点
	「文化施設を誘致しよう！	４点
提案２	荒子川を活かそう！	４点
提案３	みどりを増やそう！	７点
提案４	バリアフリーのまちづくりをしよう！	９点
提案５	あおなみ線沿いのまちなみを構築しよう！	７点
提案６	人的資産を活かそう！	４点
提案７	藤前干潟へ出掛けよう！	５点
提案８	みなと・みらい・ゆめ公園を創ろう！	１１点

最終章の第４章では持続可能な提案とするために必要な考え方を述べた。すなわち、ボランティアだけでは持続性がないため、誰でも、何処でも、どんなことでもできるような仕組みを考えること､行政だけでなく一般企業等の積極的な参加を要請するための仕組み、私たちの提案を今後どのようにしたら良いかについて述べた。

Ⅱ．本　　編

第１章　中川区・港区の変遷

１　中川区・港区の古代から中世[1]

中川区･港区が位置している肥沃な濃尾平野は､日本でも有数な沖積平野の一つである。今から約２億５０００万年前、古生代から中生代にかけて、本州地向斜に海成層が堆積した古生層が、変成作用や傾動運動、更にしゅう曲作用を繰り返し、約５００万年前、古生層及び花崗岩に第三紀層をも加えた地質構造上の基盤が形成された。地質構造区分上は、西南日本内帯の東部に属し、内帯には領家帯、美濃帯、三群帯、飛騨帯があり、中生代末の花崗岩がこれを貫いている。領家帯は片麻岩と花崗岩とが複雑に入り組んだ構造を持っており、美濃帯は砂岩、頁岩、礫岩、チャートを主とする古生層から構成されている。中川区・港区はその後の氷河期と温暖期の繰り返しによる海岸線の移動により、陸地になったり、海の底になったりしていた。海退と河川の運搬する砂質堆積物によって海岸線は下流に向かって拡大して行った。それに伴って人間の生活の場が、現在の平野中央部から臨海部へと進んでいった。

古墳時代には中川区に人が住み付き、小塚町貝塚、榎津貝塚、万町遺跡などの遺跡が発見され、龍潭寺（野田三丁目）には古墳らしきものもあると言われている。人間の生活の場は平野辺縁部であり、この伊勢湾を囲む地方には、海人と呼ばれた漁民集団が住んでいた。奈良時代には津島と甚目寺を結ぶ線に海岸線があった言われている。

８世紀末から１５世紀末にかけて存在した私的土地所有制度である荘園制の成立により、尾張地域では１０世紀後半から１１世紀初めにかけて、摂関政治を確立させ栄華を誇った藤原氏の荘園が次々と成立した。則武荘（小塚・丸米野、中野、牛立、二女子、四女子、七女子、五女子、北一色、長良、高須賀)、日置荘、富田荘(伊麦里、新家里、草壁里、得真里、富田里、服織里、____里*、鳥海里、春田里、稲村里、横江里、稲真里）等である。特に、富田荘は近衛家領であったのが、源平の内乱を経て北条氏の所領となり、弘安６（１２８３）年に北条氏とゆかりの深い円覚寺に寄進したという記録が残っている。図１にその円覚寺所蔵の尾張国富田荘絵図を示す。この地図からこの地域の歴史と地形の変遷が分かる。

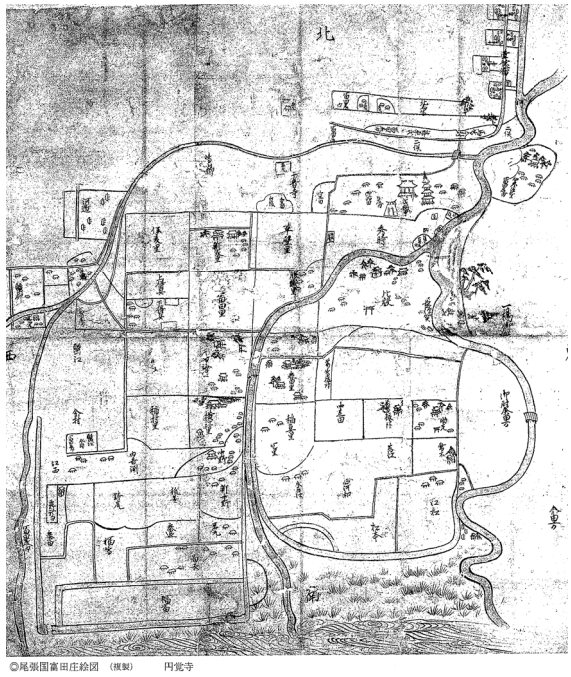


図１　中世の中川区富田地区
出所：円覚寺所蔵の尾張国富田荘絵図

＊：文献に記載がない。

２　中川区・港区の近世（新田開発）[2]

経済の基盤が農業であった江戸時代において、藩の収入源は農家からの年貢に依存していた。政情的にも安定していたために戦による国土開発が望めない状況においては、山林や荒地の開墾、湖沼の埋立、沿岸部の干拓による新田開発を行わざるを得ない状況であった。尾張藩において当初は藩の費用による新田開発が行われていたが、次第に藩の財政も厳しくなり、豪農らによる新田開発が中心になっていった。以下に、この地方の新田開発になくてはならない人物を挙げる。

１人目が鬼頭勘兵衛景義である。愛知郡八田村（現在の中川区八田町）の豪農である。織田信雄の家来で信雄の没落後愛知郡八田村に住居した鬼頭義直の孫義弘の次男で、戦国浪人から帰農した者の子孫である。寛永８（１６３１）年から明暦３（１６５７）年まで２７年間にわたり全額私財を投じ、福田新田（寛永１７（１６４０）年)、西福田新田（寛永２０（１６４３）年）を含み、愛知郡に６ヶ所、海東郡に３ヶ所、海西郡に１６ヶ所、知多郡に１ヶ所、美濃安八郡に１ヶ所、合計２７ヶ所の新田を開発し、その石高は２万３，０００石に及ぶ。東福田・西福田新田を開いた際、観音様のお告げにより、困難を極めていた堤防の締め切りが成功したことを感謝し、後年、熱田新田に一番から三十三番までの観音堂を建てた。また、勘兵衛用水と呼ばれる萱津用水を開削したことでも知られており、延宝４（１６７６）年に亡くなった。享年は７０歳を過ぎていたといわれている。

次が、茶屋長意・長以の親子である。足利１３代　義輝のころから茶屋の号を名乗った茶屋家初代　茶屋中島四郎次郎清延は、徳川氏の御用商人として戦略物資の調達、輸送に貢献し、茶屋一族は幕府及び御三家の呉服師となり、朱印貿易を許されるようになった。茶屋中島新四郎長吉（長意）は、清延の三男で、尾張家の呉服師として茶屋町に住んだ。尾州茶屋家の初代であり、単に商人としてではなく、藩主の側近として将軍や老中などへの内使、接待などの特殊な任務を果たした。寛永の鎖国によって朱印貿易が廃止となった後、長意は新田開発に乗り出し、寛文３（１６６３）年、東福田新田の南に茶屋新田を開発した。長意の子、新四郎良延（長以）は、延宝５（１６７７）年、茶屋新田の西に茶屋後新田を開発した。新しく開かれた茶屋後新田は、当初は長以の所有であったが、明治元年にはすべて関戸家の所有となった。

次が、西川甚兵衛である。元禄９（１７９６）年、甚兵衛新田、寛延３（１７５０）年、甚兵衛後新田を開発した豪農である。西川甚兵衛吉蔵は代々海東郡（現在の港区南陽町）福田村に住み農業を営み、元禄９（１６９６）年、尾張公の命により、私資１，１００両を献納し８年を費やし、新田を完成させた。これを甚兵衛新田といい、後に当知新田と改めた。また、海東郡大宝新田堤防改修を命じられ、完成させる。この功績により、藩主から苗字帯刀を許され、士分の待遇を受け、子吉辰を経て孫甚兵衛吉誠に至り、寛延３（１７５０）年から４年間にわたり、藩主の命を受け、甚兵衛後新田を開発した。

最後が津金文左衛門胤臣である。江戸時代中期の尾張藩士である。享保１２（１７２７）年に現在の東区徳川一丁目に生まれ、１６歳で家督を継ぎ、尾張９代藩主・宗睦の世子治

休の小姓、金方納戸を経て勘定奉行となる。寛政３（１７９１）年に熱田奉行兼船奉行となる。文武両道に優れており７５歳まで執務した。１８世紀後半、幕藩体制が大きく揺らぎ、尾張藩でも度重なる水害や飢饉によって財政赤字が累積していた。彼は、藩財政の建て直しを図るため、新田開発を積極的に進めた。寛政９（１７９７）年、飛島新田（飛島村）の干拓をしたのに続き、同１２（１８００）年、調達金一万両で熱田新田前新田開発に着手した。着工からわずか６ヶ月の突貫工事によって、享和元（１８０１）年、熱田前新田の干拓を完成する。一方で、熱田前新田の入植者の中に、瀬戸の陶工加藤吉左衛門、民吉父子がいることを知り、自身が習得した中国南京焼の技法を伝授、資金を与えて研究させる。窯を熱田前新田古提に築き、新製法の生産に成功、やがて窯を瀬戸に移し、瀬戸の窯業隆盛の基礎を固めた。干拓工事の完了した享和元（１８０１）年にこの世を去ったが、記録では病死とされていた。しかし昭和２７年、大須の大光院で棺が発見され、遺体の状況から割腹による死ということが喧伝された。享年７５歳であった。

３　明治以降の中川区・港区[2]

名古屋港築港は、明治２９年　熱田港築港工事として始まった。当時は港湾の必要性に対する一般の認識は低く、反対する意見が根強くあった。明治３９年、全国の主な港を巡る巡航博覧船「ろせった丸」による主要港訪問が計画され、この地域では武豊港と四日市港に寄港する予定になっていたが、初代港務所長の奥田助七郎が主催者の報知新聞と粘り強く交渉し、寄港を成功させた。それを機に、築港工事は円滑に進み、明治４０年　熱田港は開港場に指定され、名古屋港と名称が改められた。

写真１　跳ね上げ橋（港区千鳥２）

築港工事によって生じた浚渫土砂を利用した埋立が推し進められた。埋立によってできた地域には港湾貨物取扱地区のほか、工場用地の取得が容易であったことから各種産業の工場が立地し、戦前、戦後とも名古屋市内最大の工業地帯に発展した。この地区の産業の流れとしては、（1）明治維新後の産業の近代化に伴う紡績・機械・鉄道・電力・ガス・陶磁器・金融・商業、（２）電力王「福沢桃介（名古屋電灯社長）」による余剰電力を利用した産業創出、（３）軍需産業から民需への転換、輸送機器・化学工業の発展、資源循環型産業という大きな流れが見られる。その当時が偲ばれる産業遺産として、「戸田川二重樋門」、「跳ね上げ橋」、「平和橋」、「食糧庁サイロ」、「１０号地灯台」、「松重閘門」等がある。

大規模な埋立が行われる前までは、伊勢湾の海水と庄内川や新川が混ざり合う汽水域は優れた漁場であり、中川区の下之一色には魚市場が活気にあふれていた。また、約３０年

前までは築地口等への行商を行う人々もいた。最近では殆んど見られなくなったが、中川区や港区の農業を営む人の中には、今でも畑などで収穫された新鮮な農作物をリヤカーに載せて売りに来る人の姿が今でも見られる。

写真２　下之一色市場（中川区下之一色町）

写真３　農作物の行商風景
（２００７年　港区築三町にて撮影）

引用文献

1 中川区制施行５０周年記念誌編集委員会『中川区史』中川区役所、昭和６２年１０月
2 名古屋市港区地域振興課『港区　地域文化（風土記）の調査研究』平成９年３月

第２章　中川区・港区の資産

現状・現在の資産を把握するために、時空（とき）という考え方に注目した。すなわち、時間の流れと空間の広がりに関連のある資産を探索・再発見した。

中川区・港区の、①歴史や文化といった時間の流れや人の営みを感じさせる要素、②生活の基盤となる場所と場所をつなぐインフラ的な要素、③名古屋という大都市の中に自然を感じる要素、という３種類の有形資産、そして、④人という人的要素という無形資産の４種類について資産を抽出した。

項目①として神社仏閣、バリアフリー（点字ブロック)、まちなみ。項目②として交通機関、川（橋)、公園、金城ふ頭。項目③として川、みどり、藤前干潟。項目④として地域で活躍する人々を、それぞれの項目毎に資産の抽出を行った。

１　交通機関

中川区には、名古屋市バス、名古屋市地下鉄、関西本線、東海道本線及び中央本線並びに東海道新幹線、近畿日本鉄道名古屋線、名古屋臨海高速鉄道(以下、あおなみ線という)、名鉄バス並びに三重交通が運行している。

港区には、名古屋市バス、名古屋市地下鉄、あおなみ線、名古屋鉄道築港線が運行している。

１．１　名古屋市バス（図１．１）

中川区には、戸田荘・高畑・中川車庫等を基点とする数多くの市バス路線が存在している。港区には、河合小橋・多加良浦・野跡等を基点とする数多くの市バス路線が存在している。

１．２　名古屋市地下鉄（図１．２）

中川区には、東山線(高畑から藤が丘)の高畑及び八田の駅が存在している。港区には、名港線(名古屋港から金山)の名古屋港・築地口・港区役所・東海通の駅が存在している。

１．３　関西本線、東海道本線及び中央本線並びに東海道新幹線（図１．３）

中川区には、関西本線(名古屋からＪＲ難波)の八田・春田が、東海道本線（神戸から東京）の尾頭橋駅が存在している。他には、中央本線及び東海道新幹線が運行しているが駅は存在しない。港区には、関西本線、東海道本線及び中央本線並びに東海道新幹線が運行していない。

１．４　近畿日本鉄道名古屋線（図１．４）

中川区には、近畿日本鉄道名古屋線（近鉄名古屋から伊勢中川）の近鉄八田・伏屋・戸

田が存在している。港区には、近畿日本鉄道名古屋線が運行していない。

１．５　あおなみ線　（図１．５）

名古屋市の第３セクターとして２００５年日本国際博覧会（愛・地球博）の開幕に合わせて開通した。その線路は、名古屋港から名古屋駅に荷物やコンテナを運ぶ臨港鉄道（臨港線）が使われた。鉄道による荷物やコンテナの運搬から、トラックによる運搬が主流となったことから、次第に臨港線の役目が失われてきて、それがあおなみ線という形で港に住む人たちの通勤や通学の足となった。

あおなみ線（名古屋から金城ふ頭）は、全長１５．２km、所要時間２４分、運行車両６両、毎時１５分間隔、中川区・港区のほぼ中央を北から南へ縦断する。通勤・通学・ショピングに地域住民に安全・安心・親切で快適・便利な交通機関である。中川区には、小本・荒子・南荒子・中島の駅が存在している。港区には、名古屋競馬場前・荒子川公園・稲永・野跡・金城ふ頭の駅が存在している。

運賃が高いという印象があることから、あおなみ線の運賃を他の地域の地下鉄の運賃と比較した表を表１．５に示す。ＪＲとの比較では高いという印象は否めないが、他市の地下鉄とは遜色のない金額であった。

１．６　その他の交通機関

名鉄バスは、津島線（名古屋から津島）の中川区には、万場スバル前から新家が、三重交通は、名古屋桑名線（名古屋から桑名）の中川区には、昭和橋から豊冶小学校前が、名古屋鉄道築港線（東名古屋港から大江）の港区には、東名古屋港が存在している。なお、その他にも路線が存在している。

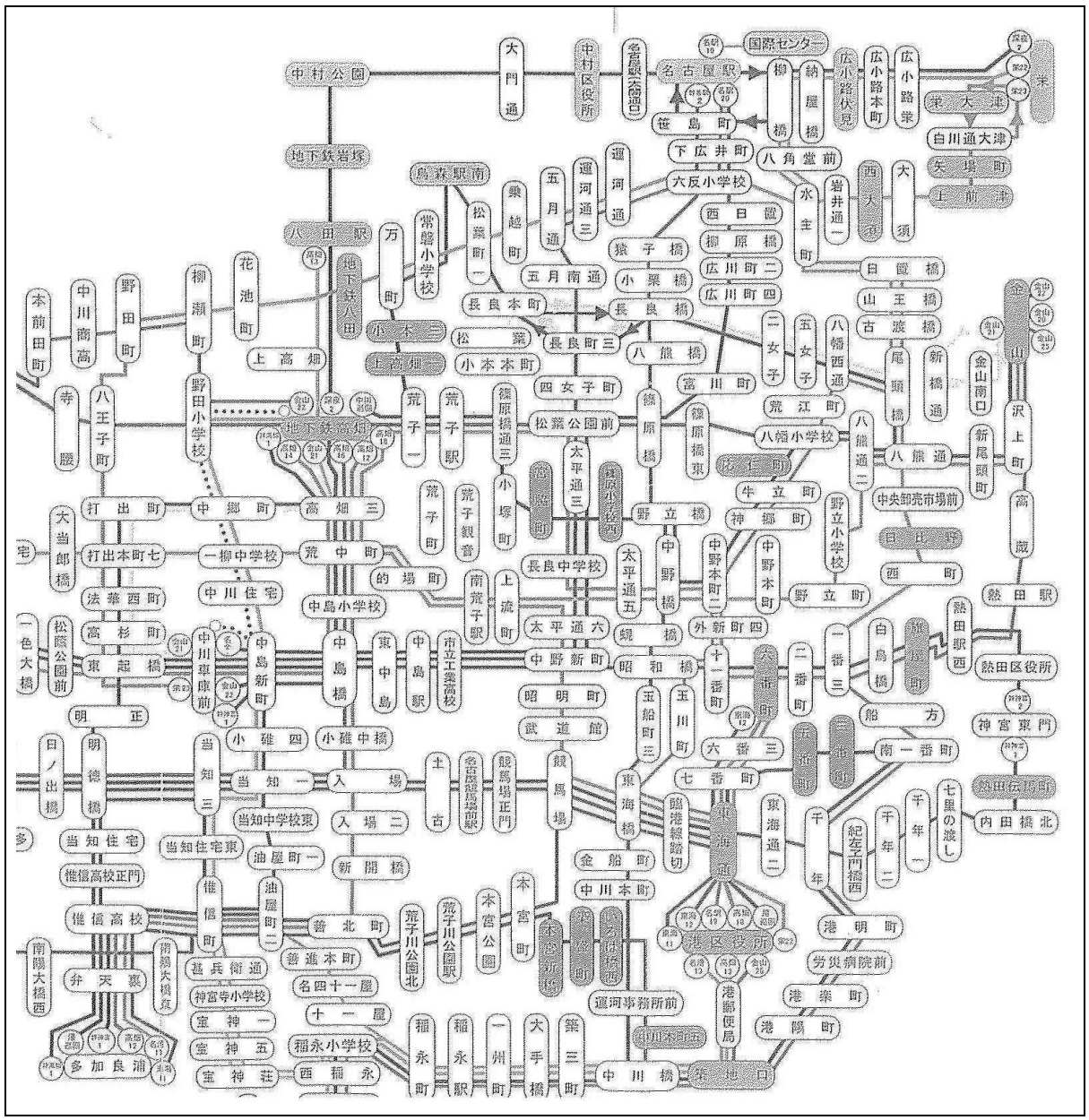


図１．１　名古屋市バス経路図（中川区・港区の一部）

出所：http://www.kotsu.city.nagoya.jp/

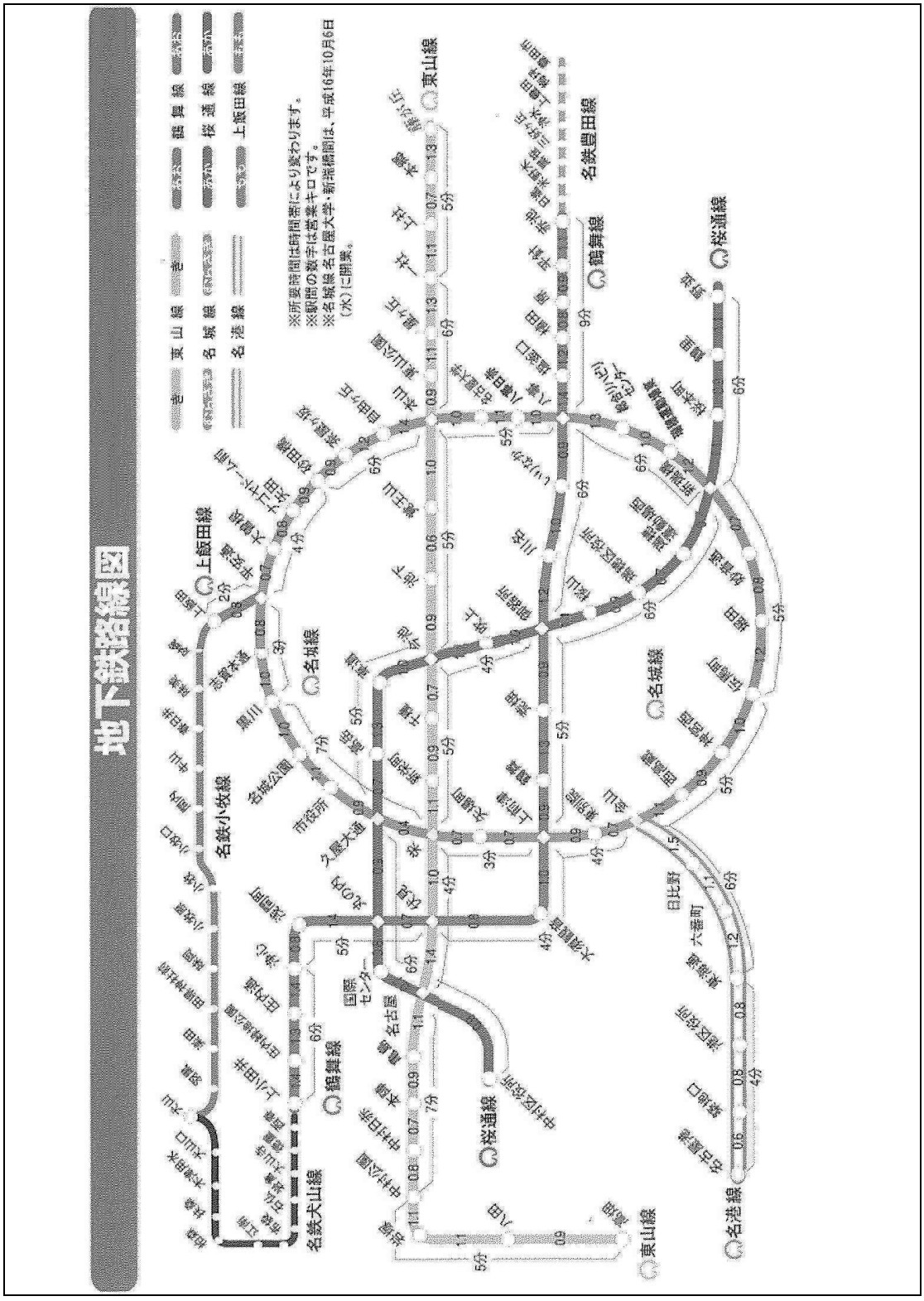
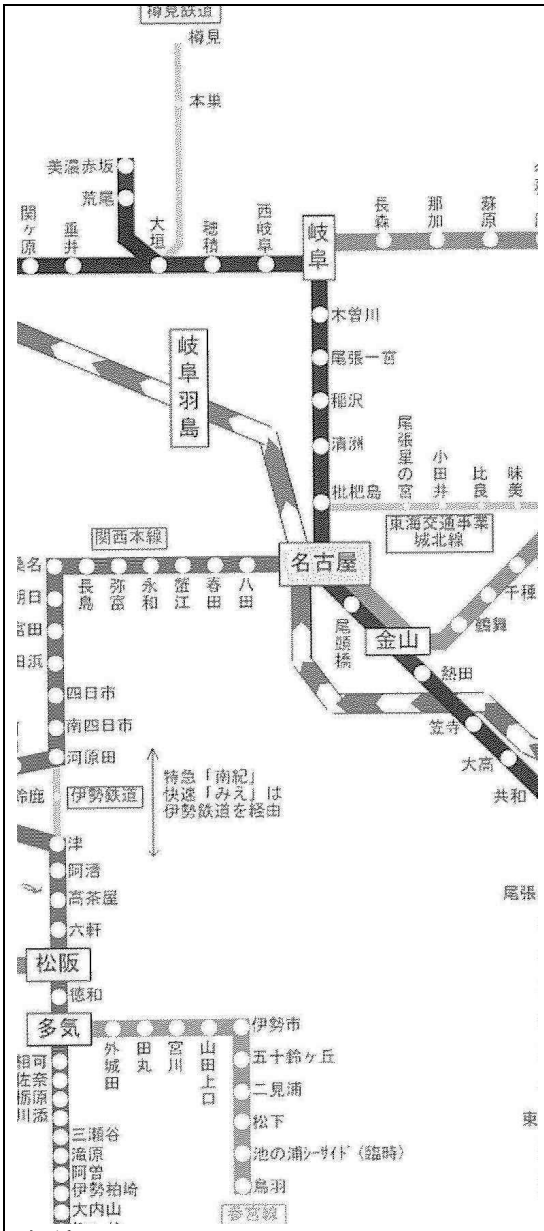


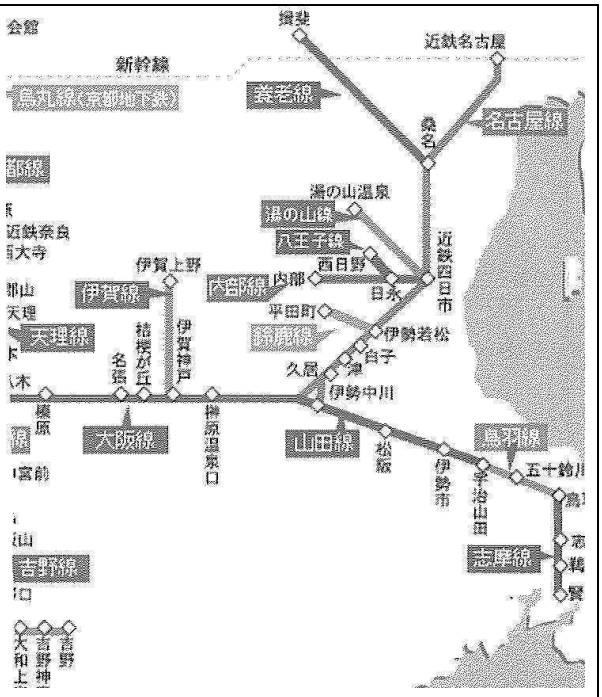
図１．２　地下鉄路線図

出所：http://www.kotsu.city.nagoya.jp/subway/subway-roenn.htm



出所：
http:/www.rosenzu.com/rr/rrj11.html

図１．３　ＪＲ東海路線図



出所：http:/eki.kintetsu.co.jp/norikae/T1

図１．４　近畿日本鉄道路線図

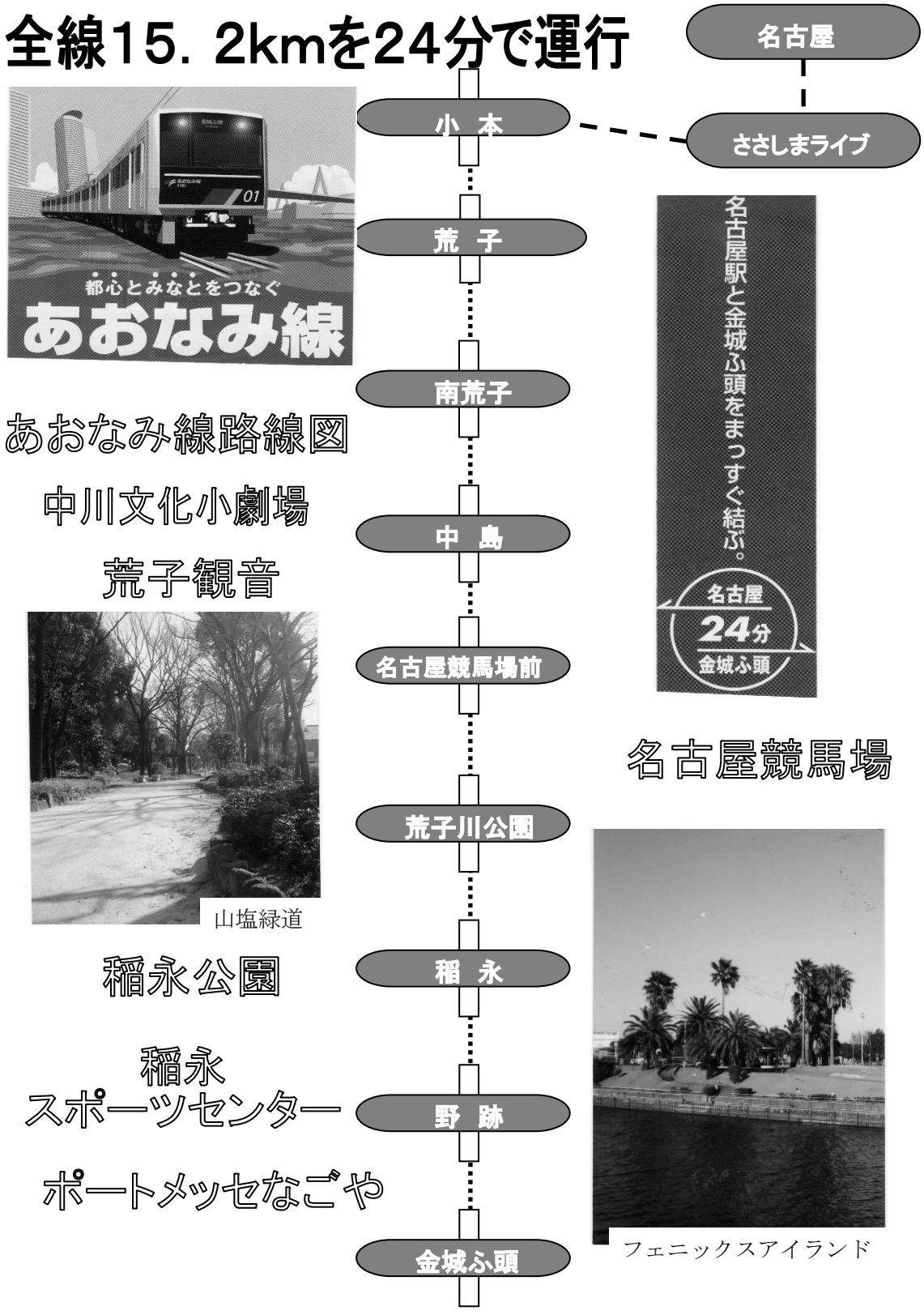


図１．５　あおなみ線路線図

名古屋臨海高速鉄道(株)『都心みなとをつなぐあおなみ線「ご利用ガイド」』を加工作成

表１．５　地下鉄各社の料金比較

公共交通機関（地下鉄中心）の料金比較

青字はあおなみ線の運賃が安い場合、赤字斜体はあおなみ線の運賃が高い場合

2006/5/7現在（出典は各社ホームページ）

[km]	～1	～2	～3	～4	～5	～6	～7	～8	～9	～10	～11	～12	～13	～14	～15	～16		特典 一日券	特典 その他特典
あおなみ線	200	200	200	230	230	230	230	260	260	260	260	290	290	320	320	350		なし	あおなみカードで「あおなみ線と市バス」または「あおなみ線と地下鉄」を90分以内に乗り継ぐと、80円割引となる。
名古屋市地下鉄	200	200	200	230	230	230	230	260	260	260	260	290	290	*290*	*290*	*320*		740円（土日は600円：地下鉄市バス共通）	同上。ただし、カード指定なし。
大阪市地下鉄	200	200	200	230	230	230	230	270	270	270	270	*270*	310	*310*	*310*	*310*	*310*	800円（金曜日と20日は600円：地下鉄・ニュートラム・バス全線）	「市バスと地下鉄」を乗り継ぐと、100円割引となります。
福岡市地下鉄	200	200	200	250	250	250	250	290	290	290	290	320	320	320	320	*340*	*340*	600円（毎月14日の「ノーマイカーデー」は500円）	
札幌市地下鉄	200	200	200	240	240	240	240	280	280	280	280	310	310	*310*	*310*	*340*	*340*	800円（土日500円、地下鉄・市電・ジェイ・アール北海道バス等1日乗り放題は1000円）	
京都市地下鉄	210	210	210	250	250	250	250	280	280	280	280	310	310	*310*	*310*	*340*	*340*	600円（バス地下鉄共通は1200円）	
神戸市地下鉄	200	200	200	230	230	230	230	260	260	260	300	300	300	330	330	*330*	360	800円（毎月20日は地下鉄市バス共通で500円）	エコショッピング制度（地下鉄を利用して提携店にご来店いただいたお客様に、割り引きなどのサービス）
JR	*140*	*140*	*140*	*180*	*180*	*180*	*190*	*190*	*190*	*190*	*230*	*230*	*230*	*230*	*230*	*320*	*320*		

出所：会社ホームページより作成

２　河川・運河[1、2、3]

中川区・港区には、多くの河川・運河が存在する。下記の２．１福田川から２．９南郊運河と２．１３堀川までは中川区・港区の両区にまたがる。２．１０荒子川運河から２．１７十一屋川までは港区のみを流れる。

２．１　福田川（写真２．１）

二級河川である。上流端を左岸・稲沢市小池正明寺町地先、右岸・同市同大字字河原知先として下流端・日光川への合流点としている。市内延長は５，５４０ｍである(以下、左岸で統一する。ただし運河は除く)。

写真２．１　福田川の風景

２．２　戸田川（写真２．２）

二級河川である。上流端を左岸・名古屋市中川区富田町大字服部字鵜の首として下流端・日光川への合流点としている。市内延長は７，１５０ｍである。

写真２．２　戸田川の風景

２．３　新川（写真２．３）

一級河川である。上流端を庄内川からの分派点としている。市内延長は１７，７００ｍである。

写真２．３　新川の風景

２．４　庄内川（写真２．４）

一級河川である。上流端を左岸・恵那市三郷町としている。市内延長は３７，４３０ｍである。

２．５　荒子川（写真２．５）

上流端を名古屋市中川区八田町としている。市内延長は６，９００ｍである。

荒子川については、橋の名称、橋の上流部の川幅、水深を調査した。[4，5、6，7]　ただし、文献に川幅や水深の記載のない所については「－」で表記した

写真２．４　庄内川の風景

①中川区・中村区の境から小本駅道まで

1：名称なし、川幅 4.00m、水深 1.50m 	2：名称なし、川幅 4.50m、水深 1.50m
3：名称なし、川幅－m、水深－m 	4：新八田、川幅 2.80m、水深 1.40m

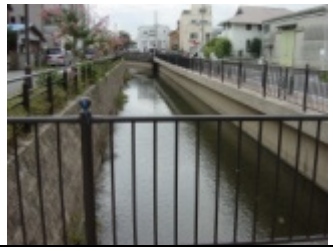
②小本駅道から荒子駅道まで

1：八田中、川幅－m、水深－m 	2：高瀬、3.60m、水深 1.90m
3：名称なし、川幅 5.60m、水深 1.90m 	4：上柳瀬、川幅－m、水深－m
5：名称なし、川幅 3.20m、水深 2.20m 	6：臼ノ目、川幅 5.60m、水深 2.50m

７：中柳瀬、川幅 5.00m、水深 2.50m 	８：名称なし、川幅－m、水深－m
９：にの割、川幅 6.50m、水深 3.00m 	１０：境、川幅 6.50m、水深 3.00m

③荒子駅道から南荒子駅道まで

１：出合、川幅 9.70m、水深 2.90m 	２：名称なし、川幅 7.90m、水深 3.50m
３：郷下、川幅 9.20m、水深 3.50m 	４：小山、川幅－m、水深－m
５：中郷小、川幅 9.20m、水深 3.50m 	６：名称なし、川幅 9.20m、水深 3.50m

７：寺起、川幅 10.00m、水深 3.00m 	８：筋違、川幅 10.60m、水深 3.00m
９：名称なし、川幅－m、水深－m 	１０：津金、川幅 10.60m、水深 3.35m
１１：荒中、川幅 18.71m、水深 3.20m 	

③南荒子駅道から中島駅道まで

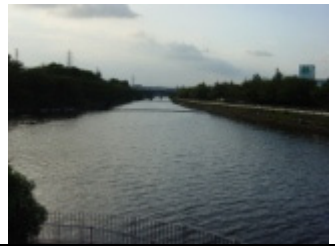
１：二ツ、川幅 18.61m、水深 3.10m 	２：二ツ、川幅 18.61m、水深 3.10m
３：中島新、川幅 18.61m、水深 3.10m 	４：北中島、川幅 18.80m、水深 2.97m

５：名称なし、川幅－m、水深－m 	６：中島、川幅 18.80m、水深 2.97m

④中島駅道から名古屋競馬場前駅道まで

１：荒子、川幅 18.80m、水深 3.24m 	２：小碓中、川幅 18.85m、水深 3.42m
３：入場、川幅 18.70m、水深 3.36m 	４：柳瀬、川幅 19.35m、水深 2.93m

④名古屋競馬場前駅道から河口まで

１：土古、川幅 20.06m、水深 3.31m 	２：新開、川幅 19.70m、水深 3.82m
３：善進、川幅 29.95m、水深 3.23m 	４：荒子運河、川幅 29.95m、水深 3.23m 

５：フェニックス１・２号、川幅 135.50m、水深 3.23m （撮影が困難であるため写真なし）	６：一州大、川幅－m、水深－m

２．６　服部川

上流端を名古屋市中川区富田町大字松下としている。市内延長は１，２００ｍである

２．７　中川運河（写真２．７．１と２．７．２）

堀止船だまり・松重閘門を古典基点として中川閘門を終点としている。全長約８，２００ｍである。

２．８　小碓運河（写真２．８）

小碓橋を基点として西へ全長約９０ｍである。

２．９　南郊運河（写真２．９）

玉川橋を基点として東へ全長約１５０ｍである。

２．１０　荒子川運河（写真２．１０）

本宮橋を基点として西へ１，２５０ｍである。

２．１１　港北運河（写真２．１１）

金川橋を基点として東へ４５０ｍである。

写真２．７．１

中川運河（蜆橋より北を望む）

写真２．７．２

中川運河（東海橋より北を望む）

２．１２　日光川

二級河川である。上流端を左岸・江南市大字前飛保字宮西として下流端・名古屋市港区大江町地先としている。市内延長は６，３６０ｍである。

２．１３　堀川

一級河川である。上流端を庄内川からの分派点として下流端・名古屋市港区東築地地先としている。市内延長は１６，２００ｍである。

２．１４　山崎川

二級河川である。上流端を左岸・名古屋市千種区東山通として下流端・名古屋市港区大江町地先としている。市内延長は１２，４４６ｍである。

２．１５　大江川

上流端を名古屋市南区元塩町としている。市内延長は３，５００ｍである。

２．１６　天白川

二級河川である。上流端を左岸・日進市三本木としている。市内延長は１１，７９０ｍである。

２．１７　十一屋川

十一屋三丁目を起点、十一屋一丁目を終点としている。市内延長９５８．６３ｍである。

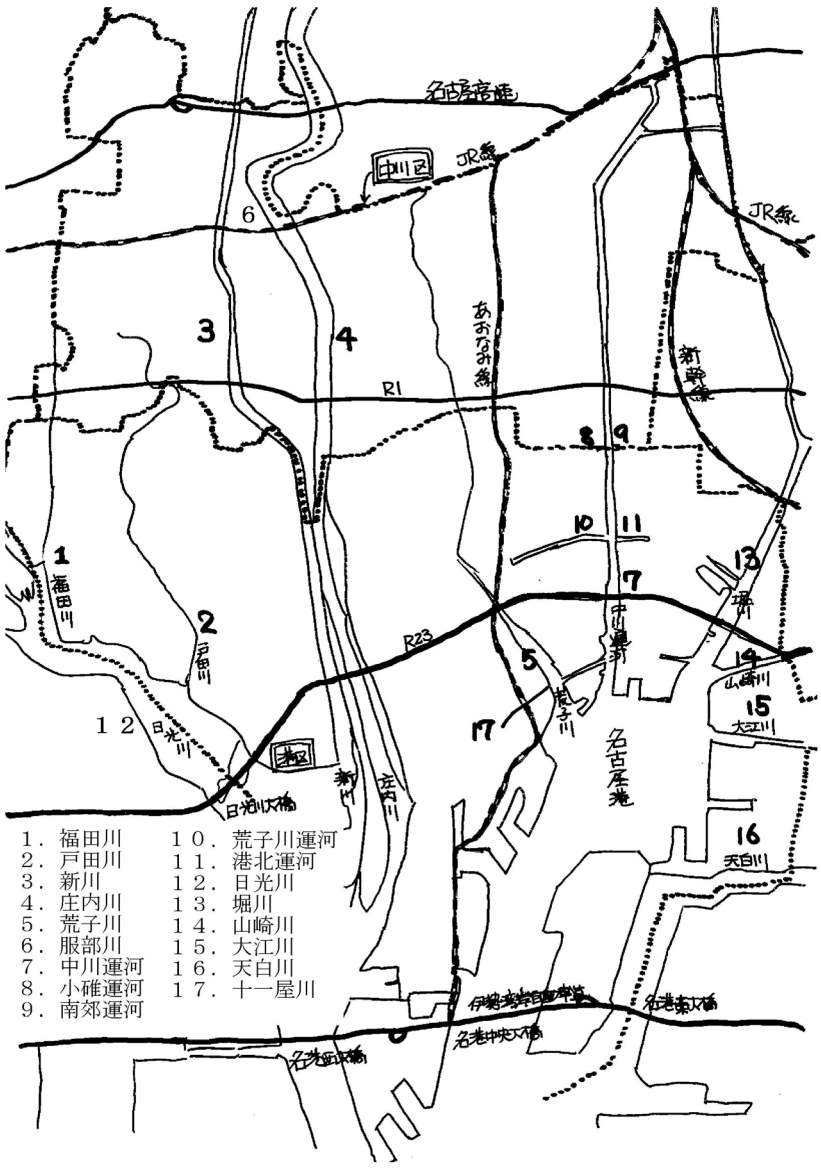


図１　中川区・港区の河川・運河

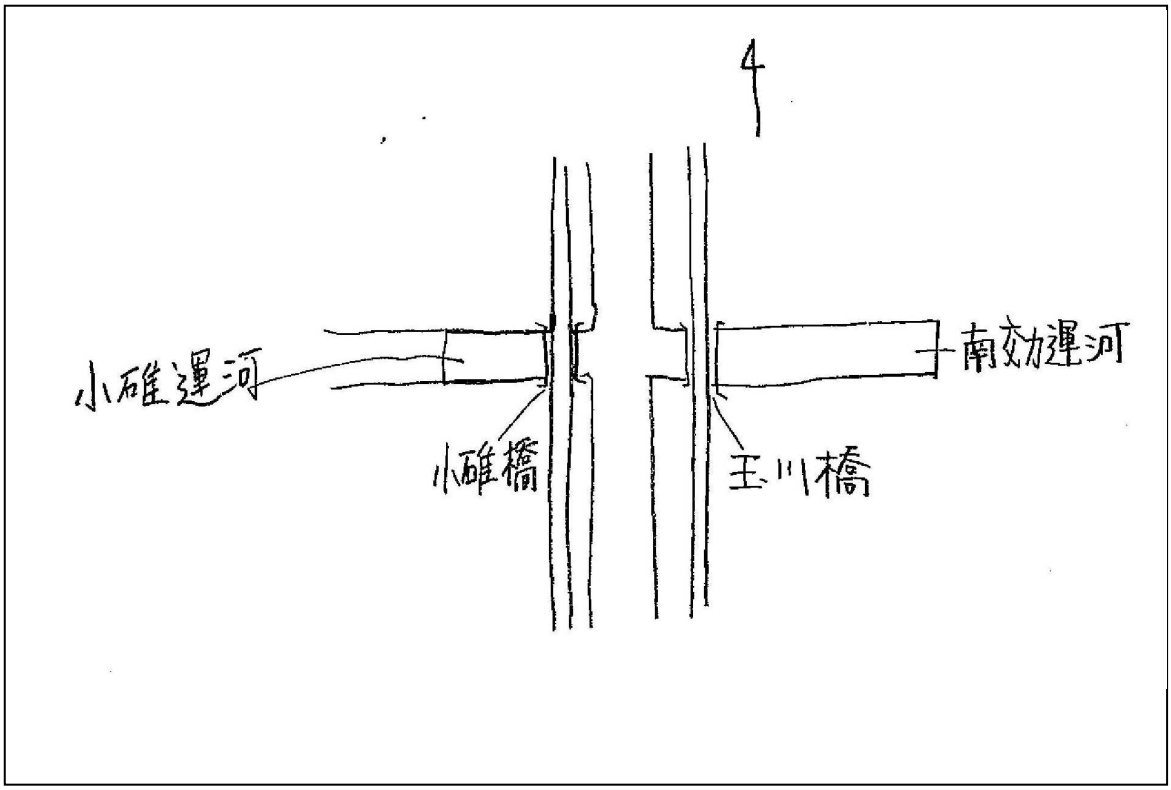


図２　小碓運河（左側）と南郊運河（右側）

写真２．８　小碓運河

写真２．９　南郊運河

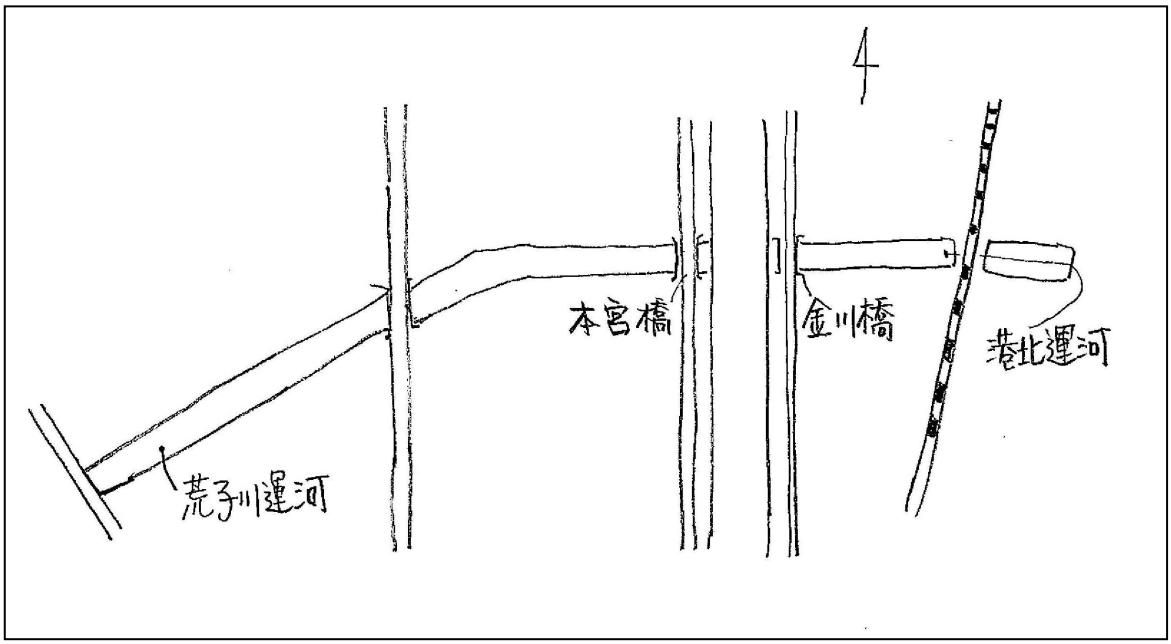


図３　荒子川運河（左側）と港北運河（右側）

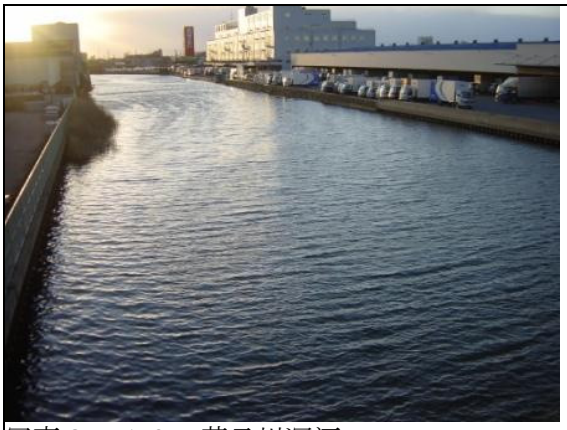


写真２．１０　荒子川運河

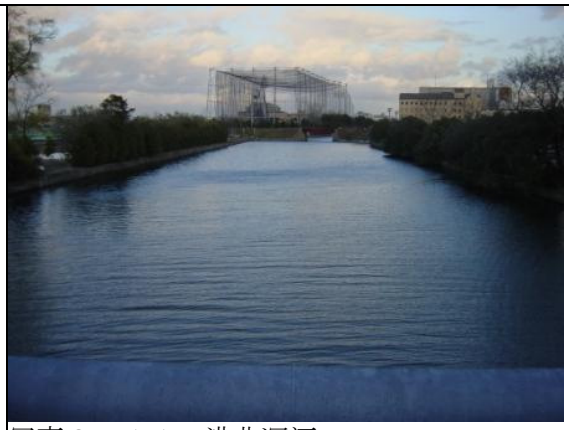


写真２．１１　港北運河

３　みどり・はな

３．１　名古屋のみどりの現状[8]

名古屋は都市化により機能的な街となった。すなわち、道路が舗装され、大きなビルが建ち、様々なものが簡単に手に入る暮らしやすく、過ごしやすい街となった。しかし、一方で樹林地や溜め池など身近な自然は失われ、みどりが残る場所も手入れがなされず「みどりの機能」が低下している。身近な自然の減少は貴重な動植物の減少だけではなく、ヒートアイランド現象の促進と自然とのかかわりの喪失といった大きな変化をもたらした。

例えば、昭和２２年の名古屋市と平成１２年の名古屋市の緑被地を比較すると、下の図３．１．１と図３．１．２のようになる。

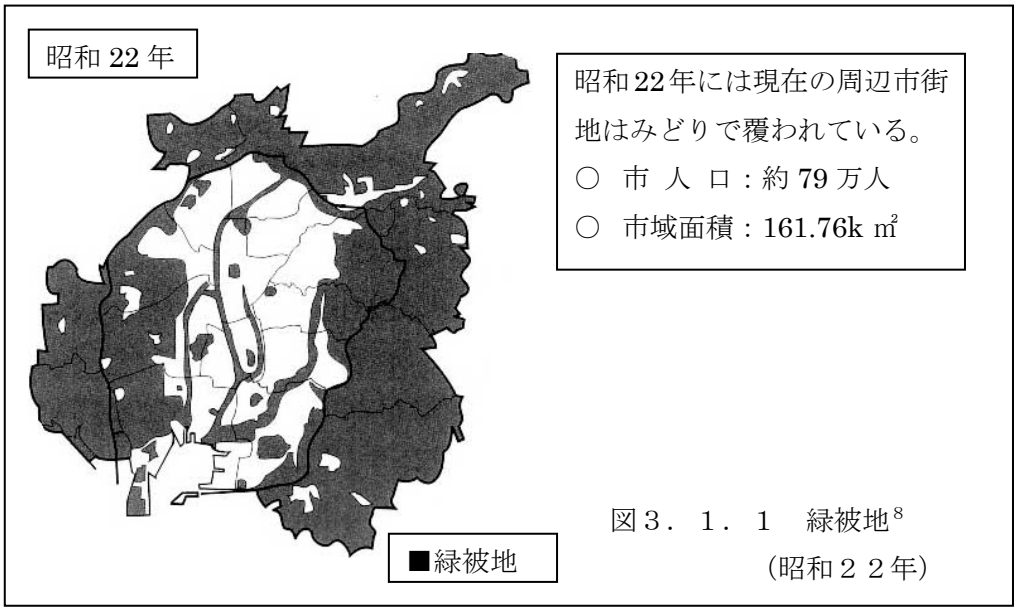


図３．１．１　緑被地[8]
（昭和２２年）

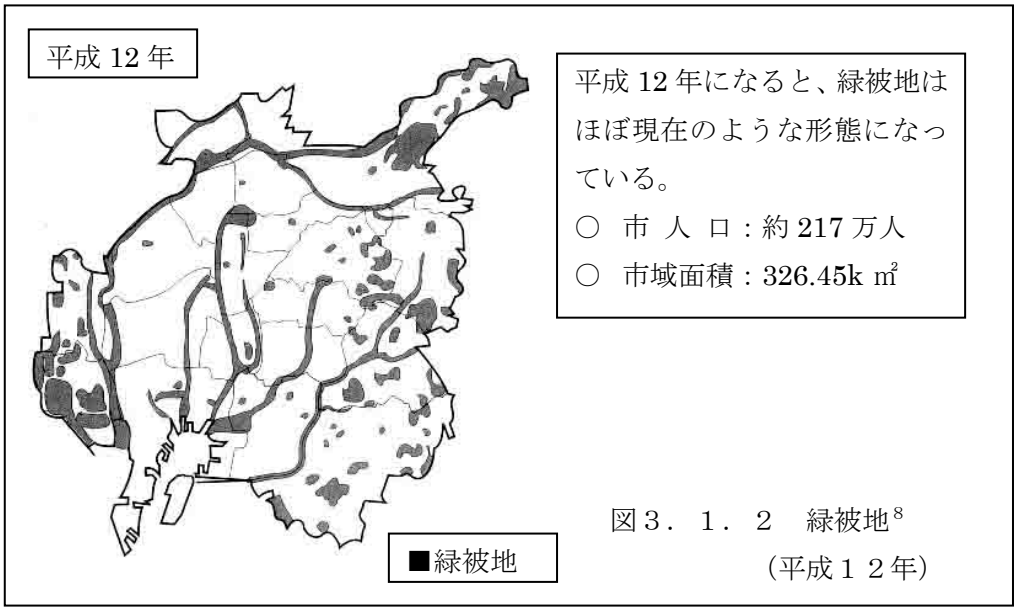


図３．１．２　緑被地[8]
（平成１２年）

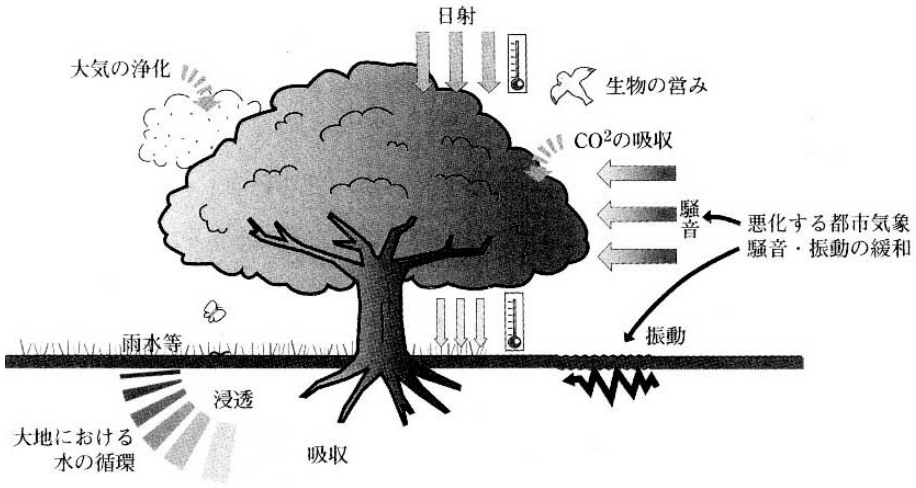
昭和２２年当時、名古屋に新たに編入された地域は殆んどがみどりに覆われていた。それから、都市化が進み、人口は１３８万人増加し、人々が暮らす面積は１６４．６９ｋ㎡増加（一部　海の埋立地を含む）し、それら地域のみどりが大幅に減少したと言える。

２０世紀は科学の発展の世紀、世界大戦が行われたことから破壊の世紀とも言われている。一方、これから私たちが生きていく２１世紀は、環境の世紀といわれている。自然、みどりの持っている役割や大切さについて改めて考え、次の世代の子供たちに引き継いでいかなければならない使命を持っている。

名古屋のみどりを増やしていくために欠かせないことは、一人一人が緑を大切にする心と行動であり、一人一人が「花・水・緑のまち名古屋」を創造するための担い手であることを自覚することである。下記に「みどりへの期待」を示す。

●みどりへの期待●[8]

ヒートアイランド現象の緩和、大気汚染対策としては、まとまった樹林である『森』を保全・育成することを始め、公園・緑地、街路樹、住宅地、工場などあらゆる場面でみどりを大きく育てていくことが求められています。特に、本市のように市街地の高密度化が進んでいる都市では、屋上・壁面など建築物自体の緑化も重要な課題となっているなど、冷房エネルギー等の節減と共に、間接的に二酸化炭素等の削減につながる環境緑化について一層の推進が期待されています。



出　　所：名古屋市みどりの基本計画
発 行 者：名古屋市

３．２　中川区・港区のみどりの現状

中川区の木は昭和６２年５月に「クロマツ」に制定されている。中川区の花は昭和６２年５月に「ハボタン」に制定されている。

港区の木は昭和６２年４月に「クスノキ」と「サザンカ」に制定されている。「クスノキ」、地理的に低湿地帯が多く、塩害、風害にも強く、成長が早く高木となるために選ばれた。

「サザンカ」は、区民の応募数が多く、常緑樹として家庭でも植栽ができ、花を長く楽しむことができることから選ばれた。港区の花は平成２年１０月に「ハイビスカス」に制定されている。

中川区は市の西南部に位置し、東西に約９．２ｋｍと長く南北には約３．５ｋｍと短い、やや短形をしており、面積は市域の約１割である３２．４k ㎡に達する大きな区である。地形は平坦な低地で大部分が沖積層である。中川区の名木は神社仏閣に多く点在している。中川区にある行雲寺のイブキは１９．５m、幹まわり２．４１m と大きく、大らかに枝を伸ばしている。こうした歴史を感じる巨木が点在するのが、中川区のみどりの特徴である。

港区は名古屋市の南西に位置し、面積４５．６７k ㎡と面積では１６区最大区である。そしてこの港区も中川区と同じく、平坦な土地で形成されている。港区の特徴としては、埋立地であるということである。そして、昭和３４年に起きた伊勢湾台風の被害を多大に受けた洪水ため、中川区のように昔からの巨木といったみどりが比較的少ないが、稲作を中心とした農業地帯へ復興した。しかし、港区特有のヤシの並木など港ならではの風景が見られる。

名古屋市緑政課によるディジタルマッピング手法による緑被率調査*の結果、中川区・港区の緑被率の変化を調査した。下の表は平成２年から平成１７年の北区、西区、中村区、中川区、そして港区の西部地域の緑被面積と緑被率を示したものである。ここで、緑被率とは、一般に樹林地、草地、農地など植物で覆われた土地（緑被地）の面積の、区域の全体面積に対する割合であり、名古屋市では樹木、草・芝等で被覆された土地、農地及び水面を緑被地として算出している。[8]

＊：緑被率調査は、緑被率の分析を行うために１５年間（平成２年、７年、１２年、１７年の４回）の緑被地の種別毎の増減、まとまり度等を調査する。そして、緑被率向上の可能性検討、ヒートアイランド現象の緩和という観点から熱映像データ（衛星画像）を用いて熱分布図を作成し、熱画像の解析を行い、重点対策エリアを抽出する。

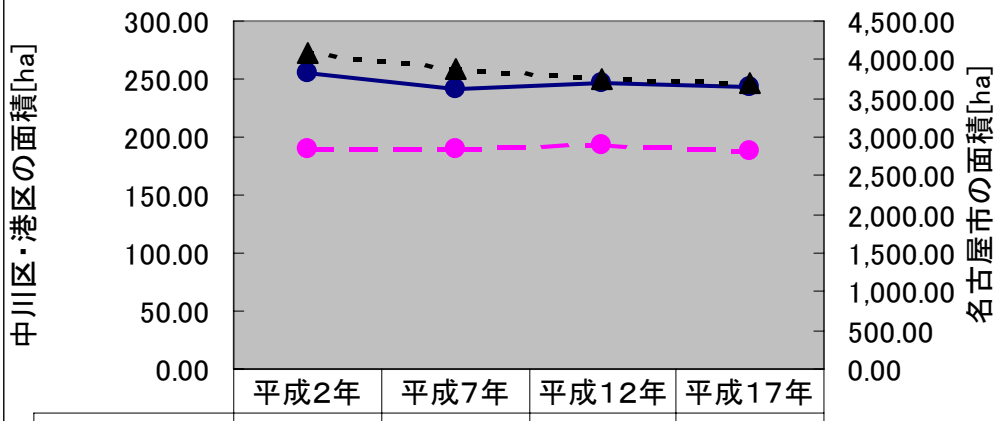
地域区分及び行政区	平成 2 年		平成 17 年		平成 2 年→平成 17 年	
	緑被面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被面積 (ha)	増減率 (%)
北区	445.79	25.4	379.38	21.6	▲66.41	▲3.8
西区	363.83	20.3	309.64	17.3	▲54.19	▲3.0
中村区	318.59	19.5	266.12	16.3	▲52.47	▲3.2
中川区	1043.91	32.6	796.04	24.9	▲247.87	▲7.7
港区	1470.66	32.3	1283.31	28.1	▲187.35	▲4.2
西部地域	3642.78	28.2	3034.49	23.4	▲608.29	▲4.7

この表によると、中川区は１５年間で緑被率が７．７％減少し、港区は４．２％減少している。比較した５区の中で減少率は中川区が一番高く、港区はその次に位置している。減少率が高いことから、都市緑化を心がけなければならないといえるだろう。

ただし、それぞれの区の特徴があるために、単純に全体の緑被率で比較するのではなく、樹木被覆地（高木、低木、竹林、街路樹高木、街路樹低木）、芝草地（芝地、草地）、農地（田、畑、果樹、その他）及び水面（河川、ため池）の個別毎の考察も必要である。

まずは、樹木被覆地（高木、低木、竹林、街路樹高木、街路樹低木）の推移を表２．１に示す。

表2．１　樹木被覆地の変化

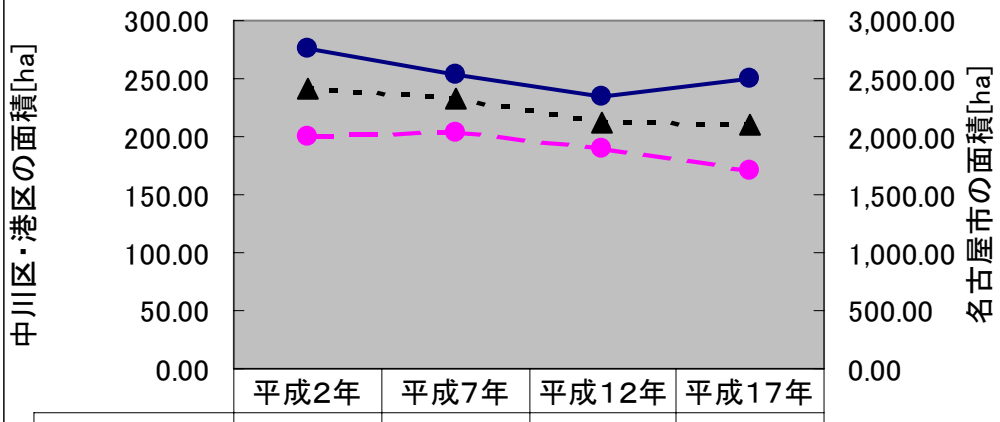


	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
中川区	189.23	189.45	192.35	188.67
港	254.83	241.65	246.11	243.22
合計	4,084.39	3,884.60	3,751.60	3,686.12

中川区は、ほぼ横這いである。港区も平成２年から平成７年の間は減少しているものの、それ以降は横這いとなっていることが特徴と言える。

次に、芝草地（芝地、草地）の推移を表２．２に示す。

表2．２　芝草地の変化

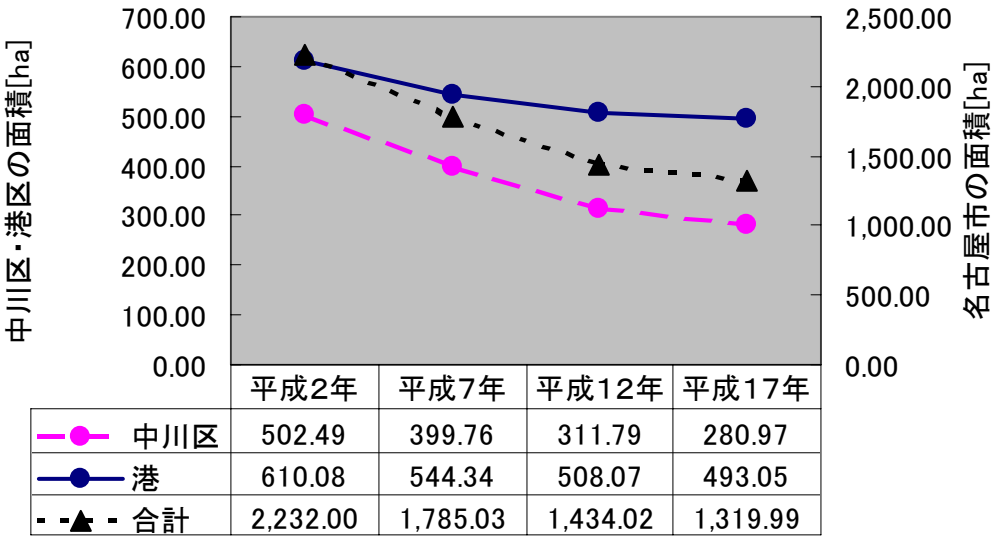


	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
中川区	200.78	203.92	189.90	170.45
港	275.28	253.82	235.19	249.50
合計	2,409.07	2,324.26	2,125.66	2,111.27

中川区は芝草地が減少している。港区は樹木被覆地と同様に減少してきているものの平成１７年には増加に転じている。

次に、農地（田、畑、果樹、その他）の推移を表２．３に示す。

表2．３　農地の変化

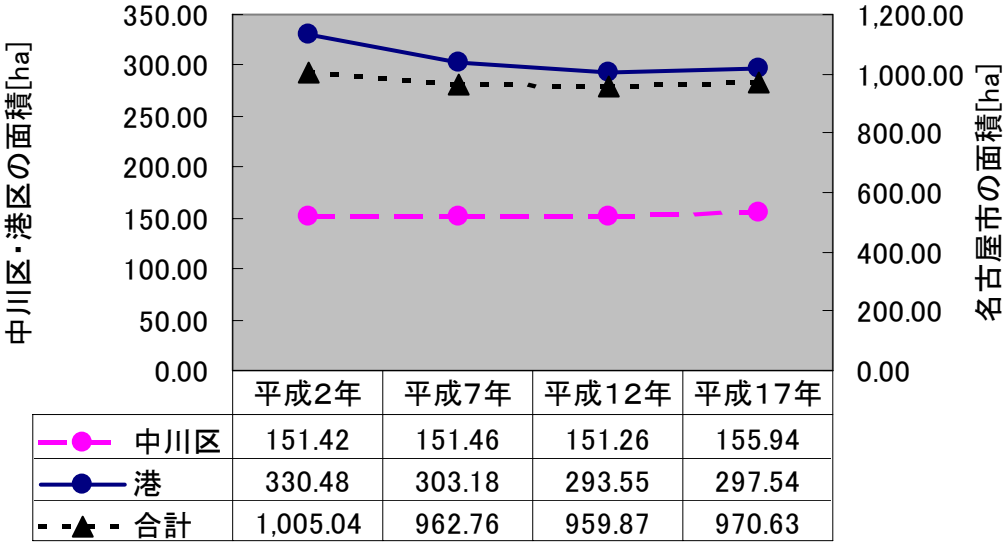


	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
中川区	502.49	399.76	311.79	280.97
港	610.08	544.34	508.07	493.05
合計	2,232.00	1,785.03	1,434.02	1,319.99

中川区・港区ともに農地は減少している。

最後が、水面（河川、ため池）の推移を表２．４に示す。

表2．４　水面の変化



	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
中川区	151.42	151.46	151.26	155.94
港	330.48	303.18	293.55	297.54
合計	1,005.04	962.76	959.87	970.63

中川区はほぼ横這いである。港区は平成１２年まで減少してきているものの、平成１７年には増加に転じている。

以上の特徴をまとめると下記のようになる。

中川区の特徴としては、以下の２点である。

◇樹林地、水面には殆ど変化はないが、芝草地が減少している上、農地が劇的に減少している。

◇ディジタルマッピング手法によると庄内川以西の地域で大きなみどりの減少が見られる。

港区の特徴としては、以下の３点である。

◇経年的変化は、樹林地、芝、草地、水面に大きな増減は見られないものの農地は確実に減少の一途を辿っている。

◇種別では、農地全般の減少及びため池の減少が顕著に見られる。

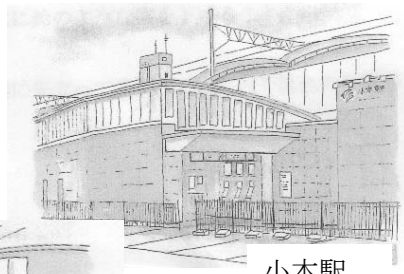
◇ディジタルマッピング手法によると北西部でみどりの減少が顕著に見られる。

３．３　あおなみ線沿いのみどりの現状[9、10、11]

あおなみ線沿いのみどりの現状については下記に示す。尚、下記の資料は『都心港をつなぐあおなみ線「ご利用ガイド」』[12]に掲載されている図を引用した。

・小本～荒子のみどり　２７頁
・荒子～南荒子のみどり　２８頁
・南荒子～中島のみどり　２９頁
・中島～名古屋競馬場前のみどり　３０頁
・名古屋競馬場前～荒子川公園のみどり　３１頁
・荒子川公園～稲永のみどり　３２頁
・稲永～野跡のみどり　３３頁
・野跡～金城ふ頭のみどり　３４頁

あおなみ線沿い
小本から
荒子のみどり



小本駅

荒子駅

●現状●

小本駅下車西方の路樹、中井筋緑道（中村区豊公橋から中川区昭和橋通まで５．６９ｋｍ）にクロガネモチが植樹。荒子駅下車西方の高畑緑道（中川区松葉公園から中川区荒子一丁目まで２．００ｋｍ）にツツジ･キンモクセイ･カイヅカイブキ･サザンカなどが植樹。あおなみ線沿い西側は南北にトウカエデ・プラタナス・セイヨウツゲ・アベリアなどが植樹。あおなみ線沿い東側にある中井筋緑道は南北にハナミズキ・カンツバキ・サザンカ・ナツツバキ・レンギョウなどが植樹。

JR セントラルタワーズ西口より乗車。
名古屋から金城ふ頭まで24分
都心とみなとをつなぐ
あおなみ線

名古屋

ささしまライブ

小　本

荒　子

いつでも
誰でも
手軽に
利用出来る！

・ハナミズキ
・　カンツバキ(ツバキ科)
　常緑樹、サザンカ、初秋から初冬にかけて清楚な花が咲く。

プラタナス（スズカケの木）
鈴掛けの木。落葉樹。秋に鈴のような実を下げる。

あおなみ線沿い
荒子から
南荒子のみどり

南荒子駅

●現状●

東側・・・土手が続いている。中井筋緑道にアベリア・ハナミズキ・カンツバキが植樹。

西側・・・中川図書館・中川文化小劇場などの建物がある。南へ向かうと山塩緑道（中川区若山町から中川区大塩町まで０．６８ｋｍ）に続く。あおなみ線各駅の距離間で一番短い距離。トウカエデ・セイヨウツゲ・アベリア他の樹木が植樹。南荒子駅周辺は緑道があり、憩いの場となっているが、腰を掛けるスペースが少ない。

☆あおなみ線の車窓から☆

東側はＪＲ貨物があり、土手がある。西側は名古屋四大観音の一つ、中川区の歴史と文化の象徴である荒子観音がある。古い時代を思い、タイムスリップなどしてみてはどうか。山塩緑道のボリュームある樹木が美しい。

荒子観音[1][2]

名古屋市内最古の木造建造物で重要文化財に指定されている多宝塔がある。

荒子城址「冨士権現天満宮」[1][2]

荒　子

南荒子

山塩緑道

・アベリア

・トウカエデなど。

・カンツバキ

・ハナミズキ(アメリカヤマボウシ)
春、葉に先立って咲く花、秋に色づく赤や黄色の葉は美しい。花が白・紅色・桃色の品種がある。

あおなみ線沿い
南荒子から
中島のみどり

中島駅

●現状●

南荒子駅を中心として緑豊かな山塩緑道がつづいている。東側に土手がつづいている。中井筋緑道の整備された道にはハナミズキ・アベリア・ユキヤナギが植樹してある。

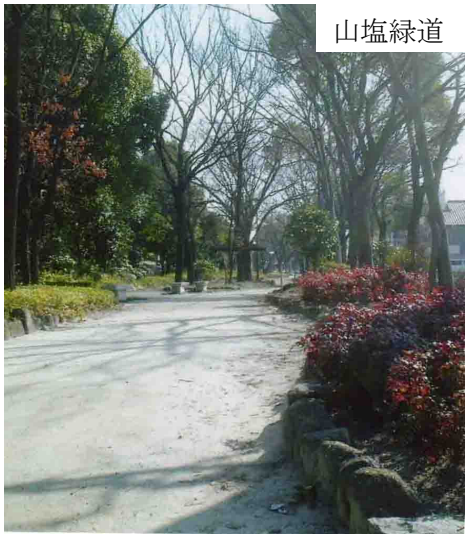
☆あおなみ線の車窓から☆

東側　……　ＪＲの貨物。

西側　……　山塩緑道のボリュームある樹木が目を和ませる。山塩緑道は緑が多く楽しい道である。

自転車で
通学･通勤

南荒子



山塩緑道

住宅地

・ハナミズキ
・ユキヤナギ(バラ科)
早春を代表する花木。長くたれた枝に雪のように白い花をびっしり付ける。

中　島

アベリア・カンツバキ・トウカエデ・ウメ・クロガネモチなど。

あおなみ線沿い
中島から
名古屋競馬場前のみどり

名古屋競馬場前駅

●現状●

中島駅南側に沿う国道１号線を横切る。
あおなみ線東側は歩道が広いため、ナンキンハゼの樹木と低木のツツジが植樹してある。
東側は名古屋競馬場前に続く緑が多い道が約２.３km 続いている。

☆あおなみ線の車窓から☆

東側　……　名古屋競馬場前駅より北に緑が多い道が続いている。歩道が整備され、ナンキンハゼ・ヒラドツツジの木々が見える。

西側　……　ナンキンハゼの樹木が整然と植樹されている。

中　島

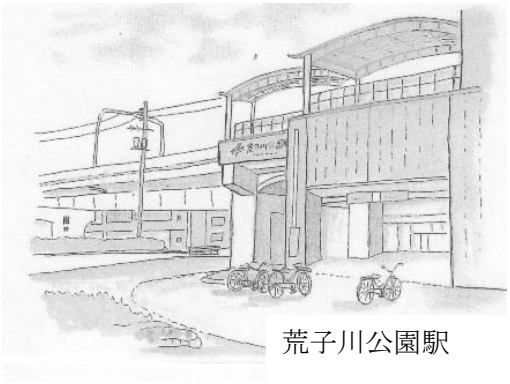
緑が多い道

・ヒラドツツジ
・ナンキンハゼ(ドウダイグサ科)
落葉高木。中国原産、夏、黄色い小花を付ける。紅葉が美しい。

名古屋競馬場前

小碓緑道の西側に正徳公園。
花壇にパンジー・ビオラ。

あおなみ線沿い
名古屋競馬場前から
荒子川公園のみどり



荒子川公園駅

●現状●

荒子川公園駅下車すぐに面積約２６．１０haの総合公園、荒子川公園がある。荒子川ガーデンプラザを中心に運動広場、テニスコート、多目的広場、サンクガーデン、日本庭園、わんぱく冒険広場、デイキャンプ、ミニスポーツ広場、ラベンダー園、野外学習園、樹木園、望みの丘、荒子川パークブリッジなど多種多様な施設がある。

☆あおなみ線の車窓から☆

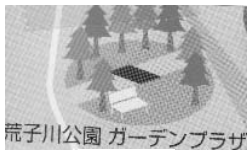
東側　……　新泰明荘の団地より、アベリア・キョウチクトウに囲まれた名古屋競馬場の芝生が見える。

西側　……　荒子川公園の春は桜が荒子川に咲き誇る。６月のラベンダーフェアには３種類５，０００株のラベンダーが咲き、かぐわしい香りが漂う。

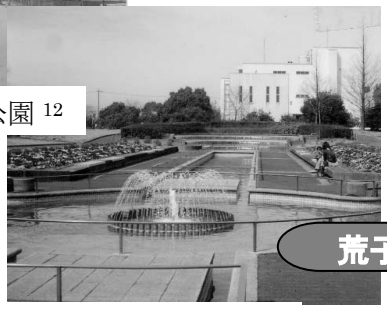
西側の道に自転車道がある。

名古屋競馬場前

名古屋競馬場付近



荒子川公園 12



荒子川公園

花壇

パンジー・ビオラ・ノース

ポールなど。

荒子川公園駅前

・ラベンダー(シソ科)

半大木性植物。６月枝先に淡紫色の花穂を付ける。花からラベンダー油をとり、香料となる。

あおなみ線沿い
荒子川公園から
稲永のみどり

稲永駅

●現状●

名古屋都市景観賞、建設省の手作り郷土賞に入賞したフェニックスアイランドがある。フェニックスアイランドのワシントンヤシは、姉妹都市ロサンゼルスから種を送られて育成した。稲永駅を中心に面積１．８５ha ある十一屋川緑地がある。その東側には荒子川を越えると面積２．２０ha ある中之島川緑地がある。十一屋川緑地にはケヤキ、クロマツ、トウカエデ、サクラなどの樹木が植樹されている。面積０．０５７３ha ある稲永街園には港区の名木カナリーヤシがある。

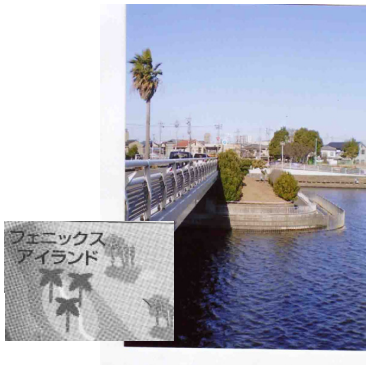
☆あおなみ線の車窓から☆

東側　……　荒子川公園から国道２３号線を交差して、フェニックスブリッジがあり、中央にはフェニックスアイランドがある。

西側　……　工場地帯をへて、荒子川公園内にあるパークブリッジが見える。

桜並木の荒子川緑道

荒子川公園



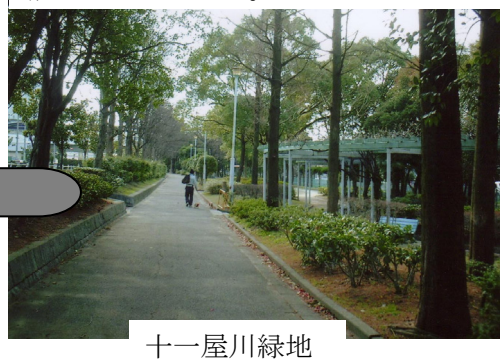
フェニックスアイランド[12]

長さ：１５０m。

幅：３５～４０m。

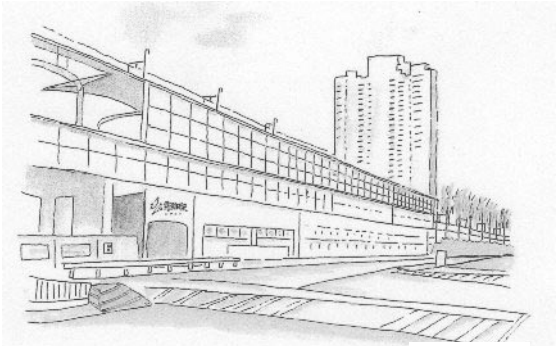
十一屋川緑地

稲　永


十一屋川緑地

ケヤキ、トウカエデ、クロマツ、サクラなど。

あおなみ線沿い
稲永から
野跡のみどり



野跡駅

●現状●

野跡駅西方に面積３１．３６ha の稲永公園がある。野球場、サッカー場、テニスコート、稲永スポーツセンター、球技場など総合スポーツ施設がある。ラムサール条約湿地の藤前干潟が眺められる。名古屋市野鳥観察館・藤前干潟モニュメント・稲永ビジターセンターがある。稲永公園には紅葉するトウカエデの並木や、黄色が目映いイチョウ並木がある。面積１１．２４ha の稲永東公園は、公園内に港が見える丘がある。

☆あおなみ線の車窓から☆

東側　……　名古屋港を眺めながら潮凪(しおどめ)ふ頭、稲永ふ頭の倉庫地帯がある。
　　中央分離帯に南国の木、ワシントンヤシが植樹されている。

西側　……　稲永公園と稲永東公園（婦人の森もある）がある。

稲永公園
藤前干潟が眺められるクロマツの松林、芝生がる。

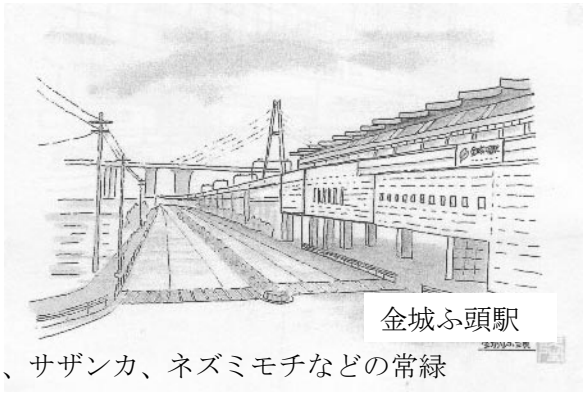
稲永東公園内にある婦人の森にはケヤキ・クロマツ・サルスベリ・ツバキ・ネムノキなど２０００本植樹されている。

稲永

野跡

中央分離帯にあるワシントンヤシ

あおなみ線沿い
野跡から
金城ふ頭のみどり


金城ふ頭駅

●現状●

金城ふ頭中央緑地は計画面積９ha（現在７．４ha）に及ぶ緑地がある。中央緑地にはクスノキ、シイノキ、サザンカ、ネズミモチなどの常緑樹が植えてある。緑地内には芝生広場、ロサンゼルス港記念広場、噴水広場がある。広場を仕切りで囲ったドックランや名古屋国際展示場(ポートメッセなごや)、結婚式場アンジェローブがある。

☆あおなみ線の車窓から☆

東側　……　メキシコ大通の分離帯にワシントンヤシが植樹してある。港と伊勢湾岸自動車道が通る名港西大橋（名港トリトン）が見える。

西側　……　自動車を運送するための船が、巨大なカープールの近くに停泊している。

１２

西大橋とあおなみ線が眺める。

１２

野　跡

高架から港の眺めが楽しめます！！

ドックラン

中央緑地

金城ふ頭

- ●南京大路・ロサンゼルス大通り
- ●中国南京より寄贈の麒麟像
- ●真実の口のレプリカ
- ●メキシコ合衆国から寄贈されたトゥーラ戦士像がある

３．４　保存樹

保存樹は「都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律（昭和３７年５月１８日法律第１４２号)」に基づくものと地域で親しまれてきた老木や名木、あるいは良好な自然環境を残す樹林などを、区市町村の条例等により、指定し保存するものに分けられている。平成１６年度末現在　法律に基づくものが、全国３８都市において保存樹は４，４６４本、保存樹林は２９２件でその面積は８０ｈａ、生垣等は５２件で２，６５３ｍとなっている。一方、条例に基づくものが、全国３７３都市において保存樹が６９，３０１本、保存樹林が８，５７７件で面積は４，４７８ｈａ（面積把握をしていないものを除く)、生垣等は５，８４４件で延長２２３，８２９ｍ（延長不明なものを除く）となっている。

名古屋市では、名古屋市緑化推進条例に基づき（財）名古屋市みどりの協会緑化普及課にて指定管理されている。その指定の基準は以下のようになっている。

1）樹木については、次のいずれかに該当し、健全で、かつ、樹容が美観上特にすぐれていること。

イ）１．５ｍの高さにおける幹の周囲が１．３ｍ以上であること。

ロ）高さが１５ｍ以上であること。

ハ）株立ちした樹木で、高さが３ｍ以上であること。

ニ）攀登性樹木で、枝葉の面積が３０平方メートル以上であること。

中川区が１０６本、港区が１６本である。また、中川区と港区の保存樹の種類別の本数、比率、平均の幹周りの太さ［m］、平均の樹高［m］を表４に示す。クスノキが最も多く、次いでイチョウである。また、海岸線に近いこともあってクロマツも多い。

次に中川区・港区の保存樹の分布を図４．１に示す。現地調査を行って写真にて紹介した保存樹については図中に番号を示した。既に述べたが、伊勢湾台風の影響もあって北側の地域に多く残り、南側の伊勢湾台風時に長期間冠水した地域では殆ど残っていない。また、保存樹は公園よりは神社等に残る老木や銘木が多く、古くから地域住民の心の支えとなっていたと考えられる。

表４　中川区と港区の保存樹の特徴

樹種	本数	比率	幹周り [m]	樹高 [m]
クスノキ	51	41.8%	2.42	16.2
イチョウ	21	17.2%	1.97	16.5
クロマツ	14	11.5%	1.97	14.9
クロガネモチ	9	7.4%	1.58	12.2
タブノキ	7	5.7%	2.34	17.9
イブキ	5	4.1%	2.49	14.0
ケヤキ	4	3.3%	2.37	19.8
エノキ	3	2.5%	2.76	15.7
ムクノキ	3	2.5%	2.56	17.0
ツツヅ	1	0.8%	0.00	1.1
アキニレ	1	0.8%	2.44	16.0
シダレヤナギ	1	0.8%	2.40	8.0
ゴヨウマツ	1	0.8%	1.80	12.0
ソメイヨシノ	1	0.8%	1.67	8.0
合計	122			

名古屋市緑化センターにて入手した各保存樹のデータより加工。

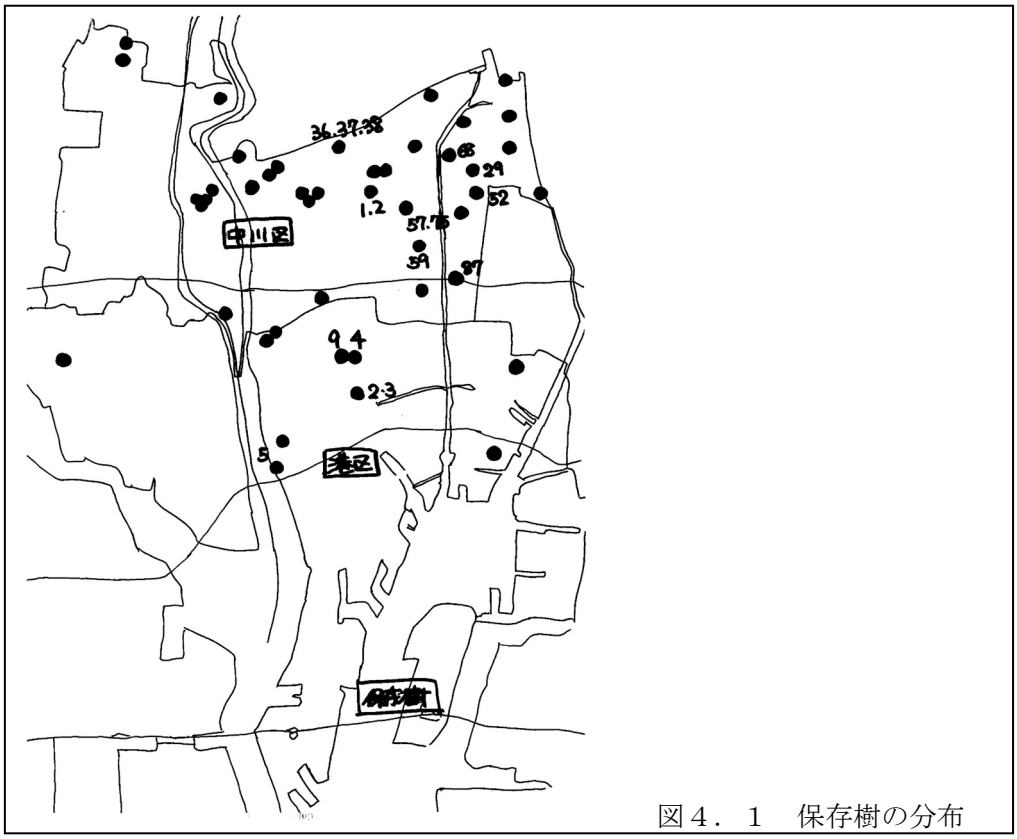


図４．１　保存樹の分布

保存樹のリスト（名古屋緑化センターより入手）を以下に示す。

	No	樹種	幹周り	樹高	所在地	寺社名等	指定日
港	2	クスノキ	3.02	15	港区寛政町六丁目1-2	二名社	S50.2.15
港	3	クスノキ	2.55	15	港区寛政町六丁目1-2	二名社	S50.2.15
港	19	ソメイヨシノ	1.67	8	港区港明一丁目3番13号	八幡神社	H10.5.21
港	18	イブキ	3.10	8	港区西福田四丁目1208番地	浄恩寺	S54.3.9
港	12	クスノキ	2.35	16	港区千鳥一丁目9-14	築地神社	S53.3.6
港	13	イチョウ	1.80	13	港区千鳥一丁目9-14	築地神社	S53.3.6
港	14	クスノキ	2.50	15	港区千鳥一丁目9-14	築地神社	S53.3.6
港	15	クスノキ	2.84	17	港区千鳥一丁目9-14	築地神社	S53.3.6
港	16	クスノキ	2.53	17	港区千鳥一丁目9-14	築地神社	S53.3.6
港	17	クスノキ	3.05	17	港区千鳥一丁目9-14	築地神社	S53.3.6
港	8	ツツジ	株立ち	1.1	港区多加良浦町五丁目25	下里金一	H5.3.31
港	4	ムクノキ	3.04	17	港区土古町3-20	(宗)八劔社	S50.2.15
港	9	イチョウ	2.40	15	港区入場1-119	秋葉神社	S51.3.30
港	5	クスノキ	2.40	18	港区宝神町字会所裏713	(宗)熱田社	S50.2.15
港	6	クロガネモチ	1.92	10	港区明正1-98	三十一神明社	S50.2.15
港	11	クロマツ	2.02	12	港区明正2-37		S51.3.30
中川	11	クスノキ	2.58	17	中川区愛知町21-11	神明社	S50.2.15
中川	12	クスノキ	3.50	18	中川区愛知町21-11	神明社	S50.2.15
中川	13	クスノキ	2.80	18	中川区愛知町21-11	神明社	S50.2.15
中川	104	クスノキ	1.76	15	中川区愛知町21-11	神明社	H12.7.14
中川	105	クスノキ	2.28	18	中川区愛知町21-11	神明祉	H12.7.14

中川	106	クスノキ	2.17	18	中川区愛知町21-11	神明社	H12.7.14
中川	69	クスノキ	2.38	15	中川区愛知町41-19	(宗)善行寺	S54.3.9
中川	70	クロガネモチ	-	13	中川区愛知町41-19	(宗)善行寺	S54.3.9
中川	23	イチョウ	1.71	10	中川区下之一色町字南ノ切20	浅間社	S50.2.15
中川	24	シダレヤナギ	2.40	8	中川区下之一色町字南ノ切20	浅間社	S50.2.15
中川	25	イチョウ	-	13	中川区下之一色町字南ノ切20	浅間社	S50.2.15
中川	26	クスノキ	2.37	17	中川区下之一色町字南ノ切20	浅間社	S50.2.15
中川	27	イチョウ	2.34	12	中川区下之一色町字南ノ切20	浅聞祉	S50.2.15
中川	28	クスノキ	2.04	15	中川区下之一色町字南ノ切20	浅間社	S50.2.15
中川	72	クスノキ	2.94	15	中川区笈瀬町一丁目14	笈瀬広川神明社	H9.4.28
中川	77	クスノキ	1.68	12	中川区笈瀬町一丁目14	笈瀬広川神明社	H9.4.28
中川	52	ムクノキ	2.98	16	中川区牛立町2-1	牛立八幡社	S52.3.15
中川	78	クスノキ	1.84	12	中川区牛立町2-1	牛立八幡社	S55.3.11
中川	79	クスノキ	1.89	12	中川区牛立町2-1	牛立八幡社	S55.3.11
中川	80	ケヤキ	1.66	16	中川区牛立町2-1	牛立八幡社	S55.3.11
中川	81	クスノキ	2.29	15	中川区牛立町2-1	牛立八幡社	S55.3.11
中川	60	イチョウ	2.36	20	中川区元中野町2-96	(宗)長圓寺	S53.3.6
中川	21	ケヤキ	2.34	15	中川区元中野町二丁目632	神明社	S50.2.15
中川	22	イチョウ	3.60	20	中川区元中野町二丁目632	神明社	S50.2.15
中川	29	クスノキ	2.46	15	中川区五女子町3-34	(宗)八劔社	S51.3.30
中川	3	エノキ	2.23	16	中川区高畑3-29	(宗)盛福寺	S54.3.9
中川	88	クスノキ	3.02	18	中川区山王三丁目12	露橋神明社	H9.4.28
中川	89	クスノキ	2.55	18	中川区山王三丁目12	露橋神明社	H9.4.28
中川	90	クスノキ	2.59	18	中川区山王三丁目12	露橋神明社	H9.4.28
中川	91	クスノキ	3.13	18	中川区山王三丁目12	露橋神明社	H9.4.28
中川	92	クスノキ	2.28	16	中川区山王三丁目12	露橋神明社	H9.4.28
中川	93	クスノキ	-	18	中川区山王三丁目12	露橋神明社	H9.4.28
中川	10	イチョウ	2.52	18	中川区助光1-106	土之宮神明社	S49.3.15
中川	14	ケヤキ	2.82	21	中川区助光1-204	二村章	S50.2.15
中川	4	イブキ	2.36	15	中川区助光一丁目101	(宗)称円寺	S49.3.15
中川	1	タブノキ	2.66	18	中川区小塚町11	若宮八幡社	S49.3.15
中川	2	イチョウ	2.73	21	中川区小塚町11	若宮八幡社	S49.3.15
中川	30	イチョウ	2.18	18	中川区小塚町11	若宮八幡社	S51.3.30
中川	31	タブノキ	1.95	18	中川区小塚町11	若宮八幡社	S51.3.30
中川	9	イチョウ	2.65	20	中川区小本本町3-12	山田敏行	S49.3.15
中川	40	イチョウ	2.13	18	中川区小本本町3-17	西生寺	S51.3.30
中川	41	イブキ	2.10	16	中川区小本本町3-17	西生寺	S51.3.30
中川	42	イチョウ	2.01	18	中川区小本本町3-17	西生寺	S51.9.30
中川	86	イチョウ	-	-	中川区小本本町3-66	浅井俊松	S55.3.11
中川	73	クスノキ	2.42	15	中川区松年町1-50	知立神社	S54.3.9
中川	74	クスノキ	2.71	15	中川区松年町1-50	知立神社	S54.3.9
中川	94	クスノキ	2.65	19	中川区西日置1丁目7-10	鹽竈神社	H9.7.15
中川	95	クスノキ	3.01	20	中川区西日置1丁目7-10	鹽竈神社	H9.7.15
中川	96	クロガネモチ	1.42	6	中川区西日置1丁目7-10	鹽竈神社	H9.7.15
中川	97	イチョウ	1.82	19	中川区西日置1丁目7-10	鹽竈神社	H9.7.15
中川	98	イチョウ	1.43	19	中川区西日置1丁目7-10	鹽竈神社	H9.7.15
中川	99	イチョウ	1.92	19	中川区西日置1丁目7-10	鹽竈神社	H9.7.15

中川	100	イチョウ	1.93	19	中川区西日置1丁目7-10	鹽竈神社	H9.7.15
中川	101	イチョウ	1.75	19	中川区西日置1丁目7-10	鹽竈神社	H9.7.15
中川	102	イチョウ	1.61	19	中川区西日置1丁目7-10	鹽竈神社	H9.7.15
中川	15	イチョウ	2.44	16	中川区川前町170	(宗)白山社	S50.2.15
中川	16	クスノキ	3.04	20	中川区川前町170	(宗)白山社	S50.2.15
中川	18	エノキ	2.50	13	中川区川前町170	(宗)白山社	S50.2.15
中川	19	クスノキ	2.61	20	中川区川前町170	(宗)白山社	S50.2.15
中川	20	タブノキ	2.54	16	中川区川前町170	(宗)白山社	S50.2.15
中川	76	イブキ	2.30	10	中川区前田西町1-902	(宗)圓盛寺	S55.3.11
中川	54	クスノキ	2.21	17	中川区太平通3-10	篠原八幡社	S52.3.15
中川	55	クスノキ	2.38	15	中川区太平通3-10	篠原八幡社	S52.3.15
中川	56	クスノキ	2.32	15	中川区太平通3-10	篠原八幡社	H12.7.14
中川	57	クスノキ	2.16	15	中川区太平通3-10	篠原八幡社	S52.3.15
中川	75	クスノキ	1.83	15	中川区太平通3-10	篠原八幡社	H12.7.14
中川	65	イブキ	2.57	21	中川区大字千音寺2484	(宗)行雲寺	S53.3.6
中川	66	ケヤキ	2.66	27	中川区大字千音寺2484	(宗)行雲寺	S53.3.6
中川	32	クスノキ	2.31	17	中川区中郷1-11	(宗)宝珠院	S51.3.30
中川	34	ゴヨウマツ	1.80	12	中川区中郷1-11	(宗)宝珠院	S51.3.30
中川	84	クスノキ	2.25	13	中川区中郷1-11	(宗)宝珠院	S55.3.11
中川	85	クロガネモチ	1.59	7	中川区中郷1-11	(宗)宝珠院	S55.3.11
中川	82	クロガネモチ	1.23	11	中川区中郷1-67	(宗)光明院	S55.3.11
中川	83	クロマツ	1.81	11	中川区中郷1-67	(宗)光明院	S55.3.11
中川	6	クロマツ	3.23	15	中川区中島新町4-1201	空雲寺	S49.3.15
中川	7	エノキ	3.55	18	中川区長良町4-129	八劔社	S49.3.15
中川	47	クロガネモチ	2.21	15	中川区長良町4-129	八劔社	S51.9.30
中川	48	クスノキ	2.16	18	中川区長良町4-129	八劔社	S51.9.30
中川	49	クスノキ	2.19	20	中川区長良町4-129	八劔社	S51.9.30
中川	50	タブノキ	2.33	20	中川区長良町4-129	八劔社	S51.9.30
中川	67	クスノキ	2.43	16	中川区二女子町3-26	(宗)熊野神社	S54.3.9
中川	68	クロガネモチ	1.84	13	中川区二女子町3-26	(宗)熊野神社	S54.3.9
中川	58	クスノキ	3.80	15	中川区八家町1-127	(宗)神明社	S53.3.6
中川	59	クロマツ	2.47	14	中川区八家町1-127	(宗)神明社	S53.3.6
中川	71	クロマツ	1.82	13	中川区八剣町4-69	八劔社	S54.3.9
中川	87	クロマツ	2.05	15	中川区八剣町4-69	八劔社	S56.3.17
中川	35	クスノキ	2.84	13	中川区尾頭橋四丁目2-3	西古渡神社	S51.3.30
中川	61	クロマツ	2.10	17	中川区富田町大字千音寺字稲屋4157	(宗)七所神社	S53.3.6
中川	63	クロガネモチ	2.00	17	中川区富田町大字千音寺字稲屋4157	(宗)七所神社	S53.3.6
中川	62	クロマツ	2.20	25	中川区富田町大字千音寺手稲屋4157	(宗)七所神社	S53.3.6
中川	64	クロマツ	2.00	21	中川区富田町大字千音寺手稲屋4157	(宗)七所神社	S53.3.6
中川	8	タブノキ	2.53	17	中川区万場二丁目719	(宗)国玉神社	S49.3.15
中川	36	クロガネモチ	2.02	18	中川区万町2408	(宗)神明社	S51.3.30
中川	37	タブノキ	2.29	18	中川区万町2408	(宗)神明社	S51.3.30
中川	38	タブノキ	2.06	18	中川区万町2408	(宗)神明社	S51.3.30
中川	39	ムクノキ	1.67	18	中川区万町2408	(宗)神明社	S51.3.30
中川	17	クロマツ	1.58	14	中川区野田3-187	(宗)龍潭寺	H7.3.31
中川	43	クロマツ	1.65	17	中川区野田3-187	(宗)龍潭寺	S51.9.30
中川	44	クロマツ	2.05	17	中川区野田3-187	(宗)龍潭寺	S51.9.30

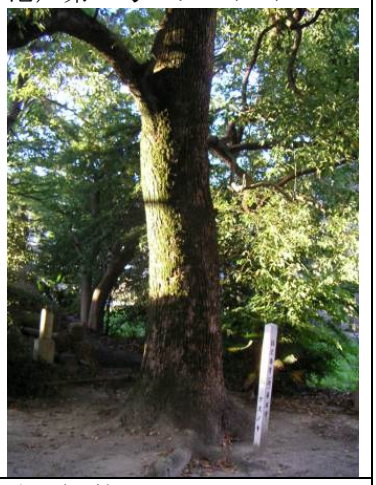
中川	45	クロマツ	1.31	12	中川区野田3-187	(宗)龍潭寺	H7.3.31
中川	46	クスノキ	2.08	18	中川区野田3-187	(宗)龍潭寺	S51.9.30
中川	5	アキニレ	2.44	16	中川区野田二丁目	三狐神社	S49.3.15
中川	103	クロマツ	1.34	6	中川区野田二丁目224	久田忠	H9.11.10
中川	33	クスノキ	1.69	13	中川区柳川町701	(宗)須佐之男社	H6.8.2
中川	51	クスノキ	2.35	14	中川区柳川町701	(宗)須佐之男社	H6.8.2
中川	53	クスノキ	2.27	14	中川区柳川町701	(宗)須佐之男社	H6.8.2

以下に現地調査を行った保存樹を示す。台風や雷等の天災により倒れたり、消失することは仕方がないことであるが、中川区の万町神明社のクロガネモチとタブノキのように切断されているのを見ると、地域との共生について考えさせられる。

港）第２号：クスノキ（右）
港）第３号：クスノキ（左）

港）第４号：ムクノキ

港）第５号：クスノキ



港）第９号：イチョウ

中川）第１号：タブノキ

中川）第２号：イチョウ

中川）第２９号：クスノキ

中川）第５７号：クスノキ

中川）第７５号：クスノキ

中川）第５２号：ムクノキ

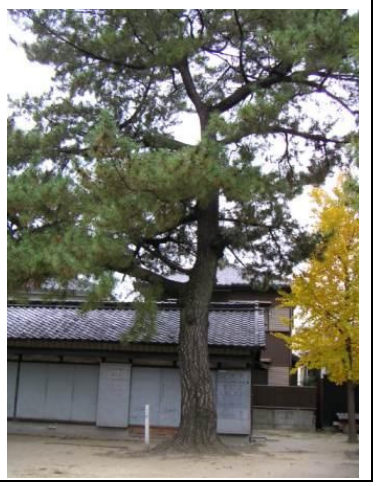
中川）第８７号：クロマツ

中川）第６８号：ｸﾛｶﾞﾈﾓﾁ

中川）第３６号：ｸﾛｶﾞﾈﾓﾁ

中川）第３７号：タブノキ
中川）第３８号：タブノキ

中川）第５９号：クロマツ



４　公園

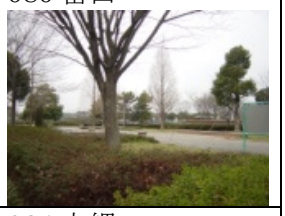
３　みどり・はなと関連させて公園を取り上げた。

中川区には、昭和１２年度開園の松蔭公園から平成１８年度開園の新家第三公園まで１５９公園ある。横堀公園・露橋一丁目・０．０５ｈａ・昭和５８年度開園から富田公園・富田町大字服部字鵜の首　他・４．４７ｈａ・平成７年度開園がある。これらを全調査・全撮影したので、中川区公園配置図と共に掲示した。

001 外丸田	002 四畝	003 乗江	004 松蔭
005 法華西	006 丸池	007 荒子	008 山塩緑道
009 中須	010 打出第二	011 打出第一	012 東前田第二
013 東前田第三	014 野田	015 柳田	016 茨塚
017 梓ノ木	018 寺脇	019 高畑	020 八田

021 寺起	022 堂東	023 中郷	024 法華
025 正色	026 波花	027 南川田	028 郷中
029 大当郎	030 三日月	031 助光	032 西前田
033 梅木須	034 本藪	035 北堤	036 下之島
037 御屋敷	038 伏屋	039 登	040 上之島
041 長須賀	042 長須賀北	043 長須賀南	044 御山戸
045 西塩田	046 宮北	047 万町	048 柳森

049 角出 	050 蓮池 	051 吉良第二 	052 屋敷地
053 小本西 	054 中島中央 	055 天水 	056 河原
057 寺山 	058 下之城 	059 越宮 	060 八幡中央
061 牛立 	062 昭和橋 	063 江松中 	064 東並
065 江松北 	066 刎畑 	067 外浦 	068 北宮
069 西台 	070 若松 	071 古苗代 	072 藤西
073 長堀 	074 一色 	075 吉津 	076 川西

077 松下 	078 若宮 	079 中ノ通 	080 富田 
081 前波 	082 はとり 	083 七反田 	084 大縄
085 嶋井 	086 出口 	087 郷内 	088 万場川東
089 松重閘門 	090 西日置 	091 西日置第二 	092 東出
093 柳堀 	094 広見 	095 横堀 	096 西宮
097 露橋 	098 八島 	099 柳島 	100 八熊
101 小山 	102 尾畑 	103 西渡第二 	104 西古渡

105 尾頭橋 	106 八幡南 	107 八幡 	108 山王
109 長町 	110 尾頭橋東 	111 柳川 	112 西川田
113 北堤緑地 	114 新家第三 	115 新家第二 	116 水落
117 近内 	118 下之田 	119 供米田 	120 直会
121 庄田 	122 替元 	123 中蔵 	124 新家
125 川原田 	126 中流 	127 戸田ゆたか 	128 土坪
129 千音寺 	130 北畑 	131 万場 	132 万場大橋緑地

133 横井橋緑地 	134 東前田第一 	135 法華北 	136 高杉
137 畑田 	138 東中島 	139 東畑 	140 的場
141 船入 	142 権現 	143 細米 	144 松葉
145 愛知 	146 八家 	147 北江 	148 小碓緑道
149 昭明 	150 八劔 	151 外新町 	152 花塚
153 荒越 	154 荒越北 	155 荒江 	156 荒江南
157 荒江北 	158 二女子第一 	159 二女子第二 	

中川区の都市公園

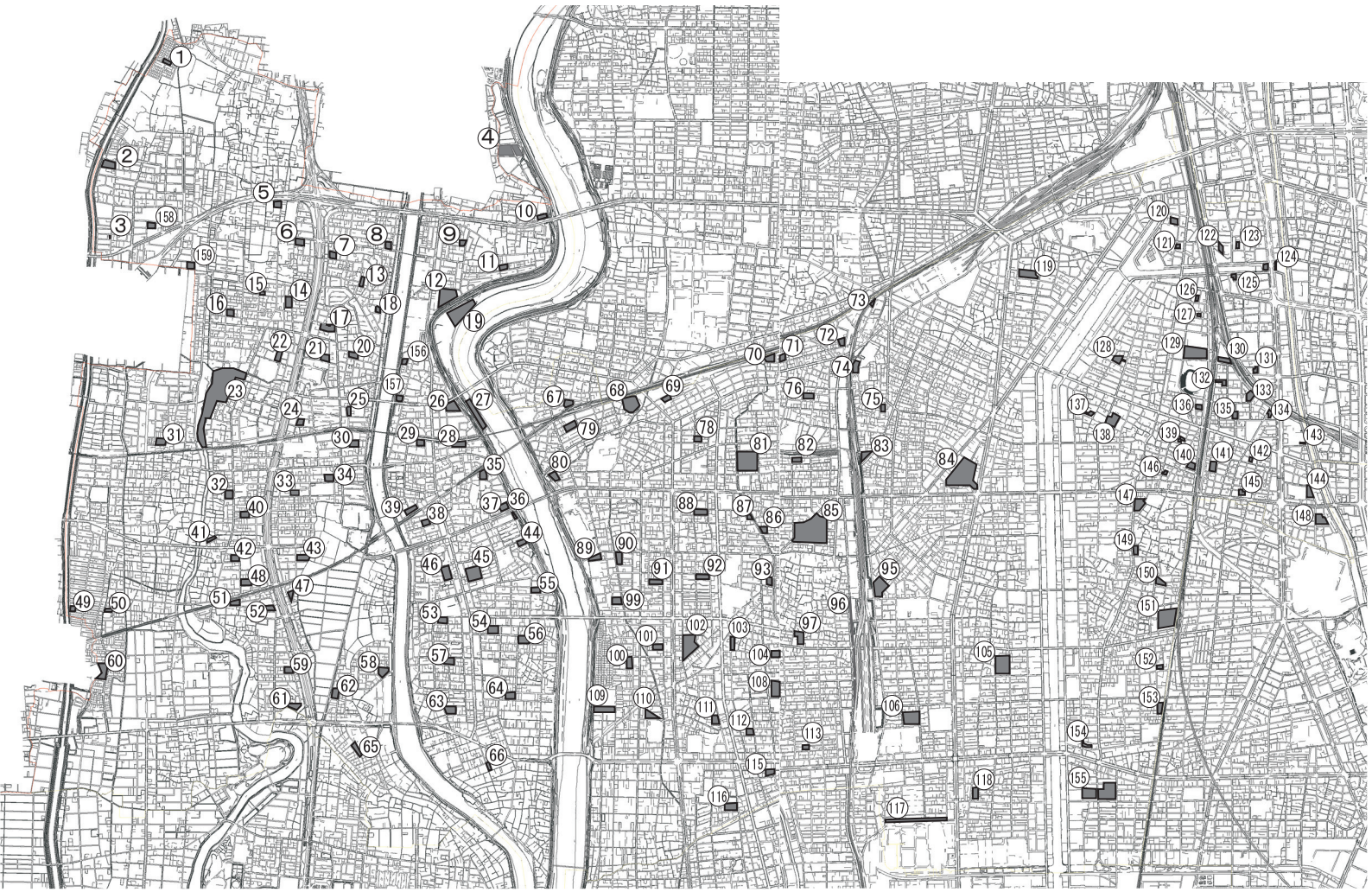


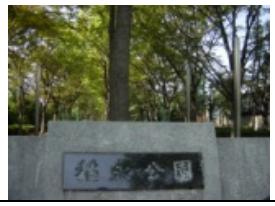
表　中川区の都市公園の名称

No	名称	No	名称	No	名称	No	名称	No	名称	No	名称
1	千音寺公園	31	中蔵公園	61	四畝公園	91	御山戸公園	121	柳堀公園	151	荒越公園
2	川原田公園	32	替元公園	62	東並公園	92	中郷公園	122	西日置公園	152	花塚公園
3	新家公園	33	北宮公園	63	浪花公園	93	寺起公園	123	西日置第二公園	153	外新町公園
4	万場公園	34	西金公園	64	南川田公園	94	権現公園	124	松重閘門公園	154	八剣公園
5	土坪公園	35	下之島公園	65	江松中公園	95	細米公園	125	東出公園	155	昭和橋公園
6	嶋井公園	36	北堤緑地	66	正色公園	96	山塩緑道	126	横堀公園	156	長須賀北公園
7	長堀公園	37	北堤公園	67	東前田第一公園	97	的場公園	127	西宮公園	157	長須賀南公園
8	一色公園	38	御屋敷公園	68	野田公園	98	船入公園	128	柳島公園	158	新家第二公園
9	出口公園	39	伏屋公園	69	柳田公園	99	打出第二公園	129	露橋公園	159	新家第三公園
10	北畑公園	40	庄田公園	70	八田公園	100	法華西公園	130	八幡公園		
11	郷内公園	41	直会公園	71	柳森公園	101	法華北公園	131	山王公園		
12	万場川東公園	42	供米田公園	72	角出公園	102	丸池公園	132	八幡南公園		
13	吉津公園	43	外浦公園	73	蓮池公園	103	河原公園	133	西古渡公園		
14	はとり公園	44	梅木須公園	74	小本西公園	104	天水公園	134	西古渡第二公園		
15	七反田公園	45	西前田公園	75	屋敷地公園	105	八家公園	135	尾頭橋公園		
16	大縄公園	46	助光公園	76	万町公園	106	北江公園	136	八島公園		
17	古苗代公園	47	刎畑公園	77	宮北公園	107	裏畑公園	137	二女子第二公園		
18	川西公園	48	下之田公園	78	茨塚公園	108	中島中央公園	138	二女子第一公園		
19	万場大橋緑地	49	戸田ゆたか公園	79	東前田第三公園	109	松蔭公園	139	荒江北公園		
20	松下公園	50	中流公園	80	東前田第二公園	110	高杉公園	140	荒江公園		
21	藤西公園	51	近内公園	81	高畑公園	111	法華公園	141	小山公園		
22	前波公園	52	水落公園	82	西塩田公園	112	寺山公園	142	尾畑公園		
23	富田公園	53	西川田公園	83	吉良第二公園	113	東中島公園	143	尾頭橋東公園		
24	松若公園	54	大当郎緑地	84	松葉公園	114	畑田公園	144	長町公園		
25	若宮公園	55	木薮公園	85	荒子公園	115	下之城公園	145	八熊公園		
26	長須賀公園	56	郷中公園	86	堂東公園	116	越宮公園	146	荒江南公園		
27	横井橋緑地	57	三日月公園	87	寺脇公園	117	小碓緑道	147	八幡中央公園		
28	上之島公園	58	江松北公園	88	梓ノ木公園	118	昭明公園	148	柳川公園		
29	登公園	59	乗江公園	89	中須公園	119	愛知公園	149	牛立公園		
30	中之通公園	60	外丸田公園	90	打出第一公園	120	広見公園	150	荒越北公園		

港区には、昭和１８年度開園の稲永東公園から平成１８年度開園の高砂公園まで８７公園ある。当知西公園・当知町８丁目・０．０２ｈａ・昭和４９年度開園西福田公園・西福田４丁目・０．０２ｈａ・昭和６１年度開園及び高砂公園浜二丁目・０．０２ｈａ・平成１８年度開園から荒子川公園・遠若町２丁目他・２６．１０ｈａ・昭和６０年度開園がある。これらを全調査・全撮影したので、港区公園配置図と共に掲示した。

001 中之島緑地	002 稲永新田	003 十一屋川緑地	004 十一屋第二
005 宝神第二	006 宝神北	007 神宮寺	008 善南
009 荒子川	010 寛政	011 春日野東	012 当知中央
013 当知第一	014 小碓第三	015 小碓第二	016 正保
017 正保南	018 正徳	019 川間	020 小碓
021 須成	022 南郊	023 東海	024 港北

025 木場中央 	026 木場 	027 木場北 	028 港陽
029 稲荷 	030 浜町 	031 高砂 	032 元町
033 港栄 	034 大手 	035 いろは南 	036 いろは
037 品川 	038 本宮 	039 土古 	040 土古南
041 土古西 	042 土古北 	043 小碓第四 	044 善北
045 港南 	046 小須賀 	047 船頭場 	048 知多北
049 福田東 	050 福田 	051 八百島 	052 春日野中央

053 戸田川緑地 	054 春日野北 	055 西福田 	056 新茶屋川
057 西福田新屋敷緑地 	058 春日野南 	059 七反野第一 	060 一葉
061 秋葉緑地 	062 秋葉 	063 一葉緑地 	064 一屋緑地
065 西茶屋 	066 七反野第二 	067 知多南 	068 東茶屋
069 七春 	070 八字 	071 日光川 	072 藤前緑地
073 藤前 	074 稲永東 	075 稲永 	076 宝神中央
077 宝神第一 	078 多加良浦 	079 惟信第一 	080 惟信第二

081 当知第三 	082 当知第二 	083 当知東 	084 小碓西部第二
085 小碓西部第一 	086 小碓西部第三 	087 小碓中央 	

港区の都市公園

表　港区の都市公園の名称

No	名称	No	名称	No	名称	No	名称	No	名称
1	戸田川緑地	21	秋葉緑地	41	正保南公園	61	善北公園	81	稲荷公園
2	西福田新屋敷緑地	22	一屋緑地	42	小碓第四公園	62	多加良浦公園	82	港陽公園
3	春田野北公園	23	西茶屋公園	43	小碓西部第三公園	63	惟信第一公園	83	木場北公園
4	八百島公園	24	八字公園	44	当知第三公園	64	宝神第一公園	84	木場公園
5	春田野中央公園	25	新茶屋川公園	45	当知西公園	65	神宮寺公園	85	木場中央公園
6	福田公園	26	日光川公園	46	惟信第二公園	66	善南公園	86	東茶屋公園
7	福田東公園	27	藤前公園	47	当知第二公園	67	宝神中央公園	87	高砂公園
8	船頭場公園	28	藤前緑地	48	当知中央公園	68	宝神第二公園		
9	知多北公園	29	小碓西部第一公園	49	当知第一公園	69	宝神北公園		
10	春田野東公園	30	小碓西部第二公園	50	土古北公園	70	十一屋第二公園		
11	西福田公園	31	小碓中央公園	51	土古西公園	71	稲永公園		
12	春田野南公園	32	小碓第二公園	52	土古南公園	72	稲永東公園		
13	七春公園	33	小碓第三公園	53	土古公園	73	稲永新田公園		
14	七反野第一公園	34	正保公園	54	本宮公園	74	十一屋川緑地		
15	七反野第二公園	35	正徳公園	55	港北公園	75	港南公園		
16	知多南公園	36	南郊公園	56	いろは南公園	76	中之島川緑地		
17	小須賀公園	37	東海公園	57	いろは公園	77	大手公園		
18	一葉緑地	38	須成公園	58	品川公園	78	港栄公園		
19	秋葉公園	39	小碓公園	59	寛政公園	79	元町公園		
20	一葉公園	40	川間公園	60	荒子川公園	80	浜町公園		

５　神社・仏閣

３　みどり・はなと関連させて神社・仏閣（荒子観音）を取り上げた。

神社についてはその由緒により分類することによって、地域の開拓の歴史、そこに住む人々の思い、そして祀られるようになった経緯が分かることから、神社毎の分類を行った。

５．１　神明社

神明社は伊勢神宮を頂点とし、内宮の祭神である天照大神を祀る神社である。

古代・中世にみられた神様への主として供膳・供祭の魚貝などを献納する神領のことを御厨と呼ぶことがある。元々は供物を調達する屋舎を指したが、後にその神領自体を意味するようになった。機能としては荘園と等しく、伊勢神宮の御厨は伊勢を中心に全国的に分布し、尾張にも分布しており、一楊御厨もその一つといわれている。『尾張誌』では、「荘内総て二十二村あり。此内本郷村は此庄の本拠にて一ッ楊は其旧名なるべく、中郷村は其古の中郷なるべし。さて、横井・中郷・荒子のあたりは旧は伊勢神宮の御領にて一ッ楊ノ御厨といへり」となっている。この２２村には、上中村、下中村、稲葉地、烏森、岩塚、八田、万町、野田、打出、中郷、高畑、荒子、御花、東起、大蟷螂、下之一色、中須、中島新田、本郷などが含まれていると推定されている。これらの地域が神領地に関係していたことの裏付けとして、この地域に神明社が特に多いということが上げられる。毎年収穫時には神戸領の役人がそれらの神領地に出張して年貢を受け取ることになっていた。そこで農民は神宮に納めるのであるからというので、納付の米俵に幣束を挿し鄭重に取り扱い、受け渡しの場所に持ち寄った。受け取った方ではその幣束を一定場所へ集めておく、年々そうするうちにその幣束の山へ小さな祠を建てた。これがもととなって神社らしきものができ、ついには天照大神を祭神と仰ぐ神明社が方々に祀られるようになったと考えられる。

以下に神明社とその由緒書きを紹介する。[13、14]

神明社　港区藤前 1-221	神明社　中川区法華 1-253
藤前干潟を臨む所に位置する。祭神は天照大神である。海が近いこともあって、境内には蟹が時より訪れることがある。	村社。祭神は天照大神である。境内の石碑には、「皇紀二六〇〇年記念国威宣場」と刻まれている。

神明社　港区善進町 4-25

村社。境内の縁起書きによれば、「寛政十二年七月　尾張藩主徳川宗睦公は工事責任者に熱田奉行兼船奉行津金文佐衛門胤臣氏に命じ熱田新田干拓は行われました。寛政十三年正月八日、面積三百四十九町余の新田が造成、東之割、中之割、西之割、南之割の四つに区割されました。当神社は西之割の鎮守として享和二年九月二日（１８０１）に土古山新田南堤の西詰、荒子川左岸に鎮座されました。

以来百二十三年小碓村熱田前新田西之割の氏神様として村民より崇敬されてきましたが、大正１４年１０月、氏神様の年間祭事、日常のお参りにも不便を感じ現在地に遷座されました。東に稲荷社、中に龍神社、西に神明社を勧請された。」とある。

１／１歳旦祭、５月五穀祭、７／１・１５・８／１・１５天王祭、１０月第二日曜日例大祭、１２／１６秋葉祭、１２／３１大祓いが行われる。

神明社　港区東茶屋 1-163

村社。「寛文三年（１６６３）茶屋新田が茶屋長意により干拓されて数年後当地の氏神として、農業その他の産業の守護神　天照大神を祭神伊勢神宮より勧請し、現在地に祭祀したといわれる。現在の本殿は昭和十二年に造営され、建築様式は神明造りの切妻造り・平入りの原形をよく表わしている。境内には他に出雲大神始め、六社を併祀している。また、開発三百年記念碑がある。」と茶屋神明社の由緒書きに記載されている。

茶屋新田開発祭神　三十番神、覺明霊神の社は確認できたが、由緒書きにある六社全てを確認することはできなかった。

神明社　港区正徳町 2-53

『港区史跡散策路』には、「祭神は天照大神である。村の氏神として勧請した。」と記載されている。創建等の由来については不明である。灯籠、狛犬、社殿の転倒防止が行われている。境内には秋葉神社が祀られている。秋の大祭が１０月１日に行われる。保存樹に指定されていないが、大きなクスノキがあり、保存してはどうかと思う。

神明社　港区正徳町 1-16

神明社の由緒書によれば、「神明社の祭神は天照大神。二十二番から分身を迎え、五穀（米・麦・粟・豆・キビ又はヒエ）豊穣を願って勧請した。二十番割観音は、熱田新田開発後、土地の守護仏として祀った。一体のみを祀っている所は他に五ヶ所ある。年中行事は、元旦祭、五穀祭（５／５）、秋祭り（１０／１０）、感謝祭（１０／２３）である。」とある。

神明社　港区多加良浦町 1-4

神明社と書いてある石碑は大正四年とあり、鳥居は昭和１２年１月の建立である。境内には、甚兵衛新田を開発した福田村の西川甚兵衛の石碑がまつられている。

神明社　港区明正 1-98

「祭神は天照大神、村の氏神として安永８年（１７７９年）９月２２日に勧請した。市指定の保存樹、アキニレ（現存せず）・クロガネモチがある。アキニレは伊勢湾台風で幹が傾斜していて、アキニレとしては市内有数の巨樹であった。年中行事は、五穀祭（５／５）、秋祭り（１０月第１日曜日）がある。」と由緒書に記載されている。

神明社　中川区昭明町 2

祭神は天照大神である。昭明公園並んでいるが、その公園は元々神明社の境内であったと推定できる。創建は不明である。鳥居には昭和九年　皇太子殿下御降誕記念と刻まれている。

神明社　中川区明徳町 1-39

祭神は天照大神である。創建等の由来については不明である。正面鳥居に向境内にある灯籠や狛犬が転倒防止のために鉄柵で囲まれている。向かって左手に観音堂が建てられている。

神明社　中川区小本 1-11-6

祭神は天照大神である。創建等の由来については不明である。正面鳥居に向かって右手に秋葉神社が建てられている。神社名を刻む石碑と鳥居に昭和五十二年五月とあることから、社殿等の再建時と考える。

神明社　中川区万町 2408

祭神は天照大神である。創建等の由来については不明である。境内には文久四年正月という常夜灯が残されている。神社境内の北西側にある中川区の保存樹であるクロガネモチ（３６号）は高さ３ｍの位置で切断されていて、幹には心無い人に彫られた落書きがある。北側のタブノキ（３７号、３８号）もクロガネモチと同様に切断されている。もう一本のムクノキ（３９号）は切られずに残っている。

神明社　港区稲永 5-13-36

祭神は天照大神。秋祭、獅子のお祓い、湯沸の神事が１０／８、秋葉祭が１２／１６に行われる。
龍神社（水波能賣神）、秋葉社（迦具土神）を祀る。

神明社　港区小碓 1-440

祭神は天照大神。２８番割りの村の氏神として寛文９（１６６９）年８月１６日に五穀豊穣を願って勧請した。境内にあるクロマツは、伊勢湾台風で上部が折れたが大樹の風格を備えている。年中行事は、元旦祭、五穀祭（５／７）、秋の大祭（１０／１０）がある。
境内には秋葉神社と御嶽大神の摂社がある。

神明社　中川区八家町 1-4163

境内に松の木が残り、中川区の保存樹５８号（クスノキ）、５９号（クロマツ）がある。
鳥居には明治４４年４月と記載がある。

神明社　港区南陽町大字西福田字宮ノ切 36

田圃の中に位置し、境内に続く道は松並木がきれいである。
境内に秋葉神社を祀る。

神明社　中川区山王 3-12-4

本社祭神は天照大神を祀る。更に、棟札の神三神として久久能知神と鳥之石楠船神、豊受大神を祀る。「慶長３（１５９６）年８月、熱田神宮禰宜大原甚九大夫に依頼、旧小栗御道畔を田園の中に勧請せり、村民は御神明様と尊崇し、春秋に祈年祭、五穀豊穣天下泰平を祈願し、神楽笛太鼓を鳴らし獅子舞等を奉納する」という由緒書きが境内にある。境内には斎宮社（西宮社：大国主命の嫡后である須勢理比売を祀る）を祀り、いぼの神とも知られ、しゃもじが奉納されている。末社の２神に須佐之男命、火之迦具土神を祀る。中川区の保存樹９１・９２号（クスノキ）がある。

神明社　中川区元中野町２

津島社、八幡社、白山社を祀る。元々は村内に散在していたが、しばしば水害にあったので安永６（１７７７）年、藩に願い出て村の小高所へ遷宮し現在に至っている。
境内に中川区の保存樹２２号（イチョウ）と２１号（ケヤキ）がある。
須佐之男社には自然石の灯籠がある。

神明社　港区南陽町大字西福田字

村社。神社の由緒書きによれば、「寛永２０（１６４３）年、重鎮鬼頭景義に開拓さる。ついで寛文５年、時の領主志水甲斐守によって開拓は進められ、総面積百六町四反一畝二十八歩の広きに及ぶ。かくして部落は、海東分・蟹江分・戸田分となり、その守護神として神明社の鎮座を見る。大正４年に村社に指定される

神明社　中川区荒子町

荒子観音の境内の南東に位置する。
境内には火災で焼けている神木がある。

神明社　港区当知 3-408

「祭神は、天照大神。当地新田（初め甚兵衛新田）干拓の頃、勧請したと言われ、初め庄内川近くに祀られた。昭和５２年現在地に移転した。毎年、名古屋祭りに参加している神楽（市民俗資料文化財指定）は、「弘化４（１８４７）年８月錺屋佐助」と記してあり、当初は白木作りであったが、明治２０年補修の時、金箔を付けたと言われる。

神明社　中川区打中 1-90-1

中川区史跡散策路には、「創建年は不詳の村社であるが、再建は慶長３（１５９８）年と言われている。祭神は天照大神である。」と記載されている。

神明社　中川区土野町 51-1

村社。棒之手再興之師である梅村順助翁碑が境内にある。

上述のように実際に調査を行った神明社に加えて、市街地図に神明社と記載のある所を図５．１に示す。この結果、中川区は区域全体に均等に分布している。一方、港区は西側の地域（江戸時代に新田開発が行われた地域）に、東西そして南北に並ぶように分布している。

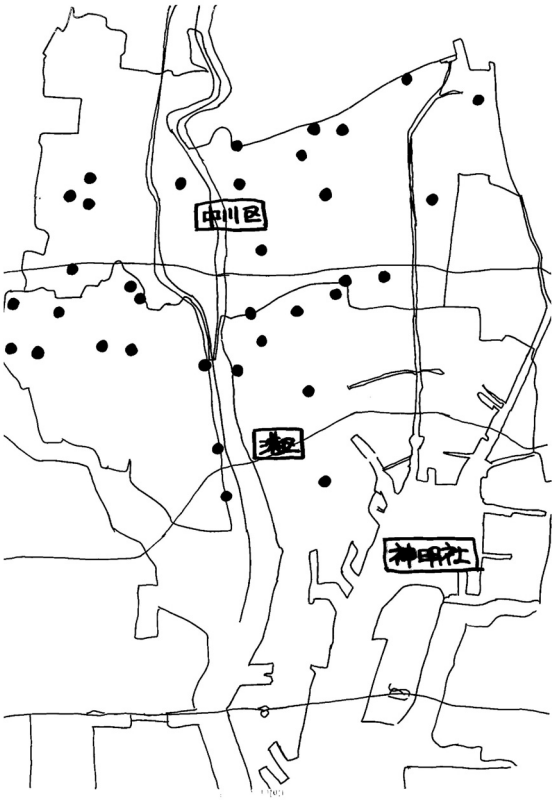


図５．１　神明社の分布

５．２　熱田神宮・八剣社・素盞嗚神社

尾張地方は熱田神宮と関わりが密接である。熱田神宮の祭神は熱田大神である。熱田大神とは草薙の剣、あるいは神剣を御神体とする天照大神と言われており、本殿に祀られている。相殿が天照大神・素盞嗚尊・日本武尊・宮簀媛命・建稲種命である。そして、その熱田神宮と関連のある神社を紹介する。[13、14]

素盞嗚神社　港区須成町二丁目

村社。「祭神は素盞嗚尊。津島神社の分社として、正保四年（一六四七）の熱田新田干拓の頃に勧請された。」と『港区史跡散策路』に記載されている。

素盞嗚神社　港区九番町４

祭神は素盞嗚尊。住宅街の中に祀られている。一階部分が九番町の公民館、正面向かって左側にある鉄製の階段を上がって本殿がある。

須佐之男社　中川区柳川町 7-11

「本社は慶長年間堀川べりに熱田区住吉町住吉神社と供に、川の東西に奉鎮し、其の西方はこれ乃ち此の神社にして海部郡津島町国幣小社津島神社より勧請した。昭和１４年完成。昭和２０年戦災にて社務所のみを残し焼失。本殿、祭文殿、神饌所、渡殿、他三末社を新築し、昭和２７年御遷座式典を斎行。」と須佐之男社の由緒書に記載されている。

西古渡神社　屋市中川区尾頭橋 4-2-3

ＪＲの尾頭橋駅のすぐ前に西古渡神社がある。祭神は、素盞嗚尊、迦具土神である。また、境内末社として、福徳稲荷大神を祀っている。

１０／１１に大祭が行われる。

築地神社　港区千鳥 1-9-14

旧郷社。素盞嗚尊を熱田神宮より勧請し、祭神とした。「明治４０年１１月名古屋港が開港されてより、港湾安全と地区発展を願い、昭和８年１２月名古屋市南区浜町浅井作左衛門氏はじめ１５５名の連署を以って、創建の儀を申請、翌年認証・造営。昭和１３年鎮座祭が斎行、当神社が創祀された。昭和２０年３月戦災により本殿と拝殿を焼失、直ちに仮本殿を造営同年１２月郷社に列した。」と築地神社由緒書の石碑に刻まれている。

毎年５月１３日に神御衣奉献行列がある。熱田神宮の神様の衣替え儀式「御衣祭」に伴うもので、衣をつくる絹と麻を奉献する。末社に、出雲大社、金刀比羅宮、御嶽大神を祀る。

築地口神社　港区名港１

「明治４０年１０月港の埋立工事竣成し名古屋港と附せられた。当町総代吉田岩次郎氏は土地の所有者の名古屋電気（株）へ神社建設計画の旨を申請、即座に現在の神域並びに御神料として金一封を寄進せられしより一般氏子の寄付金を得て工を起こし社祠を建立し熱田神宮・津島神社・秋葉神社の三柱の御分霊を斎祀して築地口神社と構え奉りたるより以来築港の守護神と崇敬するに至る。その霊験殊に著しく町民の悪疫に冒さる者なく、火災の禍もなく町民の尊崇の念益々篤い。昭和三十七年の都市計画施行により現今のごとき霊域に進めり。」と築地口神社由緒書に書かれている。

熱田社　港区宝神町字会所裏 713

素盞嗚尊を熱田神宮より勧請し、祭神としたと推定される。本殿の石垣には、瓢箪や宝船の図案が埋め込まれている。また、境内にある鳥居には昭和八年三月と刻まれている。
境内には港区の保存樹であるクスノキがあり、庄内川沿いに植えられていた松並木も残っている。

熱田社　港区宝神町字敷地 759

平成２年１１月に設置された当社由緒書によれば、「御祭神は、天照大御神、倭武命、建稲種命、須佐之男命、宮簀媛命、秋葉三尺坊大権現である。當熱田社は文化十四年九月新田開発と同時に熱田神宮より御分神を勧請し、以来村内産神と奉稱一同尊敬し崇拝してきました。明治十二年七月九日無格社に据置公許されました。」と書かれている。

熱田社　港区南陽町大字小川新田 105

田圃の中の小高い丘に鎮座している。建立は文政八年十月、昭和五十五年十一月に社殿及び集会所の遷宮式を実施。小川地区の歴史を刻んだ石碑がある。干拓者は佐藤五兵衛、干拓年は寛政九年（１７９７）、地名は五兵衛開発新田で面積は６５町歩である。
寛政１０年１１月に南大手切入海用３８間堤防破壊入水、享和２年に戸田川改修、文化元年に小川伝兵衛が買収し、翌２年に小川新田と改称している。明治２３年に茶屋入江３６間福屋入江１６間堤防破壊入水、明治３２年に小川用水宮田井組に編入、明治３７年に海岸名称を日光川名称に変更されている。

熱田社　港区福屋 1-120-2

村社。西之割熱田社。境内に秋葉社と塩竈社を祀る。境内の由緒書きには、「寛永２０（１６４３）年、明正天皇後期尾張藩主徳川義直の命により、鬼頭景義西福田の干拓に着手、志水甲斐守により完成、海東分・蟹江分・戸田分に割けて守護神社を祭る。明和７（１７７０）年、奉造営工事、村中安全長久祈願。大正１０（１９２１）年、本殿・拝殿を改造し鳥居・灯篭等を整備し遷宮。昭和６１年、福田川堤防拡幅工事により本殿を、西福田字湊裏２４番地より福屋１丁目百２０番地に遷宮。本殿・拝殿等を整備し、奉祝造営・遷座祭を挙行。」とある。

八劔社　中川区八劔町 4-69

「祭神は熱田大神である。当地の新田開発に際し、守護神として社を鎮座。享保１５（１７３０）年以来、社殿修復十度に及ぶ、明治５（１８７２）年の社格令により村社となる。昭和四十五年、現在の本殿に改築され境内も整備された。」と『中川区史跡散策路』に記載されている。境内神社に、秋葉社を祀る。

八劔社　港区土古町６

元始祭（１／１）、五穀祭（５／５）、秋季大祭（１０月第一日曜日）、秋葉神社祭（１２／１６）に行われる。神社名を記載している石碑は大正５年４月とある。
港区の保存樹４号（ムクノキ）が境内にある。

八劔社　中川区十一番町 4-1

村社。名称から、祭神は日本武尊と推定される。境内に、十一番の大王白龍の社が祀られている。大祭は十月十日、春祭は三月二十八日であり、白龍社が一月十九日、知立社が五月三日、富部社が十月九日、秋葉社が十二月十六日である。

八劔社　中川区五女子町３

祭神は日本武尊で、例祭日は１０月第２日曜日である。境内神社に、津島社、秋葉社、福寿稲荷社を祀る。「創立は寛永２年　後水尾天皇（百八代）の御代尾州和加部守が戦勝祈願のため八劔大明神を祀り社殿を創建したと記され、爾来四百数十年の間十一回に亘り増改築が行われた。社伝によれば、当地方が穀物の不作に遭い飢饉に陥った時、柿と栗のみが豊作でそれで飢を免れたと云う古事に因み例年の大祭には奉謝の意をこめて柿栗を２つの俵に詰め蝶とトンボの飾りをつけて神に捧げてこれを選ばれた若者が投げて豊作を祈る神事が行われる。」と八劔社の由緒書に記載されている。

八劔社　中川区中島新町 4-1404

昭和１３年１月と刻まれた鳥居がある。

八劔社　中川区東中島町 5-150

神社に向かって左側にあるクスノキは保存樹とするのに十分な貫禄を持っている。
昭和１０年建立の灯籠がある。

八劔社　中川区長良町 4-129

村社。
元旦祭（１／１）、祈年祭・大神祭（２／１８）、白山権現祭（５／７）、天王祭（茅の輪神事７／８）、盆祭（８／１５）、新嘗祭（１１／１９）、秋葉祭（１２／１７）、大祓（１２／１７）がある。
境内には中川４７号(クロガネモチ)、４８・４９号（クスノキ）、５０号（タブノキ）がある。
境内末社には天満社、秋葉神社、津島神社、白山大権現を祀る社がある。

上述のように実際に調査した神社に加えて市街地図に記載のある所を図５．２に示す。中川区は東側の地域、港区は区域全体に均等に分布している。ただし、記紀にも出てくる素盞嗚尊は愛知県津島市にある津島神社の祭神でもあり、津島神社の秘祭と言われている神葭流しの神事と関連して祀られた津島神社を勧請した神社である可能性もある。

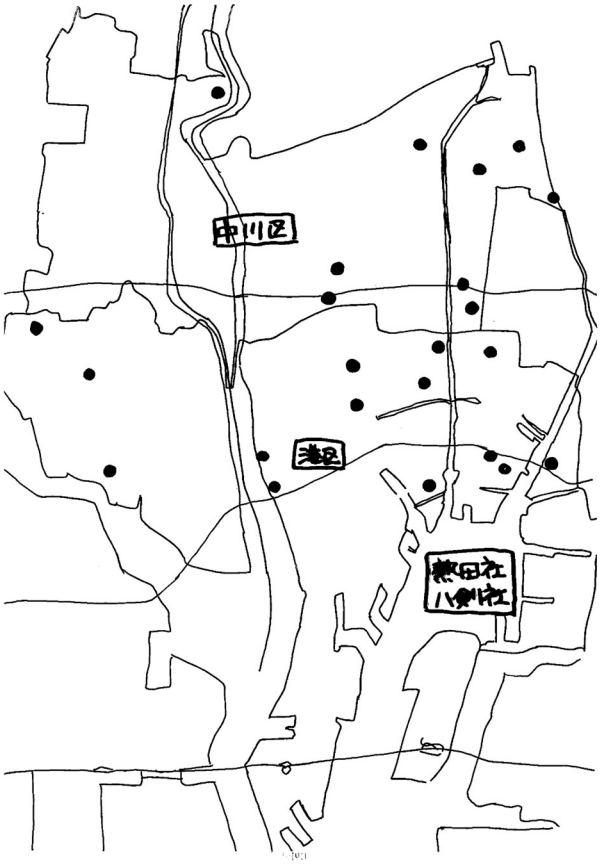


図５．２　熱田神宮に関連のある神社の分布

５．３　八幡神社

八幡神社は九州の宇佐八幡宮を頂点として全国に数多く広がっている神社であり、祭神は応神天皇である。そして、八幡神社を紹介する。[13、14]

港陽八幡神社　港区港陽２	八幡社　中川区戸田 1-1107
祭神は応神天皇。相殿として秋葉社、御霊社を祀る。また、境内に末社として、櫻龍神社、稲荷社を祀る。	村社。八幡神社の祭神は応神天皇である。一之割から五之割にある山車が練り歩くことで有名であり、ここは一之割に相当する。境内の北東の隅に地蔵堂を祀っている。

若宮八幡社　中川区小塚町 11

祭神は応神天皇である。
境内には中川区の保存樹のタブノキが２本、イチョウが２本ある。社殿の裏にある保存樹指定中川１号のタブノキは、クスノキ科でイブキと同様に名古屋市西部地区に多い木の代表である。幹回り２．６６ｍ、高さ１８ｍで市内のタブノキでは最大級のものである。

八幡社　港区東茶屋 1-539

茶屋神明社のすぐ近くに男山八幡社がある。「寛文三年（１６６３）茶屋長意　当新田開発の時、自家日蓮宗なるを以て十一日番神八幡大神を祀りて工事完成を祈願し漸く竣成を得、其の報賽として男山八幡宮より御分霊を向へて、現今の地に祀る。文化十二年八月当新田入水の際、社殿大破流失しに依り一時当新田村社神明社へ合併し奉り、更り明治十七年十二月十日崇敬者の熱望により復旧鎮座し奉れり。」と八幡社百年祭記念碑（昭和五十九年十二月吉日）に記載されている。

八幡神社　中川区服部 1-804

祭神は、応神天皇である。八幡神社の由緒書きによると、「鎮座は応永十四（１４０７）年一月六日である。この地は庄内川が形成した三角洲の先端に位置する低湿な平野で比較的早い時期から開墾されていた。寛治年間（１０８７～１０９３）には、富田荘が成立し広大な耕地が広がり、荘園の中核になっていた。」とある。また、『中川区史跡散策路』には、「６０年毎に御鍬祭がある。同じ所に神明社と秋葉社がある。」とある。

八幡社　中川区富田町万場５

祭神は応神天皇である。当社の由緒書き等はなかった。入口にある鳥居は昭和８年８月建立とある。また、境内末社が一社あったが、名称は不明であった。

八幡社　中川区牛立町 2-1

村社　第九等級。本殿中央に八幡社、右側に天王社、左側に秋葉社を祀っている。かつては村の鎮守として親しまれてきた。

「１０月第１日曜日に例大祭では湯取神事が行われる。

天王社の祭神は午頭天王(素盞嗚尊)であり、５月５日には午頭天王がこの地に立ち寄られた時、境内の池で足を洗われたことを記念して行われる足洗池祭がある。７月第４日曜日には名古屋型山車、からくり人形４体が引き出されて天王祭を盛り上げる。

秋葉社の祭神は火之迦具土神であり、１２月１６日には火を焚き神を歓待し、神仏習合の名残の習慣である御仏飯を供える秋葉祭が行われる。

他に１月１日の歳旦祭、１月２６日の文化財防火訓練が行われる。月次祭として、１日には八幡社、１５日斎宮社の祭りが行われる。」と八幡神社の由緒書に記載されている。

「かつては西隣の四門寺のご本尊が合祀されていたが、明治の神仏分離によって、七百五十年間廃寺になっていた寺を再興し、現在に至っている。牛頭天王山車は慶応元年（一八六五）八王子天王社（北区清水町）から牛立村が譲り受けたものである。天保六年（一八三五)仲秋尾州名護屋末広町住人真守作の銘がある大将豊臣秀吉の周りには、人形師竹田源吉作の唐子人形二体が配置され、からくり仕掛で太鼓を打つ趣向がなされている。」と『中川区史跡散策路』に記載されている。

境内には力石、天保六年の永代常夜燈、石造の牛がある。

八幡社　中川区大平通 3-10

第十二等級（旧　村社十四等級)。

篠原八幡社の由緒書によれば、祭神は応神天皇（誉田別命）である。御神徳としては、一）稚児の発育、安産の祈念、児童の成長、無病、無災、強健の祈念。二）災難消除、開運、福運の祈念、怨敵退散、闘争などの必勝祈願。三）長命の祈願、諸技熟達、商売繁盛の祈念である。

祭礼日は、新年祭１月２日、春祭５月第一日曜日、秋祭１０月第一日曜日、大祓１２月３１日である。

相殿として天王社と秋葉社を祀る。

天王社の祭神は素盞嗚尊と大穴牟遅命(大国主命）を祀る。御神徳としては、一）山林、漁業、農業の守護神、人命救助等の守護神。二）疫病、災難、苦悩に救いを差し伸べる神。三）罪を祓い清明を尊み神であり、祭礼日は７月第二日曜日である。

秋葉社の祭神は火之迦具土命を祀る。御神徳としては、一）火防の守護神。二）五穀豊穣の守護神である。祭礼日は１２月１６日である。

境内神社として、天満天神社（祭神：菅原道真）がある。御神徳としては、一）学問の守護神。二）書道の守護神。三）雷防の守護神であり、祭礼日は２月第一日曜日である。

八幡社　中川区四女子町 4-47 村社。秋葉祭が行われる。御神木が本殿に向かって右側にある。 境内に出雲龍蛇神社がある。「２拝４拍１拝」が作法とある。	八幡社　中川区富田町長須賀字オケ前 518 村社。

調査もれがあるかも知れないが、中川区に８社、港区に２社の合計１０社である。ただし、末社や摂社として祀られている場合をも含めると数はもっと多くなる可能性がある。

５．４　秋葉社

秋葉社は遠州（静岡県）の秋葉神社を頂点とする神社である。祭神は記紀に出てくる火迦具土神である。生活になくてはならない火のありがたさ、使い方を間違うと火事となり家や財産そして命まで失ってしまうという火に対する畏れから、火を敬い、火の神様を祀っている。また、火で山野を焼き払い、五穀豊穣を願うという焼畑農業とも関連することから農業の神様として祀られることが多い。そこで、調査した秋葉社を紹介する。

秋葉神社　中川区前田西町３ 西前田土地区画整理組合の事業遂行に伴い富田町大字前田字堤畑２４番地より現在地に移築したと書かれている。	秋葉神社　中川区二女子町１ 二女子町の住宅街に秋葉神社が祀れられている。祭神は火之迦具土大神である。

秋葉社　港区小賀須 3-1505

旧村社（十四等級）。「祭神は迦具土神（軻遇突智神）である。火産霊神ともいわれ、火が万物を生み育てる力の根源である霊力を称へた名である。火で山野を焼き払い、五穀を蒔き、収穫をはかった農耕守護の神である。創建は明らかではないが、明治９年８月２８日村社に列格する。」と秋葉社の由緒書きに記載されている。

上述のように実際に調査した秋葉社に加え、市街地図に秋葉社（秋葉神社）と記載のある所、そして他の神社の調査時に末社や摂社として秋葉社を祀る所を図５．４に示す。

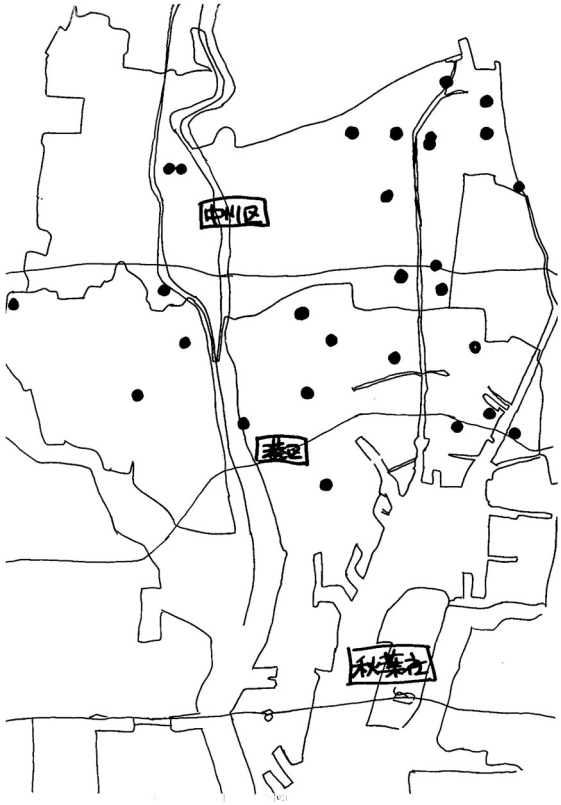


図５．４　秋葉社の分布

港区に「秋葉」という地名があり、秋葉神社が祀られている。秋葉社としての神社は少ないが、神明社の境内やその他神社の境内に合祀されていることから、中川区・港区の全域に分布していることが特徴である。

５．５　稲荷社

稲荷社は伏見神社を頂点とする神社である。祭神は宇迦之御魂神である。稲作の収穫の神様、そして商売繁盛の神様として敬われている。そこで、調査した稲荷社を紹介する。

稲荷社　港区辰巳町 36-14

「祭神は倉稲魂命、猿田彦命、大宮女命である。享和元（１８０１）年津金文左衛門胤臣が、熱田前新田を開拓し各地から農民を募り耕作に従事させた。新田の荒子川以西を西ノ割、中川以東を東ノ割、二つの川の間を中ノ割に区分し、各割毎に氏神を祀った。東ノ割の氏神が当社である。秋の例祭には、現在も辰巳、中ノ割、西ノ割の三台の神楽が町を練り歩いている。」と稲荷神社の由緒書に記載されている。名古屋高速の建設に伴う道路の拡張のため、現在の地に移された。元旦祭、初午祭、知立祭、秋葉祭が行われる。

白鳥稲荷社　港区木場町

正一位白鳥稲荷大明神という幟があり、伏見稲荷を勧請したのではないかと推測される。また、白鳥稲荷社と書かれた石碑には、昭和三年十一月御大典記念と書かれていることから、創始は昭和三年（一九二八）と考えられる。

稲荷社　港区十一屋 3-148

５．６　その他の神様を祀る神社

祭神や祭神が分からない神社についても調査したので紹介する。[13、14]

二名社　港区寛政町 6-1-2

村社。「祭神は天照大神、日本武尊。安政六年（一八五九）二月十五日勧請した。昔は善進町の明神社と一つになっていたが、土地を中ノ割、社を西ノ割というように分けた。」と『港区史跡散策路』に記載されている。創始百周年記念の石碑（一九五八年十月）とあるので、創始は安政五年（一八五八）であると考えられる。また、境内には保存樹のクスノキ（港第２号と第３号）がある。

龍神社　港区本宮町 3-1

創始１５０周年の石碑によれば、「熱田奉行贈正五位津金文左衛門　熱田前新田を開拓するに方り、綿津見大神を勧請し、寛政１２（１８００）年庚申七月八日土工に着手翌十三年（１８０１）正月八日、工成るに及び神恩を謝して當社を其の本宮とし龍神社と構え奉り式外に列せられたり。」とある。中川と荒子川を境に東・中・西の三つの割りに区分され、それぞれに氏神が祀られた。中の割に祀られたこの神社は、新田最初の神社で「元の宮」と呼ばれ、「本宮町」の地名は、これに由来するといわれている。東が辰巳町稲荷社、西が善進町神明社である。境内には熱田前新田開発百六十五年記念碑がある。正面の石造の鳥居は明治四十五年十一月とある。元始祭、春祭、秋祭、津島天王祭、秋葉神社祭が行われる。

白山社　中川区東起町 4-96

白山社と書かれた石碑は「大正四年十一月御大典記念」と刻まれている。

白山社　中川区大当郎 3-1505

由緒書きには、「村社。祭神は菊理姫命。寛文５（１６６５）年勧請」とある。

熊野神社　中川区二女子町３

祭神は建速須佐之男命、末社に天王社と秋葉社を祀る。例大祭は１０月第１日曜日、別社として菊理姫命を祀る白山社と火之迦具土大神を祀る秋葉社を祀っている。
創建は寛永十年（１６３３）と伝える明治五年七月に村社に列格せられ始終一貫厚く崇敬して今日に至る。境内には力石があり、８月１日には白山祭が行われる。

浅間社　中川区下之一色町字南ノ切 20

郷社。御鎮座の年月日は不詳。天正２年申戌６月城主前田与十郎再建とある。文化８年神社書上帳、元禄１２年５月の書上帳、下之一色浅間大明神、漆部神社元禄以前の社名は従三位漆部天神と書上げてある。祭神は木花咲耶姫命である。摂社に天王社を祀る。

池鯉鮒社　港区魁町 1-31

「江戸時代、中川橋の北方から流れてきた御札を拾い上げ、中川橋付近にあったお宮に祀ったのが、この神社の始まりである。明治四十年頃現在地に移された。」と『港区史跡散策路』に記載されている。境内にある池鯉鮒神社と書かれた石碑には、「祭神　鸕がや葺不合尊（古事記：鵜葺草葺不合命）　天保四年（１８３３）四月三日」と刻まれており、創建は１８３３年に三河国の知立神社の分社として勧請されたと考えられる。

知立神社　中川区松年町１

御祭神として鸕がや葺不合尊（古事記：鵜葺草葺不合命）を祀り、御神徳として商売繁昌、安産、長虫除けである。創建は不明である。末社に火之迦具土大神を祀る秋葉神社と素盞嗚尊を祀る天王社がある。創建は不明である。
境内には、中川区の保存樹のクスノキが２本ある。

鹽竈神社　中川区西日置 1-7-10

祭神は塩土老翁命、武甕槌命、経津主命。五月第一土・日曜日には、安産、虫封じの育児大祭があり、釜型の土鈴を授けている。

神社内の由緒書きによると、名古屋城築城の際、岩田藤忠なる武士が工事無事遂行守護を神に祈願するため仙台の塩竈大明神を勧請し、日置、古渡の両部落の村境に奉斎したのが始めと言われている。築城関係の大名の信仰が篤く、福島正則が御手洗盤を寄進した他に延宝年間には尾張藩の松平康久が社殿を改修。文化（１８１６）１３年に日置村字巾に天保６（１８３５）年に現在地に遷座。

無三殿主大神を斎祀する無三殿社が祀られている。由緒書の石碑には、「無三殿杁江は往時尾張名勝にして堀川の西日置古渡の境に在り當時江川笈瀬川の用水路ありて此の所に會せり然れども水位高低甚だしきを以て合流する能はず仍ち樋を笈瀬川の上に架して江川を南流せしめ樋下を東流し河口の水門を過ぎて堀川に通せり今の松重町南端一帯の地は即ち此の流域にして里人無三殿と呼びたる杁江たりし所なり、延宝の頃松平康久入道無三此の江北の地に住せり江名之より起ると江水清澄にして深からずと雖古来霊鼈（亀・河童の意）の潜む所なりと称し畏敬して瀆す者なし樋邊一巨石あり無三殿主神と刻す痔疾に霊験著しと病者頻りに来りて治癒を祈り捧ぐるに白餅を以てし或は之の水中に投ずるの風あり遠近相傳へて其の名大いに著はる星霜變轉神石影を投ずること多年偶江川線改修工事の際霊夢を得たる者あり及ち発掘して之を水底より求め得たり暫く町神とし近隣に奉祀せしが神慮を畏れ當塩竈の社頭に遷祀したるものなり今

西宮神社　中川区月島町 11-1

祭神は、天照御大神之荒魂を合祀している。

「金刀比羅社は人皇第９２代伏見天皇の御宇に鎌倉幕府執権北条貞時の命に依り尾張国愛智郡那古屋荘廣井の里に斎ひまつり航行の安全を祈願せし社にして明治の代り至り鉄道開通学校新設等の為め境内地を失うこととなりしが、紀元２６００年に當り有志相謀りこの由緒ある神社を公許と得て當所に奉遷し運河総鎮守の神として奉祀せり。

西宮社は凡五百年前に御伊勢川の守護神として此地に斎ひまつりしものにして古来この宮を疣の神様と崇めて参詣者常に絶えざりしが、明治の代神社合併の議各地に唱へらるるに及び當社も亦金山神社に合併せられたり、十数年前迠社側を流れたる笈瀬川は往昔御伊勢川と称し此地附近より下流は川幅廣く船舶の航行も實に盛なりき。名古屋築城に當りては其用石の大部分をこの川に依りて當所附近に運び加工して現場に運搬せしものなり、爾来数百年の星霜を経て地貌可容は改変せしも凡十年前まで境内地百有余坪の丘阜地に樹齢数百年の老松鬱葱として在したりき。後年都市計画の実施に伴ひ笈瀬川を中心として大運河の開鑿となり何時か老松は枯れ失せ丘阜地は耕地整理の為め引き均され今は全く旧昔の面影を窺ふ能はざるに至りぬ、其後数々の霊夢奇変を耳にするに至りて神慮捨て置けずと先年有志相謀り元社地に再び奉遷祭祀せり、茲に紀元二千六百年記念して境内地の拡張社殿等の改築を志し崇敬者の賛同を得て目下着々として工を進めつつあり、これが完成の期も近きにあらんが。以上記して以て之を後昆に傳ふ。昭和五十八年十月」と境内の由緒書きにある。境

歳昭和甲戌當神社社殿造営の挙あり規模大いなること前古に比なし記念として此を神石の側に建て由来を記して不朽に傳するものなり」とある。塩玉稲荷大神、白光龍神を祀る祠がある。	内には、丹生川上神社上社、白竜社、正一位玉姫大神稲荷社、正一位秋葉社を遷座。
斉宮社　中川区中須町 177 村社。「創建年は不詳。再建は寛文６（１６６６）年、祭神は猿田彦命である。」と『中川区史跡散策路』に記載がある。	三狐神社　中川区野田 2-134
赤星神社　中川区富田町千音寺赤星裏 4589 社格は、郷社である。『中川区史跡散策路』によると、「祭神は根裂尊。神社の南を都市高速と国道の建設などで、のどかな田園風景が残っていたこのあたりも様相を一変させた。しかし、往時は国司が祭礼に参詣し、祭典を行った神社であり、このあたりでは数少ない星神の信仰の社である。」とある。 境内には、津島社を祀り、南東の角には池の跡が残っている。	金比羅大権言社　港区中川本町５ 運河神社外宮で金比羅大権言社といい、祭神は金比羅大権現である。上宮社と下宮社がある。「昭和九年、中川運河が竣工したのを機に、町の発展と無事を祈願して勧請した。」と『港区史跡散策路』に記載されている。一方、東側の社の正面にあたる石造の鳥居は明治四十五年七月となっている。

鈴宮社　中川区戸田 2-1109

霊宮社ともいわれる。鈴宮社の祭神は天宇受売命である。

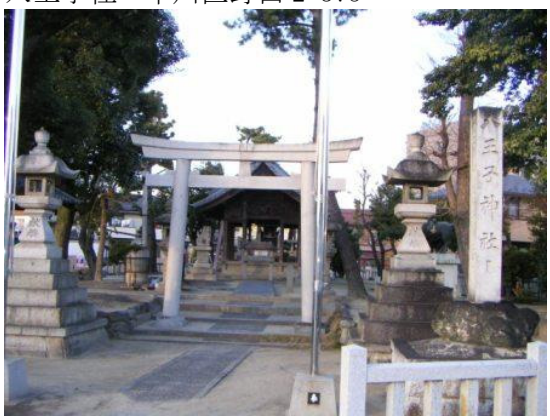
七所神社　中川区伏屋 2-1701

村社。祭神は、日本武尊、迦具土神、足仲彦命、稲依別命、宮酢姫命、乎止与命、草薙御劔御霊である。「創建は明らかではないが、『尾張徇行記』に永正六巳年（１５０９）再建と見え、『尾張誌』には、「七所明神社、白山社、二社伏屋村にあり」と記す。伏屋は布施屋で『河海抄』、『袖中抄』に大水又は渡海の往来に川端に布施屋を建て船の待ち合せを所とした。この地も木曽川下流にて氾濫の際、旅人の便を計り布施屋を設けた村名の起因でもある。明治五年七月　村社に列格し、同四十年十月二十六日指定社となる。御神徳は、出世開運、厄除け、商売繁盛、交通安全、縁結び、夫婦円満、家内安全、学業進展、芸能上達、工業・鉱業・窯業の発展、金運招福等である。例祭日は四月十四日である。」と七所神社の由緒書きにある。

雨宮社　中川区中郷 2-164

中川区史跡散策路には、「創建年は不詳だが、文政２（１８１９）年に野田から現在地に遷宮された。祭神は、明神高靇神・志那津比古神・天照皇大神である。」と記載。

八王子社　中川区野田 2-375



由緒書きによれば、「当神社の御祭神は古事記に依れば、天照大御神と素盞嗚尊が誓約され天照大御神は三女神を素盞嗚尊は五男神を生んだ。その八王子を祀っている。

富士天満社　中川区荒子 4-208-1

中川区史跡散策路には「創建年は不詳、祭神は木花開耶姫命と菅原道真公である。荒子城主前田利家が勧請した社であり、荒子城の鎮守神であった。境内には、前田利家が越前へ移る際、荒子に残していった馬具が保存されている。」と記載されている。

御嶽神社　港区入場町１

港区の保存樹９号（イチョウ）がある。２つの社がある。
西側に観世音菩薩、地蔵菩薩、大師遍照金剛を祀るお堂がある。

東築地神社　港区東築地町２

本殿の石段右側に埋め込まれている史録（昭和八年十月十五日）によれば、「東築地は其昔熱田湾の一部なりしが明治四十一年三月十一日県営工事を以て、埋立に着手し同四十三年十二月三十一日が竣功を告ぐ、茲に東築地神社の御鎮座を仰ぎ、永く当地の氏神にして奉祀するに至る爾来其御神徳彌高きし拝し茲に神域の面目を一段と荘厳の加えんとするにあたり之を謹記す。」とある。勧請されている祭神については不明である。平成元年十月十五日には五宇の再建を行っている。境内末社として、正一位寶徳稲荷大明神、金比羅大権現を祀る。

築三神社　港区築三町１

築三町の倉庫群の中に約１０ｍ四方の神社がある。祭神は不明である。境内には松が二本、小さな狛犬があり、築三神社と書かれた石碑は昭和三十三年十一月建立となっている。

港楽神社　港区港楽３

港楽小学校のすぐ近くの住宅街の中に神社がある。祭神や由緒等は不明である。

神徳神社　港区船見町

伊勢湾岸自動車道の名港潮見ＩＣを降りて９号地から８号地に進み、神徳橋を渡って右手の東亞合成（株）研究所の端に神徳神社がある。埋立工事に関係しているとは思うが、祭神や由緒等は不明である。今では、世話をする人もいなく、さびれている。
入口にある神徳神社と刻まれた石碑には昭和三十年十月十五日建立とある。

春日神社　中川区東中島町６

西側に中島稲荷大神を祀る。

宝神社　港区宝神町字繰出

この町内を守る神社であり、境内にはコミュニティーセンターがある。祭神については不明である。

綿津見大神を祀る龍神社、菊理姫命を祀る白山社、建速須佐之男命を祀る熊野神社、木花咲耶姫命を祀る浅間社、鵜葺草葺不合命を祀る知立神社、塩土老翁命・武甕槌命・経津主命を祀る鹽竈神社、天照御大神之荒魂・金比羅大権現を祀る西宮神社、猿田彦命を祀る斉宮社、根裂尊を祀る赤星神社、天宇受売命を祀る鈴宮社、菅原道真を祀る天満社、七所神社、雨宮社、八王子社、三狐神社、御嶽神社、地域の神社等の様々な神社がある。

５．７　荒子観音[15]

荒子観音は浄海山円龍院観音寺と言われ、天台宗の寺である。寺の由来等を記した『浄海雑記』四巻によれば、天平元（７２９）年泰澄和尚に開基され、場所は現在地より北八町（約１ｋｍ）の地であった。泰澄大師は北陸の霊峰白山を開いた僧であり、北陸・近畿・東海を遊歴し、各地に寺院を建立した。観音寺もその一つで、本尊の聖観世音菩薩像は泰澄和尚の自作と伝えられ、３３年に１度開帳される。天平１３（７４１）年には法相宗の自性上人が七堂伽藍を建て、寺としての姿を整えた。さらに、中世には天台宗葉上流の談義所（学問の道場）があった春日井の密蔵院に属する大寺として､多数の僧徒を擁して学問が盛んであったが、その後衰退し、戦乱に巻き込まれ等のこともあって荒廃した。

写真１　荒子観音（山門と多宝塔）

天文５（１５３６）年には塔頭常住院の賢俊上人によって多宝塔が再建された。この多宝塔は名古屋市内の最古の木造建築で、国の重要文化財に指定されている。永禄年間（１５５８～７０）知恩院の全運上人が再興し、天正４（１５７６）年加賀百万石の藩祖である荒子城主前田又左衛門利家（織田信長の御近習衆として仕え、激動の乱世を生き抜き、加賀百万石の礎を築いた戦国武将）が本堂を再建した。前田氏は菅原道真の末裔で、荒子城内の天満宮を崇めており、さらに観音寺の別当を務めていて深く帰依していた。

江戸時代には尾張藩主徳川義直､徳川光友の帰依を受け､祈祷料田などの寄進を受けた。また、藩主吉通の室で九条家から嫁いだ瑞祥院殿を始めとする崇敬により、葵紋の入った提灯、打敷、灯籠などが寄進されたが、明暦年間や文化年間の火災等に遭い、その都度再建された。笠寺、竜泉寺、甚目寺と並び尾張四観音の一つとしても栄えた。荒子観音は６年に１度恵方（最近は２００５年）*が巡ってきて、恵方にあたる年の節分には多くの参拝者が訪れる。

＊：陰陽道（おんみょうどう）で、その年の干支に基づいて、歳徳神（としとくじん）のある方向を吉の方向として定めたもので、恵方にある神社・仏閣を参詣し、その年一年の福徳を祈る。恵方は下記の順で巡る。

①笠寺（２００３年）→②竜泉寺（２００４年）→③荒子（２００５年）→④笠寺（２００６年）→⑤甚目寺（２００７年）→①笠寺（２００８年）と笠寺に戻り、①～⑤を繰り返す。

明治２４（１８９１）年の濃尾地震で倒壊、再建された。名古屋大空襲では被害を免れたが、昭和２０（１９４５）年の三河地震により倒潰し、再建された。平成６（１９９４）年に本堂が焼失、平成９（１９９７）年に再建された。

修験・遊行僧であった円空上人は、観音寺十世円盛と親しく、延宝・貞享の頃（１６８０年前後）度々寺を訪れ、円盛から天台円頓菩薩戒資相承血脈も受けている。観音寺には仁王門に納められている二体の仁王像を始め、１２４０体あまりのナタ彫り仏像が残されている。毎月第２土曜日午後１時から４時まで拝観できる。

数年前にＮＨＫの大河ドラマ「利家とまつ」が放送された時に、脚光を浴びて、「犬千代ルート（犬千代とは前田利家の幼名）」が整備され写真２に示すような路面標識が設置された。また、写真３のような地元の食べ物もある。

住宅街を通り分かり難いこと、一部の路面標識がかすれてしまっている等の問題点もあり、整備を含めた表示の工夫を行う必要があると考える。

荒子観音境内には「木っ端の会」という円空仏愛好者の同好会があり、現在（２００６年末）で会員数約２０名で毎月第１、第３、第４木曜日の１０:００～１２:００の間活動している。円空仏を初級者はマニュアルに従って製作、上級者になると各人のイメージに基づいて製作している。写真４のように顔、手、足を全て一本の木の中に納める一木彫りによって製作している。

写真２　犬千代ルートの路面標識

写真３　：出世犬千代めん

写真４　円空仏（木っ端の会製作）

６　バリアフリー（点字ブロック）

中川区と港区にある産業中分類による事業所総数、主な事業所として製造業数及びその中の一般機械器具製造業数、卸売業数及びその中の建材材料・鉱物・金属材料等卸売業数、飲食店数及びその中の一般飲食店数、サービス業数及びその中の洗濯・理容・浴場業数を下表にまとめた。[16]

	事業所総数	製造業 括弧内は一般機械器具製造業	卸売業 括弧内は建材材料・鉱物・金属材料等卸売業	飲食店 括弧内は一般飲食店	サービス業 括弧内は洗濯・理容・浴場業
中川区	１０，８３３	２，２１３ （４６６）	１，１９７ （３２５）	１，５３５ （１，０５８）	２，３４６ （６５９）
港区	７，３９８	１，４２０ （３１０）	４６５ （２０２）	１，０６４ （　７５２）	１，５９０ （４１３）

人が移動するための歩道がバリアフリー化されていることも資産と捉え、中川区・港区に存在するバリアフリーについて歩道を現地実地調査した。すなわち、子供から大人やお年寄りまで誰でも安全で安心して歩き回れるために障害のない歩道が必要であるため、中川区・港区には視覚障害者誘導用ブロック設置対象道路が存在している。全体（図６．１）そして地域を特定して小本駅道、荒子駅道、南荒子駅道、中島駅道、名古屋競馬場前駅道、荒子川公園駅道、稲永駅道の点字用ブロックを実地調査（図６．２～６．５）した。

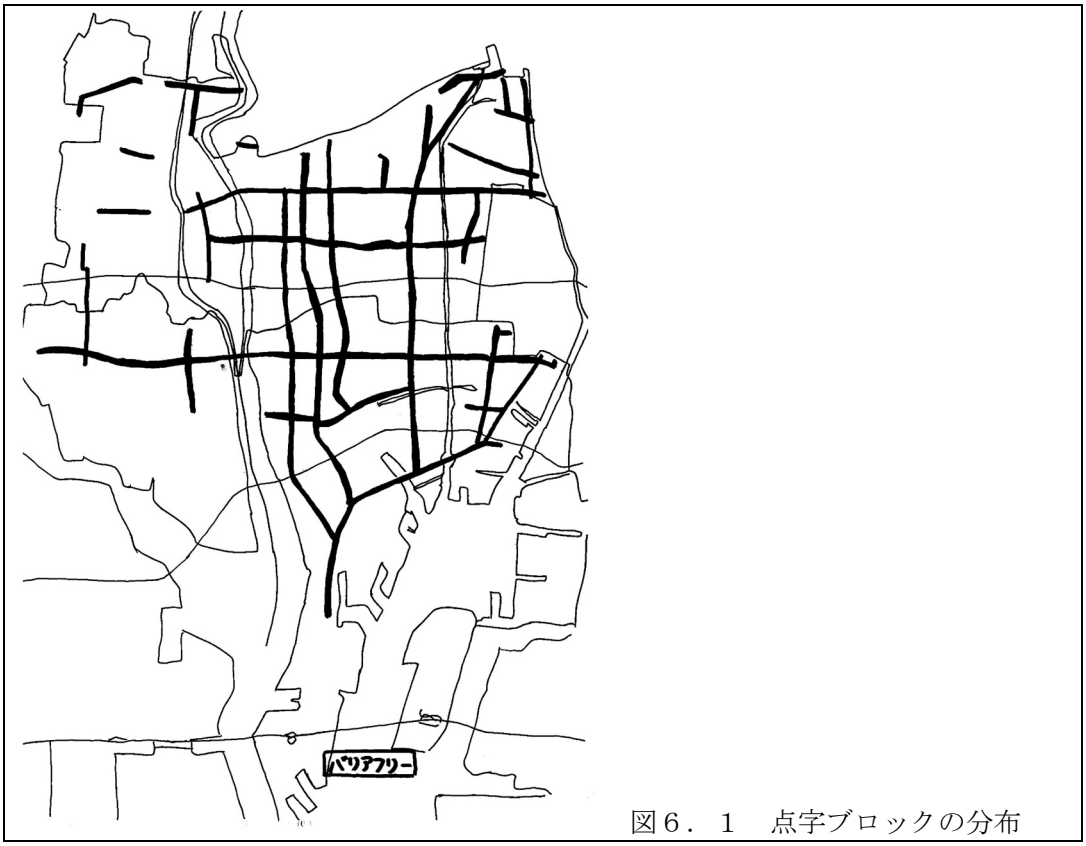


図６．１　点字ブロックの分布

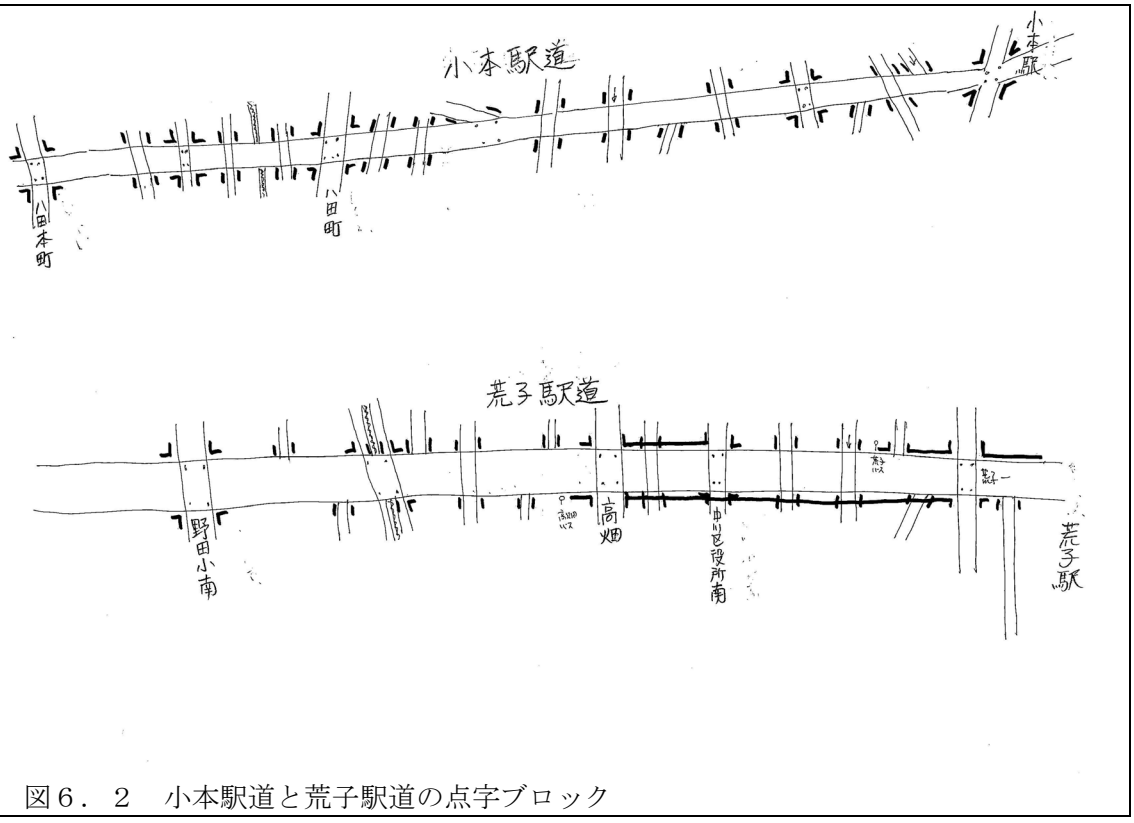


図６．２　小本駅道と荒子駅道の点字ブロック

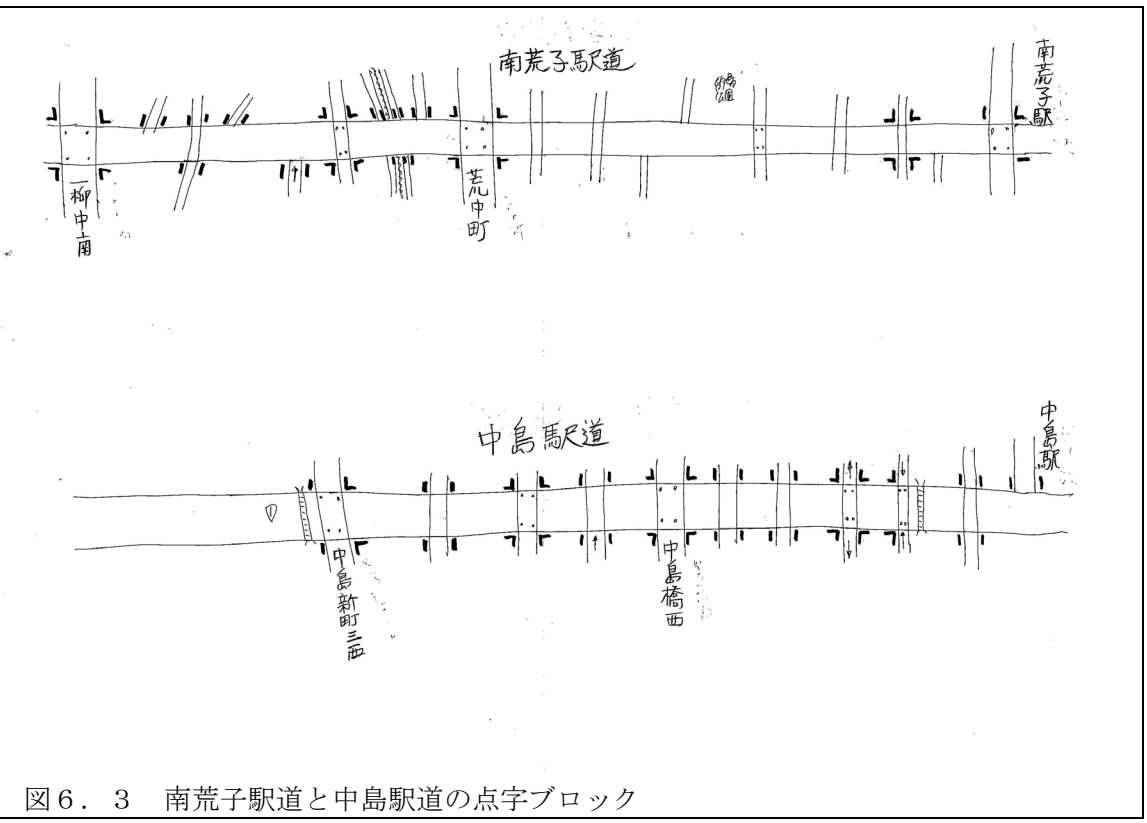


図６．３　南荒子駅道と中島駅道の点字ブロック

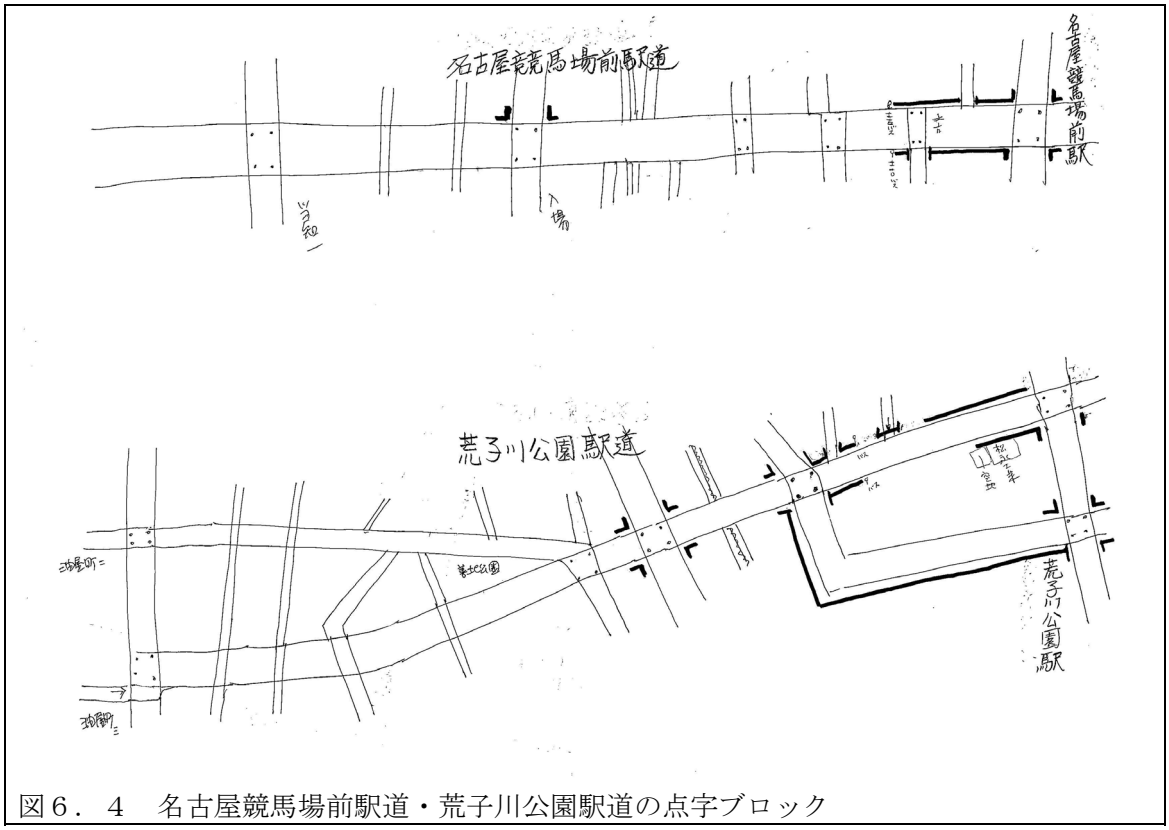


図６．４　名古屋競馬場前駅道・荒子川公園駅道の点字ブロック

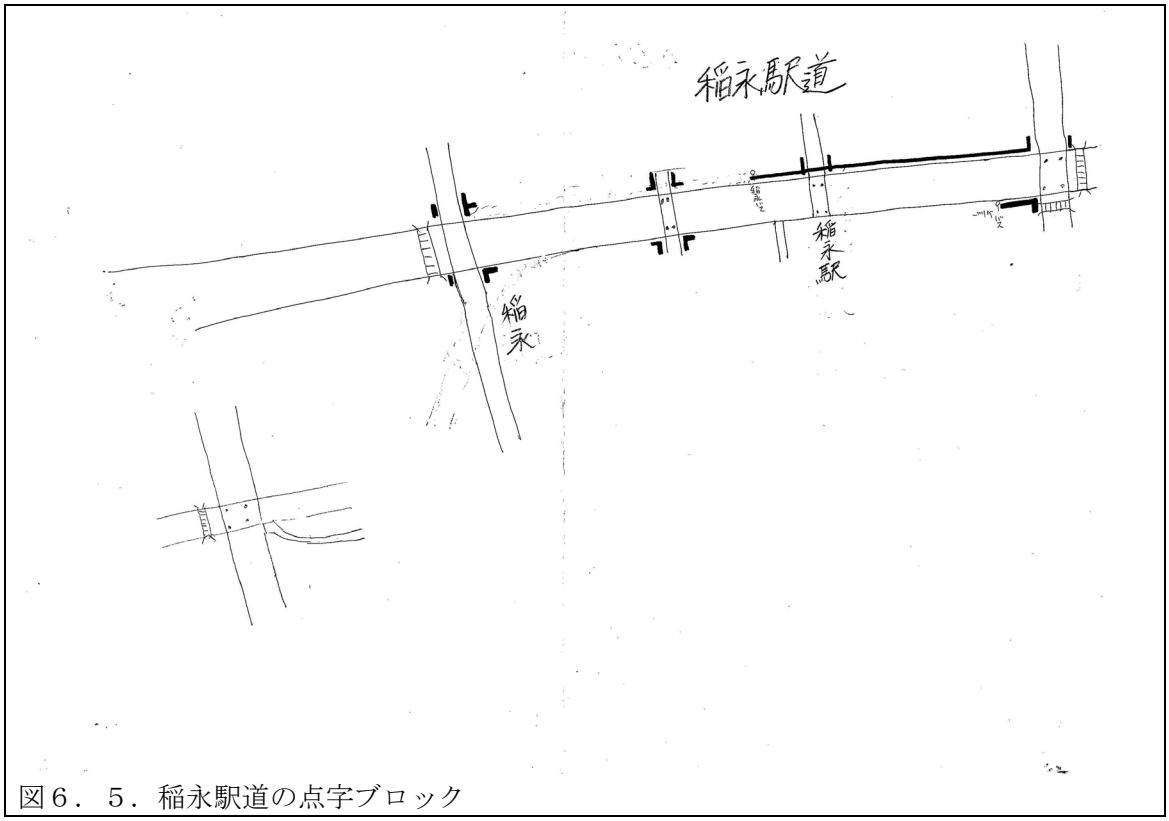


図６．５．稲永駅道の点字ブロック

７　まちなみ

中川区には、赤星、万場、千音寺、明正、春田、戸田、豊冶、長須賀、西前田、五反田、正色、野田、荒子、中島、西中島、常磐、篠原、昭和橋、玉川、八幡、露橋、愛知、広見、八熊の２４学区がありそれぞれのまちなみを形成している。産業・中分類による事業所総数が１０，８３３数所存在している。[16]　港区には、西福田、福田、南陽、明徳、当知、高木、神宮寺、港西、野跡、稲永、大手、小碓、正保、成章、東海、中川、港楽、西築地、東築地の１９学区がありそれぞれのまちなみを形成している。産業・中分類による事業所総数が７，３９８数所存在している。[16]

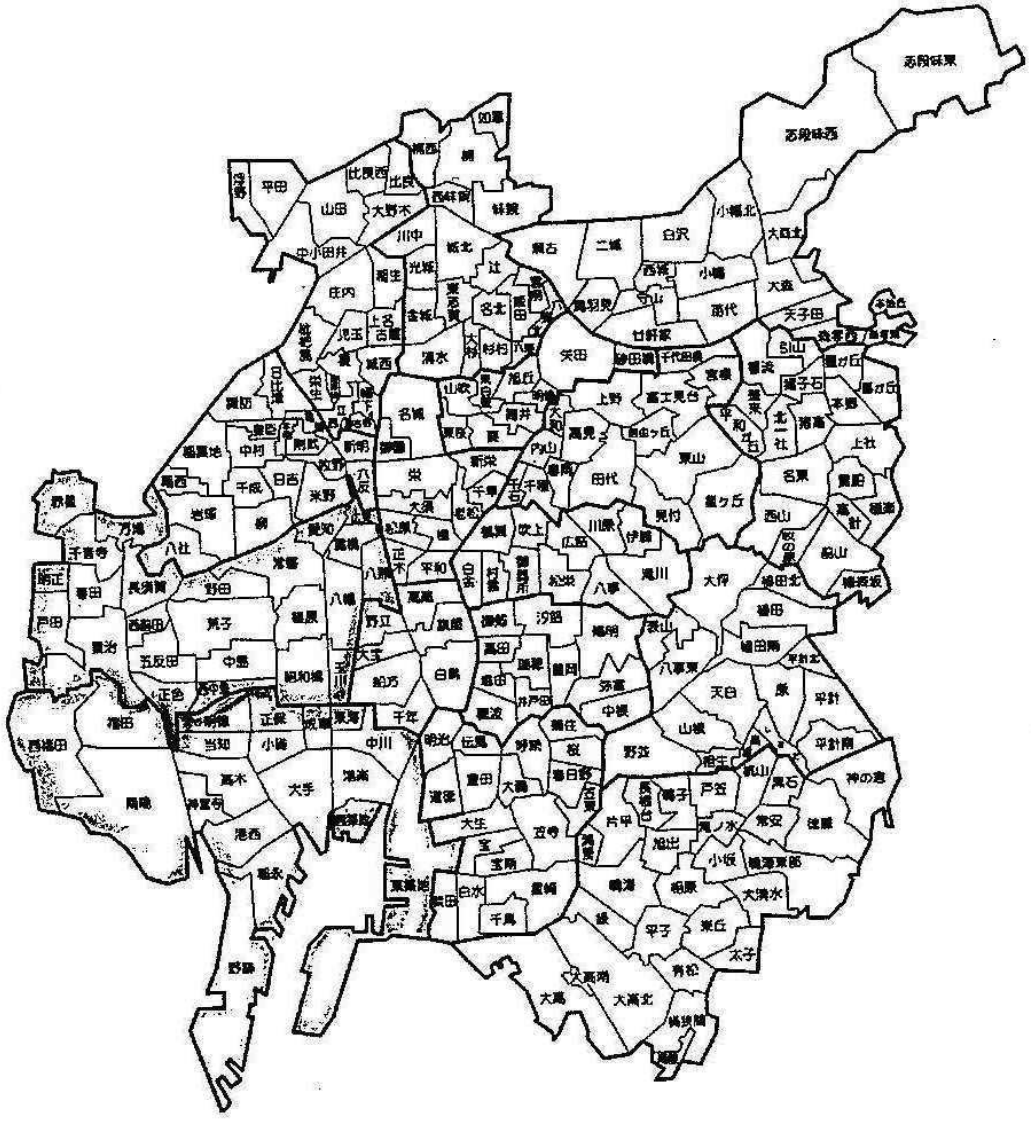
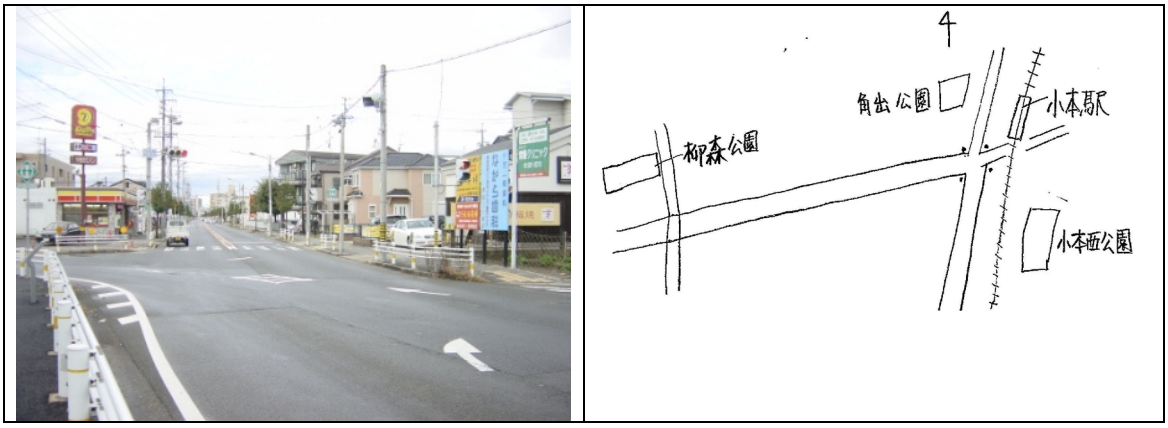


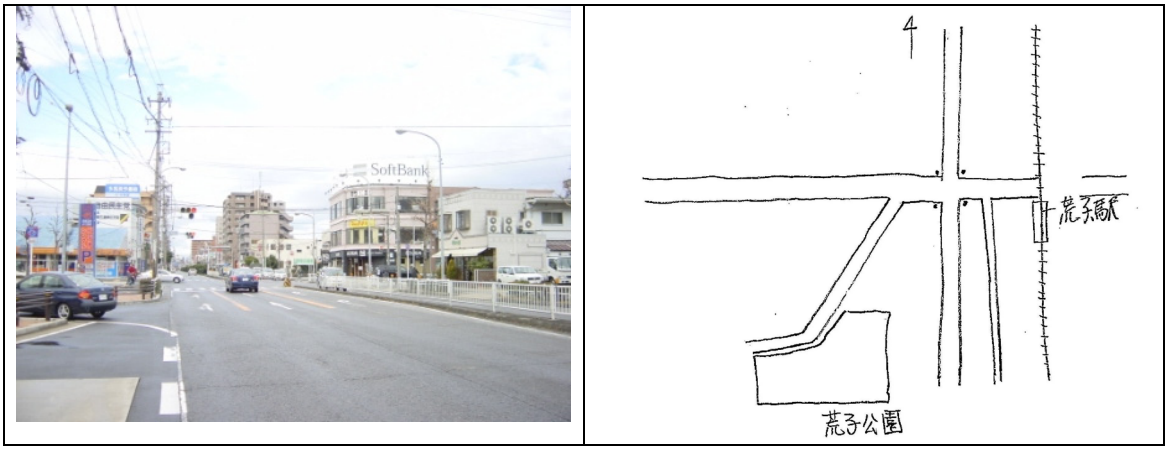
図６．学区の分布　　出所：『名古屋市統計年鑑第９６回Ｈ１７年版』

それぞれのなかから小本駅道、荒子駅道、南荒子駅道、中島駅道、名古屋競馬場前駅道、荒子川公園駅道、稲永駅道のまちなみを実地調査したので、下記に表示する。

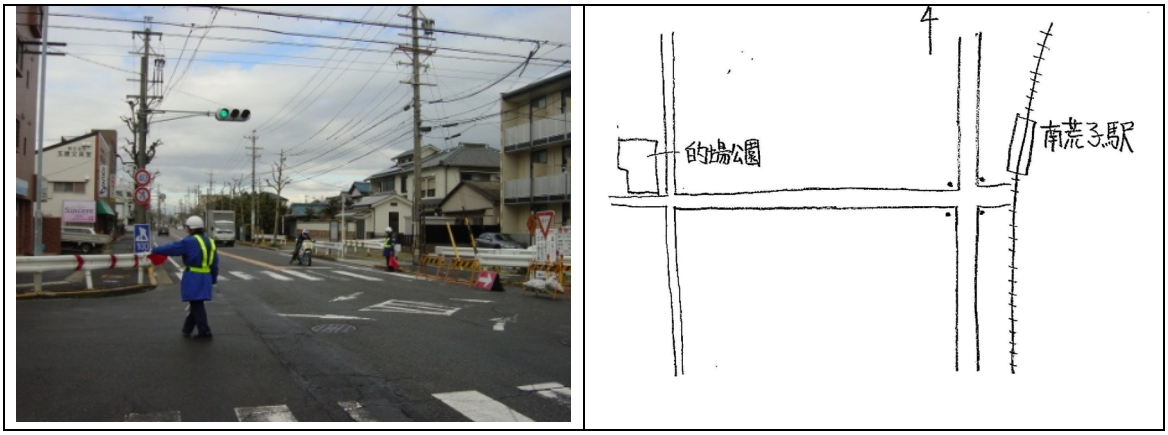
小本駅　小本駅の西の風景と地図



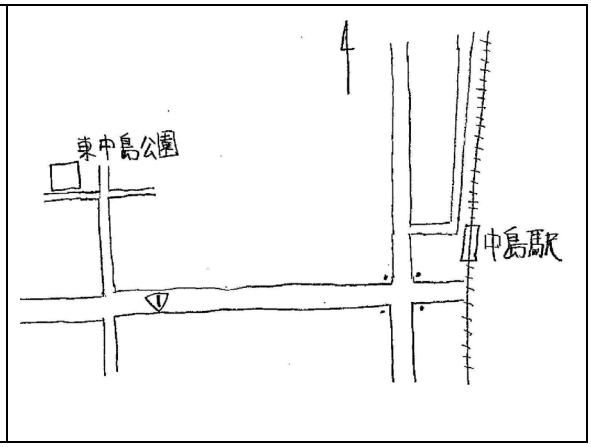
荒子駅　荒子駅の西の風景と地図



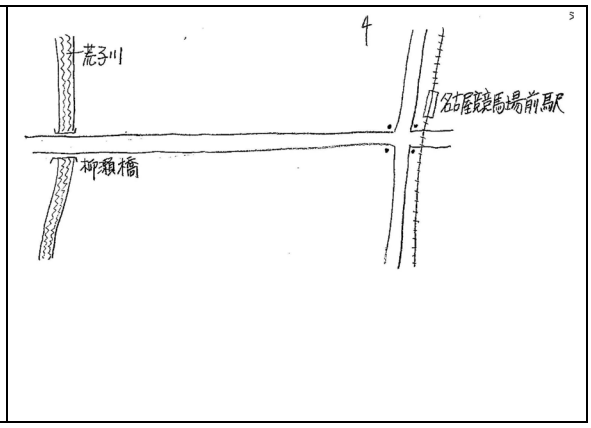
南荒子駅　南荒子駅の西の風景と地図



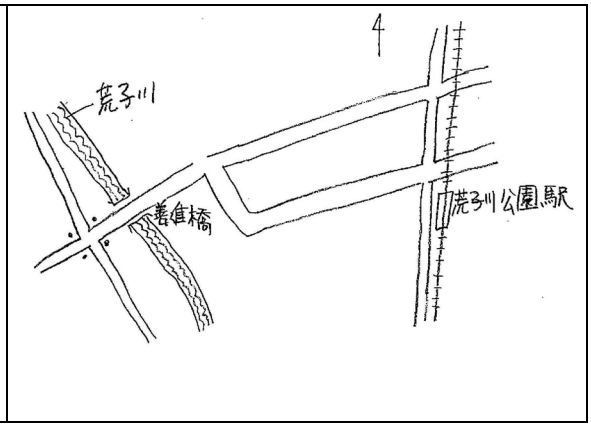
中島駅　中島駅の西の風景と地図



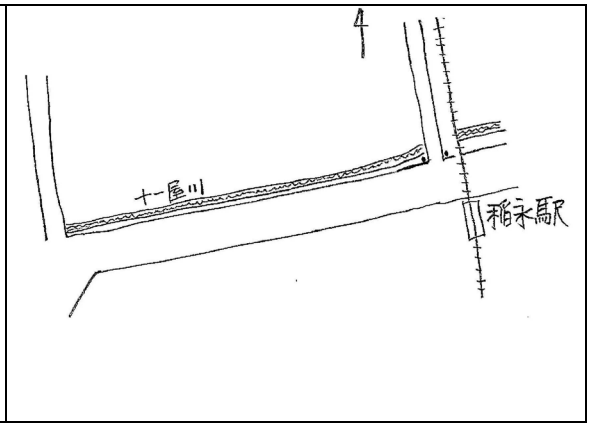
名古屋競馬場前駅　名古屋競馬場前駅の西の風景と地図



荒子川公園駅　荒子川公園駅の西の風景と地図



稲永駅　稲永駅の西の風景と地図



８　人的資産

中川区には人口２１７，６１４人、男子１０８，３６３人・女子１０９，２５１人、
世帯数８７，５６７数、
１５歳未満３１，３７２人、男子１６，０９３人、女子15，２７９人、
１５歳以上６４歳未満１４４，０４７人、男子７３，５４０人、女子７０，５０７人、
６５歳以上４０，５７６人、男子１７，７５７人、女子２２，８１９人
が居住している。[17]

港区には人口１５１，８９６人、男子７６，３１２人・女子７５，５８４人、
世帯数５９，８３０数、
１５歳未満２２，２４９人、男子１１，３５４人、女子10，８９５人、
１５歳以上６４歳未満１０１，９４７人、男子５２，８７０人、女子４９，０７７人、
６５歳以上２７，６２１人、男子１２，０００人、女子１５，６２１人
が居住している。[18]

＊：中川区・港区両区とも人口・世帯数は平成１８年１０月１日現在の国勢調査の結果を基準として、その後の異動数を「人口動向調査」により、加減する方法により、平成１９年２月１日現在を示す。年齢人数は平成１７年１０月１日現在の国勢調査の結果を基準として、その後の異動数を「人口動向調査」により、加減する方法により、平成１８年１０月１日現在を示す。

地域に密着した人的資産として、写真師・造園師・板金工・自動車整備士・時計修理技術職・しぼり職・旗染師・友禅染師・洋服仕立師・縫製職・和裁士・帽子製造職・木工挽物工・仏具木地師・仏具呂色師・仏具彫刻師・家具職・いす製造職・建具職・製本職・製めん職・製菓職・豆腐製造工・煮豆そう菜製造職・電気工事工・建築大工・屋根職・左官・とび職・れんが積工・タイル張工・配管工・畳職と様々な職種を抽出した。

名古屋市では、永年の経験と技能を必要とする手づくりの分野で「この道一筋」に励んでこられた功労顕著な技能者をたたえることにより、勤労意欲の向上と技術水準の維持・向上を図ることを目的に、昭和４６年度から「名古屋市技能功労者表彰」を行なっている。

この表彰を受けることができる方は、（1）名古屋市内に居住し、年齢60歳以上の方（２）技能者として同一職種の経験を３０年以上有し、現在もその職種に従事している方（３）すぐれた技能を有し、他の技能者の模範と認められる方、（４）過去にこの表彰を受けていない方で、各条件を満たす必要がある。

平成１８年度は、６７職種３００人の方々が１１月２３日（勤労感謝の日）に名古屋市公会堂において表彰を受け、名古屋市長から表彰状と記念品が授与された。表彰を受けられた方の平均年齢は６６歳で、平均従事年数は４５年であった。また、最高年齢は男性が７７歳で、女性が７５歳であった。そこで、平成１７年度の５１名（中川区３０名、港区２１名）と平成１８年度の５１名（中川区３６名、港区１５名）の１０２名の名古屋市技能功労者この方々に、下記のアンケート内容を送付することにした。

１．この道にお幾つのときに入られて何年ですか
２．動機はどんなことでしょうか
３．この仕事はお好きでしょうか
４．信念とか信条とかはございませんか
５．大切に思っておられることはございませんか
６．技能とか技能はどのようにしたら身につきますか
７．幾つまで続けられますか
８．この仕事を続けられて嬉しかったことはどんなことでしょうか
９．この仕事を続けられて悲しかったことはどんなことでしょうか
１０．後継者についてはいかがでしょうか

実際は個人情報保護のために住所が公開されていないため、名古屋市技能功労者の氏名から電話帳に記載のある住所を調べて、アンケートを送付した。名前の掲載の無い方、同姓同名の方が区内に複数みえる方がいたため、アンケート送付件数８８通、回収数８通、回収率９．１％であった。その回答をまとめたものを次頁に示す。

名古屋市技能功労者アンケート集計（１）

注：文章は原文どおり

	問１ 職について何年か	問２ 動機	問３ 仕事に対しての好感	問４ 信念、信条	問５ 大切に思っている事	問６ 技能の習得方法
ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ　60 代	15 歳から、53 年間	手に職を	自分に合うので		お客様が大事	毎日が修業
左官　50 代	13 歳から、40 年間	生活が苦しく家族のため	好きです	あてがわれた仕事は徹底的に	お客のため	長年の経験
建築大工　70 代	15 歳から、55 年間	兄が大工になりたかったけれども、収入が少ないので私に薦めたそうです	好きです	信念	型わくの一級技能さを昭和 55 年にいただいたことです	一生懸命に働く
時計修理　60 代	15 歳から、51 年間	親の職業	好きです	真面目さ	物を大切にする	自分の努力
70 代	27 歳から、43 年間	なぜかひとり立ちの仕事が好き	好きです	自分が建てた家を大切にしてもらいたい	自分が建てた家を大切にしてもらいたい	努力一本
理容師	16 年間	親の後を継ぐ	好きです	お客様に満足してもらう仕事をする	お客様を大切にする	自分自身、目で見て覚える。 解らない時は納得するまで聞く
電気工事　70 代	16 歳から、56 年間	仕事なら何でもよかった	好きです	自分の仕事に自信を持つ	仕事は何度も確認する	目上の人の仕事をよく見て、自分の身につける
建築大工　70 代	58 年間	父親にすすめられて	まあ好きです	あります	うそを言わず	一生懸命だと思います

名古屋市技能功労者アンケート集計（２）

（前頁の続き）	問７ 職の継続	問８ 仕事をしていて楽しかったこと	問９ 仕事をしていて悲しかったこと	問10 後継者の有無	署名の有無
ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ　60代	元気でいられるまで	お客様が『仕事が丁寧』と言ってくれた時			有り
左官　50代	元気なうち、一生涯（楽しいから）	お客様に喜んでいただいた時、無事に仕事が終わった時	小さい時からやっているため、同級生に会う時が悲しかった	若い人が職人になって欲しい、そのために私の仕事を身につけてほしい！！	無し
建築大工　70代	今はちょっと病気して休んでいます	自分が携わったマンション他を見ると嬉しいです	若いときに弟に就かせようと思ったけれども亡くなった時です	甥が少し手伝っていましたけれど、今は営業の方で働いています	有り
時計修理　60代	70歳	お客様に喜んでいただく時	無し	無し	有り
70代	70歳	独立して自分に一戸建ての家が建ち完成が楽しみ	無し	無し	無し
理容師	目標は80歳	地域大会で優勝したこと	今年同業者が減ること	後継者は今は無しです	有り
電気工事　70代	70歳	仕事が完成した時	仕事がないとき	おります	無し
建築大工　70代	わかりません	皆さんに喜ばれたことです	お金の件です	後継者については私の所は２人居ます	無し

９　藤前干潟

名古屋市野鳥観察館は昭和６０年に藤前干潟の庄内川河口に面する稲永公園内に建てられた。藤前干潟の中でも庄内川河口は、以前よりシギ・チドリを中心とした水鳥の全国有数の渡来地として知られ、春・秋の渡りの時期にはシギ・チドリ類が多く飛来し、冬期には数万羽のカモやハマシギなどが川面や干潟を埋め尽くし、年間を通し１２０種以上の野鳥が観察できる。

藤前干潟は、名古屋港西南、臨海工業地域の中にある干潟であり、面積はおよそ２５０ヘクタールである。伊勢湾に残る最後の干潟で、国設鳥獣保護区特別保護地区に指定されているほか、２００２年１１月１８日にラムサール条約*登録地に指定された。

写真１　松並木（庄内川河口の東側）

写真２　写真１の松並木より藤前干潟を望む
正面の干潟部分の点々は鳥である

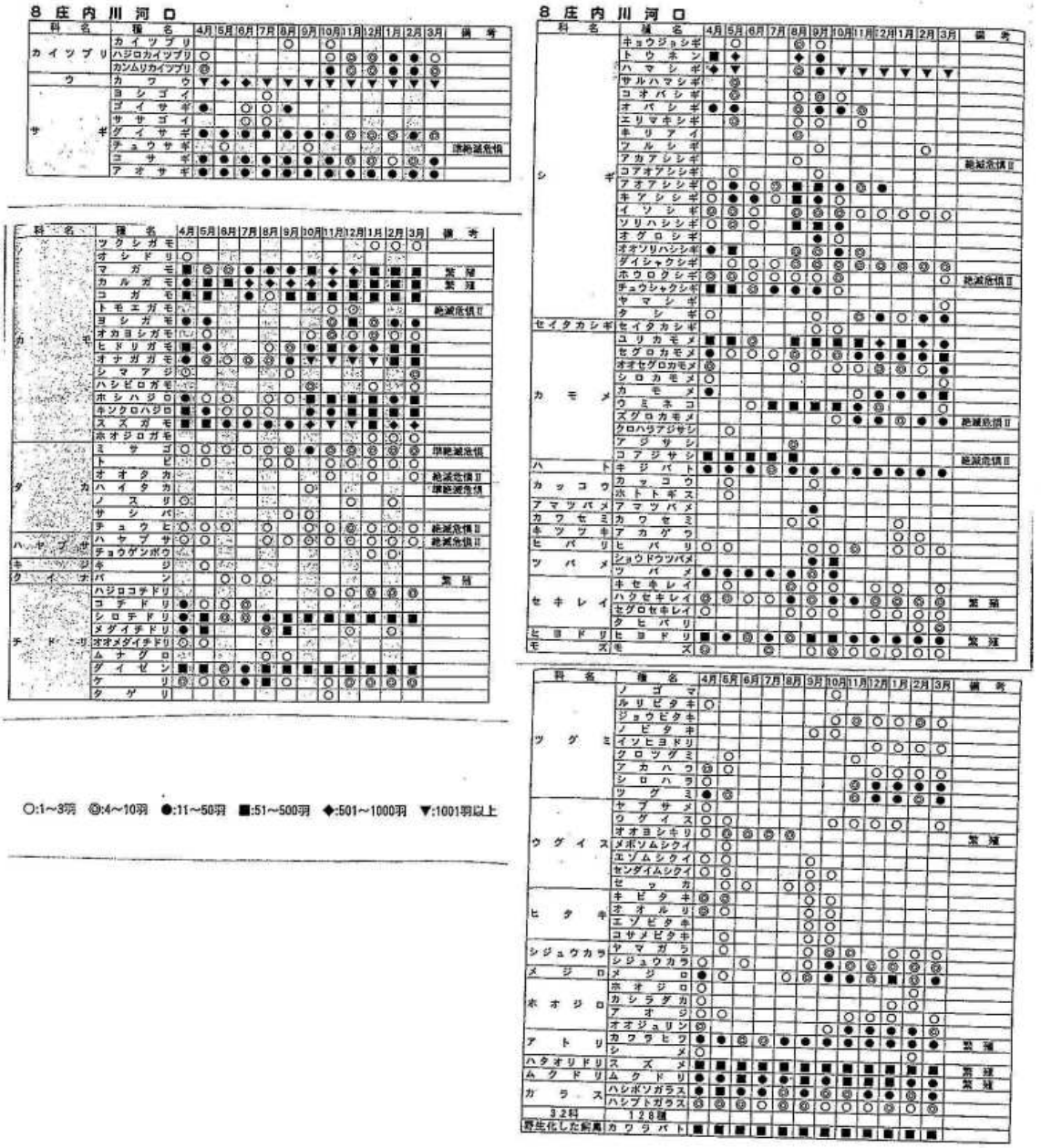
写真３　干潮時の藤前干潟を望む（手前は干潟）

＊：水鳥にとって貴重な生息地である湿地における生態系を守る目的で１９７１年に制定され、１９７５年発効した湿原の保存に関する国際条約である。通称は、この条約に関する最初の国際会議が開催されたイランの都市ラムサールに因んでいる。ラムサール条約の締約国は水鳥の生息にとって重要な湿地を指定して、指定湿地は事務局の登録簿に登録される。締約国は指定湿地の適正な利用と保全について計画をまとめ、実施する。日本では当該湿地等を鳥獣保護区特別保護地区に指定し、鳥獣の捕獲はもとより植物採取や埋立などの人為的開発からも保護するといった対応がされる。２００５年現在、締結国は１４７国。登録湿地数は１５２４であり、日本は33か所である。第一号が釧路湿原（北海道）、中部地方では片野鴨池（石川）、琵琶湖（滋賀）、佐潟・尾瀬（新潟）、三方五湖（福井）がある。

野鳥の飛来地として有名であることの裏付けとして資料９．１に庄内川河口（野鳥観察館）で観察できる野鳥数を示す。

資料９．１　庄内川河口（野鳥観察館）で観察できる野鳥数（平成１６/４～１７/３）

出所：名古屋市緑政土木局農業技術課『名古屋の野鳥　名古屋市野鳥生息状況調査報告　－探鳥地ガイド－』名古屋市緑政土木局農業技術課、平成１８年３月



１０　金城ふ頭

株式会社ブランド総合研究所（本社：東京都港区）は２００６年８月に国内全７７９市を対象にした市の認知度、魅力度、情報接触度、市のイメージ（親しみなど１６項目）、情報経路別の接触度（旅番組など１４項目）、観光経験＆意欲、居住経験＆意欲、産品の購入経験＆意欲、観光イメージ（町並みがきれいなど１６項目）などの全１０３項目からなる「地域ブランド調査２００６市版」を実施し、2万４５３６人から回答を得た。その結果、全国でもっとも魅力的な市は札幌市（６０．５点）となり、２位は神戸市（５８．０点)、３位は函館市と横浜市（５７．６点）となった（いずれも１００点満点)。

以降、京都市（5位)、富良野市（6位)、小樽市（7位)、鎌倉市（8位)、那覇市（9位)、沖縄市（１０位)、長崎市（１１位)、金沢市（１２位)、別府市（１３位)、福岡市（１４位)、大阪市（１５位)、仙台市（１６位)、奈良市（１７位)、旭川市（１８位)、倉敷市（１９位)、登別市（２０位)、宮古島市（２１位)、そして名古屋市が２２位にランクされていた。

みなとみらい公園の可能性を探る上で、公園として有名な山下公園を有する横浜市と名古屋を比較した。

横浜港を臨む山下公園の西側には広くはないが芝生の広場があり、芝生の木陰にシートを広げてくつろぐ人の姿も多く、「公園」的雰囲気が強い。東側には氷川丸や遊覧船の乗船場などがあり、マリンタワーや元町にも近く、観光地的な雰囲気が色濃くなる。氷川丸船上では連休などには子供向けのアトラクションが催されることも多く、家族連れも少なくない。夏の氷川丸のビアガーデンなども人気のひとつである。東端には水の流れを組み合わせた階段があり、その上は「世界の広場」で、特徴のある造形が楽しい。[19]

氷川丸の前のあたりと、「世界の広場」のさらに東側あたりには花壇があって、季節毎の花々が美しく、花や植物に興味のある人にとっても楽しめる。有名な「赤い靴はいてた女の子」像をはじめとして、園内にはさまざまな野外彫刻やモニュメントが点在しており、それらをそれぞれのエピソードとともにひとつひとつ見て歩くだけも楽しい。独りで歩くこともできる。また、大桟橋の入口から山下埠頭までのおよそ１キロメートルの長さで海岸に面し、約７万平方メートルを有する。山下公園で潮風に吹かれながらの散策やのんびりとベンチに腰を下ろして、港を行き交う船や、湾の向こうに見えるベイブリッジを眺めながら、のんびりと時を過ごすのはなかなか贅沢な気分がする。[19]

公園としての必要なものを考えるために、下表に我々が名古屋みなと・みらい・ゆめ公園の設置を考えている金城ふ頭について、現地調査を行い、アクセス性、風景、公園としての設備、近隣施設等を比較した。

表１　名古屋と横浜の比較

	名古屋（金城ふ頭）	横浜（山下公園）
アクセス	鉄道（あおなみ線） 市バス（遠い：野跡まで） 高速道路（伊勢湾岸自動車道）	鉄道（ＪＲ、東急線） 市バス 海上（シーバス）
風景	名港トリトン	ベイブリッジ（遠い） 大桟橋
歴史的建造物	１０号地灯台（遠い） 人造石による護岸工事	レンガ倉庫等が点在する
色調の統一	あり（港湾設備の色の規定）	あり
ライトアップ	あり 　工場や高速道路のライトが結果的にライトアップになっている。	あり
観覧車	あり（遠い）	近くにあり
公園	中央緑地	山下公園
船	南極観測船ふじ（遠い）	氷川丸
遊覧船	遊覧船あり	遊覧船あり
タワー	ポートビル（遠い）	マリンタワー
ビアガーデン	ポートビルにあり（遠い）	氷川丸でビアガーデン
花や植物	不十分 （ブルーボネットは遠い）	あり
野外彫刻	ない	あり
モニュメント	麒麟像（南京市との姉妹都市） トウーラの戦士（メキシコ）	赤い靴の人形
ベンチ	人の集るところに少ない	海を臨むベンチ
レストラン、ショップ	ファニチャードーム 　（規模が小さい）	赤レンガ
並木	やしの木並木 野跡の庄内川沿いの松並木	イチョウ並木
その他施設	結婚式場（アンジェローブ） ドッグラン フットサル場 ポートメッセなごや	横浜ドーム
近隣施設	稲永スポーツセンター フェリーターミナル	
名古屋港が誇るもの	藤前干潟 名古屋市野鳥観察館	

設備としてはあるが、場所が離れているとか、規模が小さいという問題がある。

写真１　トリトン（中央）

写真２　ポートメッセなごや

写真３　麒麟像

写真４　トウーラ戦士像

写真５　中央緑地（ドックラン）

写真６　名古屋ベイフットサルクラブ

写真７　結婚式場（アンジェローブ）

写真８　ファニチャードーム

写真９　ファニチャードーム（ベンチ）

写真１０　ラムサール条約湿地藤前干潟モニュメント

写真１１　稲永ビジターセンター

写真１２　フェリーターミナル

引用文献

１ 名古屋市土木局（編）『河川・水路等管理事務便覧』名古屋市土木局、平成８年３月

２ 名古屋市住宅都市局臨海部推進室『中川運河』平成１２年８月

３ 名古屋港管理組合『名古屋港湾台帳』平成１８年４月

４ 名古屋市緑政土木局河川部河川計画課『水路管理図（港区）』名古屋市緑政土木局河川部河川計画課、平成１８年３月

５ 名古屋市緑政土木局河川部河川計画課『水路管理図（中川区）』名古屋市緑政土木局河川部河川計画課、平成１８年３月

６ 名古屋市緑政土木局『橋梁個所図』名古屋市緑政土木局、平成１８年３月

７ 名古屋国道事務所　名古屋国道維持第三出『2/2 一般国道 23 号道路台帳附図縮小版 1/1000』名古屋国道事務所、平成16年3月

８ 名古屋市緑政土木局緑地部緑化推進課編『名古屋市みどりの基本計画　花・水・緑なごやプラン』名古屋市、平成１３年３月

９　名古屋市緑政土木局緑地部緑地管理課『名古屋市　みどりの年報２００６年』名古屋市緑政土木局緑地部緑地管理課、平成１８年

１０　名古屋市緑政土木局『２００６年　名古屋市の公園』名古屋市緑政土木局、平成１８年

１１　http://www.port-of-nagoya.jp/

１２ 名古屋臨海高速鉄道(株)『都心港をつなぐあおなみ線「ご利用ガイド」』

１３ 名古屋市中川区役所地域振興課『中川区史跡散策路』名古屋市中川区役所・名古屋市教育委員会

１４ 名古屋市港区役所地域振興課『港区史跡散策路』平成１５年３月再版、名古屋市港区役所・名古屋市教育委員会

１５ 荒子観音発行パンフレット『尾張四観音　荒子観音寺』

１６ 名古屋市総務局企画部統計課（編）『平成１７年版　名古屋市統計年鑑』名古屋市総務局企画部統計課、平成１８年３月

１７ 名古屋市中川区役所総務課統計選挙係（編）『中川区の世帯数と人口』名古屋市中川区役所総務課統計選挙係、平成１９年２月

１８ 名古屋市港区役所総務課統計選挙係(編)『港区の世帯数と人口―平成１８年人口動向調査―』名古屋市港区役所総務課統計選挙係

１９ http://www.hamakei.com/special/94/index.html

第３章　中川区・港区の資産の活用アイデア

第２章では、項目毎・区毎に現状・現在の資産の抽出を行った。これらを受けて資産の再発見ができたので、人が集る中川区・港区、住んでいる人の心が豊かになる中川区・港区をめざした活用アイデアを提示する。

１　提案１：　「あおなみ線を活用しよう！」

１．１　「あおなみ線に乗って出掛けよう！」

名古屋市中村区の始点・名古屋から中川区、港区を経由して終点・金城ふ頭までの「あおなみ線」を取り上げる。

市営地下鉄とは違い、高架上を走っているため車窓からの景色が良く、各駅も駅内のスペースが広くとられており、快適である。

小本駅付近は、名古屋市西部地域療育センター・名古屋市立西養護学校、名古屋市立常磐小学校、地下鉄、近鉄 JR・八田駅、角田公園がある。

荒子駅付近は、荒子観音・中川図書館・中川文化小劇場・荒子公園がある。南荒子駅付近は、山塩緑道・細米公園がある。

中島駅付近は、北江公園・名古屋市立工業高校がある。

名古屋競馬場前駅付近は、名古屋競馬場・愛知県武道館がある。

荒子川公園駅付近は、盲導犬センター・荒子川公園がある。

稲永駅付近は、十一屋川緑地がある。

野跡駅付近は、稲永公園・名古屋市サッカー場・名古屋市野鳥監察館・稲永ビジターセンター・稲永スポーツセンター・藤前干潟がある。

金城ふ頭駅付近は、名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや)、結婚式場アンジェローブ、ファニチャードーム、名古屋ベイフットサルクラブ、ドッグラン場、金城ふ頭中央緑地がある。

さらに､あおなみ線の名古屋駅構内にはあおなみギャラリーが開設されたり、「あおなみ線　名所めぐり」や「あおなみ線　見所案内車両」などイベントが開催されたりしている。その他にも、ボランティアグループ「はっけん・たんけん・中川区　まちの魅力発信隊」メンバー作、あおなみ線の歌である「あおなみ旅情」は、あおなみ線を利用して行くことができる名所を歌っている。あおなみ線には様々な魅力が隠されているので、各駅に歩いて楽しい、見て楽しい、みどりのみどころを紹介し、あおなみ線の魅力を紹介したい。

また、あおなみ線の利用率を上げて、赤字廃線とならないようにしたい。

そこで、下記の１０点を提案する。

（1）「２日限定キップ」を大人６００円・小人３００円で発行しよう。歴月一月間のうち２日を指定して自由に乗降車できることにする｡いつでもどこでも購入できるように

して、多くの人が訪れたり、住んでいる人が色々な魅力資産に触れる機会を増やそう。

（2）「貸切列車」にしよう。幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校の遠足社会見学、企業等のイベント列車、子ども会・女性会・老人会・自治会等の懇親会に利用し、あおなみ線の利用率のアップを図ろう。

（3）あおなみ線の見所を「アナウンス」しよう。中川区の小本駅・荒子駅・南荒子駅・中島駅、港区の名古屋競馬場前駅・荒子川公園駅・稲永駅・野跡駅・金城ふ頭駅の見所を誰にでも分かり易く丁寧にアナウンスしよう。他地区からの来訪者が来易くなる。駅員の相手の立場に立った案内・説明が必要となる。そのためには、日々の教育・研修訓練や地域の関心毎の持ち方が必要となる。

写真１　椅子・置き台

（4）「椅子・置き台」を設置しょう。幼児・子供・妊婦・老人・ハンディキャップのある人などのために、椅子を設置して電車が来るのを待って頂こう。重い荷物を持った人々のために、置き台を設置しよう。人に対する優しさ・思いやりが鉄道利用者を増やす。

（5）「あおなみギャラリー」を使いこなそう。誰でもが自由に、簡単な手続で、無料で利用できることが必要である。公序良俗に反しない展示物である限り制限を設けない。一週間単位のギャラリー使用であれば、５２個数のギャラリーができる。更に、各駅毎の構内に通路ギャラリーを設けよう。

（6）「催物のお知らせ」を掲示しよう。前述を案内するため、各駅毎に立て看板を設置しよう。印刷物でなくても大きめの手書きポスターでよい。駅員が、地域の人々が、幼稚園児・小学生・中学生・高校生・大学生・社会人等に描いてもらおう。それらを１年間集約して「あおなみギャラリー」に展示しよう。地域密着が基本である。

（7）期間限定で「ライトアップ・イルミネーション」をしよう。駅舎を白色と青色でライトアップ・イルミネーションで飾ろう。嘗て花電車・花バスがあったように、電車をイルミネーションで飾ろう。少し高台を走行する飾り付けを施した電車は、遠くからでも目立ちやすく分かり易い。装飾電車は、４月から５月のゴールデンウイーク当たり、７月の港まつり辺り、８月の夏休み辺り、１２月１日から１２月２５日辺りがよかろう。

（８）「オブジェ」を置こう。海をイメージしたオブジェを置こう。地域の人々が、幼稚園児・小学生・中学生・高校生・大学生・社会人等に製作してもらおう。作品展としよう。「あおなみギャラリー」と同様に一週間単位・５２週としよう。展示作品は、地域の駅毎に、製作品全てを展示しよう。

写真２：海をイメージしたオブジェ（遊具）

（９）あおなみ線から良く見える名古屋港の観覧車のライトアップの色を明日の天気によって変えるようにしよう。すなわち、あおなみ線に乗れは明日の天気が分かるようにしよう。

（１０）犬や猫等のペットと一緒に電車に乗れたり、自転車を持ち込めるようにして、地域住民の足となるように、そして、行動範囲が広がるようにしよう。ただし、通常利用の人のことも配慮して、土日限定とするとか、時間帯限定とか、車両限定等の配慮は必要である。

１．２　「あおなみ線を有名地にしよう！」

あおなみ線沿いには目玉となるような若い人が集まる観光スポットが不足しているので、そのようなスポットを増やし、有名地とするために、下記の２点を提案する。

（１）あおなみ線をテーマとした懸賞作品（小説、絵本、ノンフィクション等）を募集しよう。優秀な作品についてはドラマ化や映画化をはかり、ロケ地として有名スポットにしよう。

（２）あおなみ線の歴史、港を含めた周辺地域の歴史、そしてその現状に関する知識のご当地検定として「あおなみ検定」を行う。検定試験を行い、学士、修士、博士のランク付けを行い、それぞれのランクに応じた特典を作り、多くの人に知ってもらおう。

１．３　「文化施設を誘致しよう！」

新幹線からのアクセス、セントレアからのアクセスの利便性を利用し、あおなみ線沿いに下記の４点の文化施設を誘致することを提案する。

（１）環境、湿原や野鳥研究を主とした大学（大学院）や研究機関を野跡から庄内川にかけた地域に誘致しよう。また、稲永スポーツセンターを利用するような体育系の大学や研究機関も誘致しよう。

（２）両区内に点在する神社の歴史や成り立ち、文学を主とした大学（大学院）、研究機関、歴史資料館を荒子付近に誘致しよう。

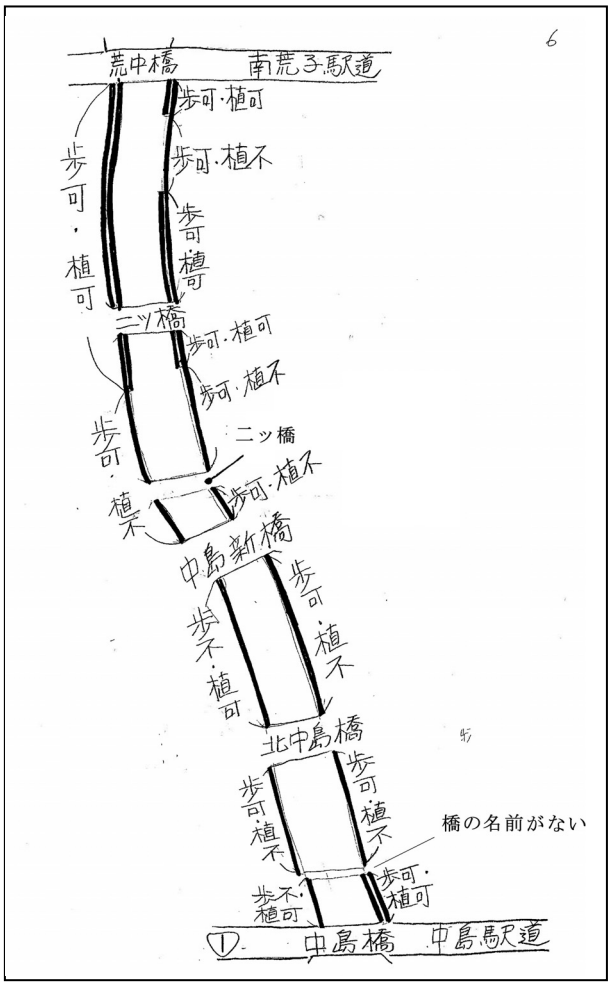
（３）金城ふ頭に地元の芸術家によるオブジェを設置し、芸術に触れる機会を増やそう。
（４）企業を主体とした環境商品のピーアール施設やショールーム、アンテナショップを主体とした産業展示場を誘致しよう。

２　提案２：　「荒子川を活かそう！」

荒子川・十一屋川・小碓運河・南郊運河・荒子川運河・港北運河を取り上げる。荒子川は全長６，９００m、橋が４２橋（名称のない橋を含む）ある。十一屋川は全長５００m、橋が８橋（名称のない橋を含む）ある。小碓運河は全長９０ｍである。南郊運河は全長１５０ｍである。荒子川運河は全長１，２５０ｍである。港北運河は全長４５０ｍである。

そこで、下記の４点を提案する。

（1）「さくら並木」にしょう。名古屋市内には山崎川、八勝通、鶴舞公園、東山公園等と数多くの桜の名称があるが花が少ない。中川区・港区の川・運河を桜の花で満開にしよう。サトザクラ(ヤエザクラを含む)１本１．５ｍ１，５００円から１，８００円、ヤマザクラ１本１．５ｍ１，５００円から１，８００円オオシマザクラ１本２．５ｍ３，８００円から４，８００円を出産・誕生日・入学・結婚・就職記念日等に桜の木を購入して頂き植樹しよう。中川区世帯数８５，５１２世帯、港区５８，８３０世帯ある。一世帯１本でも両区合計１３４，３４２本にもなる。地域学区自治会の人々と協力協働し合い５年間から１０年間で植樹していこう。何処にも見劣りのない見ごたえのあるさくら並木が出来上がるであろう。



（2）　川・運河に「こいのぼり」を揚げよう。桜の花が終わったら、５月には川・運河両岸にこいのぼりを揚げよう。提案―１(６)(８)に述べたように、幼稚園児・小学生・中学生・高校生・大学生・社会人等にこいのぼりを製作してもらい、製作発表会としよう。家庭にあるこいのぼりを揚げてもらおう。

（3）「川下り・川上り・川遊び」をしよう。４月から１０月の暖かい気候のよい時季に荒子川で川下り・川上りを行おう。八田中橋から境橋までは川幅が狭いため、二人用の小ボートで、川下り・川上りを交互に行おう。二ツ橋から善進橋までは川幅が広いため、川下り・川上りを同時に行おう。何れもライフジャケットは装着しよう。

川遊びは､荒子川始点の名前のない橋(地下鉄八田駅近く))から境橋までは川幅が狭いため、川をせき止めて魚つり大会を開催しよう。

（4）「月見会」をしよう。荒子川で中秋の名月には川面に映る月を、夜空の月を観賞しよう。名前のない橋にスペースがあるため、地域の人々と協力・協働し合い時間を限定して消灯してもらおう。

３　提案３：　「みどりを増やそう！」

２００６年、パラマウント・ピクチャーズが製作したアメリカ元副大統領アル・ゴア主演のドキュメンタリー映画「不都合な真実」では、地球温暖化をテーマにしている。その中で、地球温暖化による気候の変化で地球の大気は著しく悪化していると訴えている。旱魃や山火事の数が増えていること､北極やグリーンアイランドの氷が溶け始めていること、２００５年８月にアメリカ南東部を襲った破壊的なハリケーン「カトリーナ」のような異常気象が起きていること等、すでに地球に異変が起こり始めている。そして、これらの異常現象に対する緊急対応の必要性が高まっているといえるだろう。

更に、都市部の気温がその周辺に比べて異常な高温を示すことで知られているヒートアイランド現象も顕著になっている。ビルや道路のアスファルトによる太陽光の畜熱や、ビルの空調施設から排出される暖気、自動車のエンジンなどから排出される廃熱などが原因とされている。

一方、“自然の叡智”をテーマに世界１２０カ国以上の人々が参加した「２００５年日本国際博覧会（愛・地球博)」が閉幕して２年経った。言葉や文化が違う大勢の人たちが豊かな未来創造を目指して知恵と力を合わせて行われた万博によって、都市環境の改善、みどりは延焼防止としての防災上の役割､地球温暖化の原因物質である二酸化炭素の吸収能力、そして心の安らぎを与えたり文化を育んだりすることなど、“みどりの機能”に気付き、考えるきっかけとなったことから、万博は成功したといわれている。

日本は四季があり、春に新芽が芽吹き、夏に深緑の季節となり、秋に紅葉を愛でる。そして、寒い冬に落葉を集めて堆肥にして、春が来るのを待つ。そういったサイクルをみどりとともに日本人は今までしてきた。夏には木陰に入り涼しさを感じ、木漏れ日の中で空を見上げれば太陽の輝きに自然の美しさを感じることができる。すなわち、自然のみどりは心の豊かさや生活の活動における大切な財産だといえる。この先人から受け継いだ自然のみどりと､みどりを愛する心を私たちは未来の子供たちに残していかなければならない。

心豊かな人間性形成のためだけではなく、大気中の温室効果ガスの削減や気温の調節にも効果を発揮する。更に、緑地が火災時等の延焼防止にも有効である。しかし、現状の名古屋ではまとまった樹林地や農地など減少が続き年々みどりの姿が消えつつある｡そこで、みどりの減少を抑え、５０年、さらには１００年後を見据えたみどりと共存する持続可能な社会を目指す必要がある。

植物は葉の気孔を通して、大気中の炭酸ガスを吸収し、水と太陽エネルギーとで炭水化物を生産し、酸素を出す「光合成」作用や「呼吸」作用を行っている。炭酸ガスの吸収能率は一般的に常緑樹よりも落葉樹の方が大きく、汚染に対する抵抗性については落葉樹より常緑樹、針葉樹よりも広葉樹の方が強いといわれている。また、樹木だけではなく、壁面緑化等に用いられるツル植物にも大気浄化能力が認められている。広い面積を覆い葉量を確保することでその効果を期待できる。

そこで、下記のみどり・はなを増やす下記の７点を提案する。

（1）「あおなみ線沿い」に木や花を植えよう。あおなみ線小本駅から中島駅の東側は、セイタカアワダチソウなどが群生しているので花粉に悩まされる。これを除草し、中川区の木「クロマツ」を中心としてアメリカヤマボウシ(白)１．０ｍ９５０円から１，４００円を、アメリカヤマボウシ(赤)１．０ｍ１，５００円から２，０００円を前項と同様に植樹しよう。中川区の花「ハボタン」を中心として春の花つつじ・菜の花を、夏の花として紫陽花・向日葵を、秋の花としてコスモス・菊を、福寿草・カーネーションを植えたり、フラワーポットにしよう。港区の木「クスノキ」と「サザンカ」、港区の花「ハイビスカス」を中心とした季節の花を稲永駅付近の十一屋川緑道に、野跡駅から金城ふ頭駅に花を植えよう。

（2）「駅道」毎に花を植えよう。小本駅道は、中井筋緑道と言われ田舎風の景観を残している。黄色い菜の花が景観に映えるだろう。荒子駅道は、高畑緑道と言われ都会風の景観が形成されている。色とりどりであるパンジーなどの小さな花が駅道に映えるだろう。南荒子駅道は、駅道幅が狭い。マンションが建ちつつある。ネオンが少なく落ち着いた駅道である。赤色の牡丹・椿が景観を引き立たせるだろう。

（3） あおなみ線の高架を利用し、企業や学校を含めた団体毎に区画を決めて壁面緑化のコンペティション、実証化用のテスト試験場そしてピーアール用にしよう。実証化用のテスト試験場やピーアール用となった場合にも利用金額は抑えてできるだけ多くの団体や人に利用・活用してもらおう。

（4）保存樹を探す中川区・港区内オリエンテーリングを行い、回った木の本数に応じてエコマネー（後述）が得られるようにする。

（5）名古屋市の保存樹の基準に満たしていなくても、保存樹として認定・登録できるような制度を作り、個人や私企業の勝手な都合では樹を切ることができないようにしよう。例えば、准保存樹という制度を作り、守りたい樹があったら、准保存樹として申請し、登録できるようにしよう。

（6）金城ふ頭でみどり・花博を開催しよう。

（7）緑被率の減少の大きな要因となっている農地減少を食い止めるために、後継者がなく農業を継続し難い農地については市民農園としたり、幼稚園・小学校・中学校の農園として利用し、自然や農業との関わりを持てる機会を作ろう。また、企業の福利厚生設備としての農園にしよう。

４　提案４：　「バリアフリーのまちづくりをしよう！」

駅道毎のバリアフリーが全て整備されているわけではない。区役所等の公共施設付近が優先されている。安全で安心で親切なバリアフリーを推進するためにまず初めに、東西の駅道毎の色彩に特徴ある歩道の整備を､全ての歩道に視覚障害者誘導用ブロックの設置を、飲食店等にスロープ等を設置する。

そこで、下記の９点を提案する。

（１）小本駅道は、田舎風の面影を残しつつある駅道であるので灰色の敷石・淡い緑色の敷石を敷き詰めよう。

（２）荒子駅道は、都会風の駅道であるので淡い赤色・薄めの青色・透明性の緑色の敷石を敷き詰めよう。

（３）南荒子駅道は、落ち着いた駅道であるので濃い青色・薄い黄土色の敷石を敷き詰めよう。

（４）中島駅道は、すでに整備されつつあるのでその延長線上の敷石を敷き詰めよう。

（５）名古屋競馬場前駅道は、色彩は限定しないで馬の絵を描いた敷石を敷き詰めよう。

（６）荒子川公園駅道は、ラベンダーの花の絵ややしの絵を描いた敷石を敷き詰めよう。

（７）稲永駅道は十一屋川や荒子川の絵を描いた敷石を敷き詰めよう。

（８）野跡駅道は、野鳥・干潟・サッカーなどの絵を描いた原色の敷石を敷き詰めよう。

（９）金城ふ頭駅道は、名港トリトン・魚・ポートメッセなごや・ドックラン等の絵を描いた敷石を敷き詰めよう。

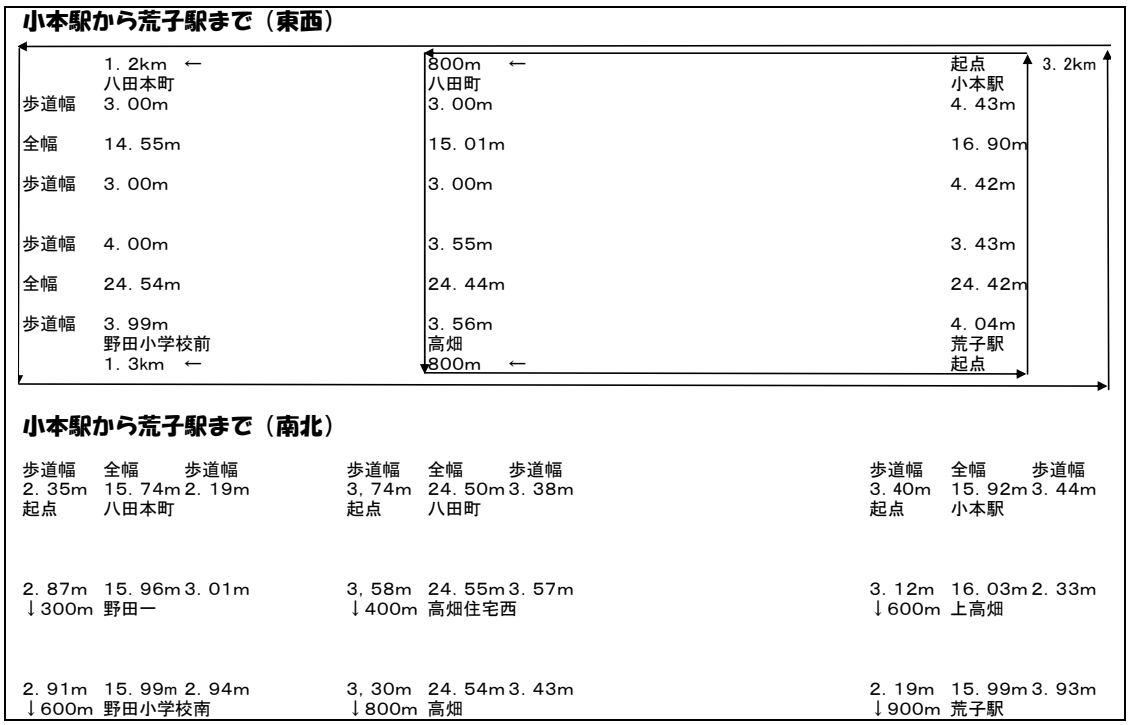
明るく、楽しく、歩きたくなるような、見てみたくなるような敷石にするために地域の人々や幼稚園児・小学生・中学生・高校生・大学生・社会人等に製作してもらおう。また、企業の宣伝もできるようにしておき、その宣伝費等で財源が確保できるようにする。

5　提案５：　「あおなみ線沿いのまちなみを構築しよう！」

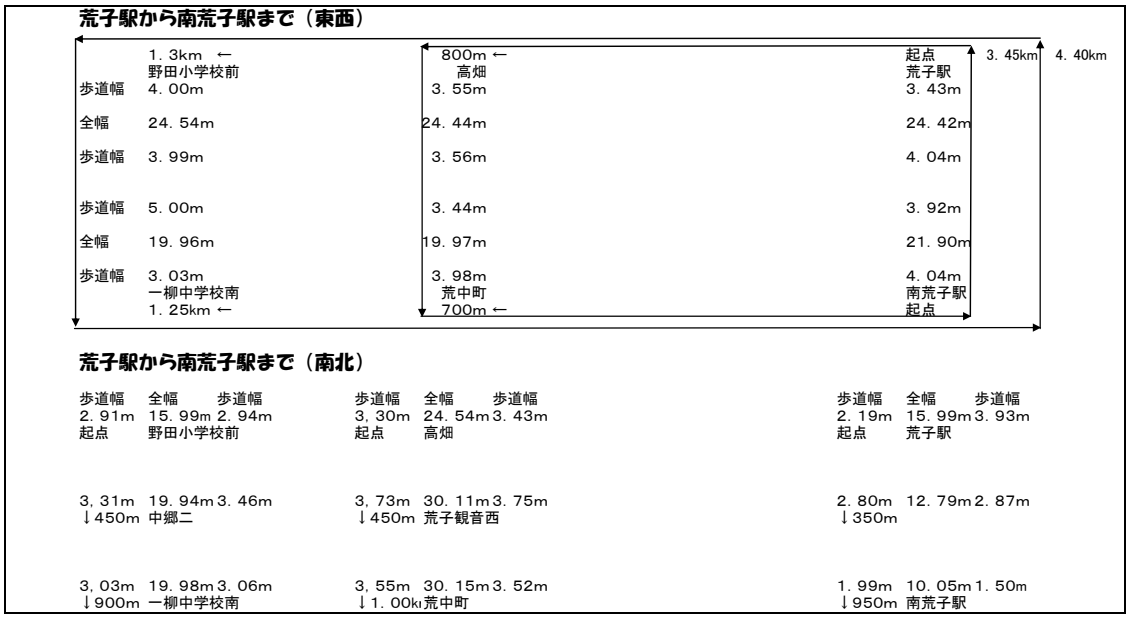
特徴ある駅道毎のまちなみを構築するために下記の提案をする。

（1）駅道毎を循環回遊しよう。歩き回ろう。みどりの木々を眺めたり、小洒落た店を覗いたり、喫茶店で休憩したり、神社・公園を巡ったり、人が歩き回るのに適度な距離として駅道毎の距離図を下記に掲示した。

小本駅道から荒子駅道

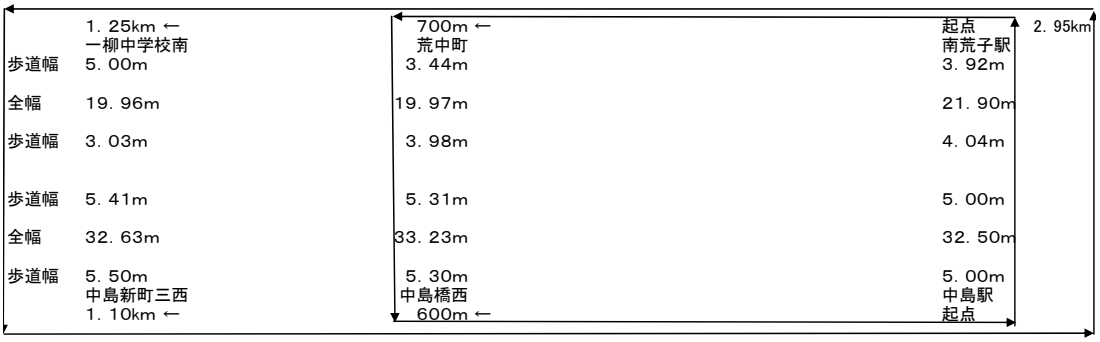


荒子駅道から南荒子駅道



南荒子駅道から中島駅道

南荒子駅から中島駅まで（東西）

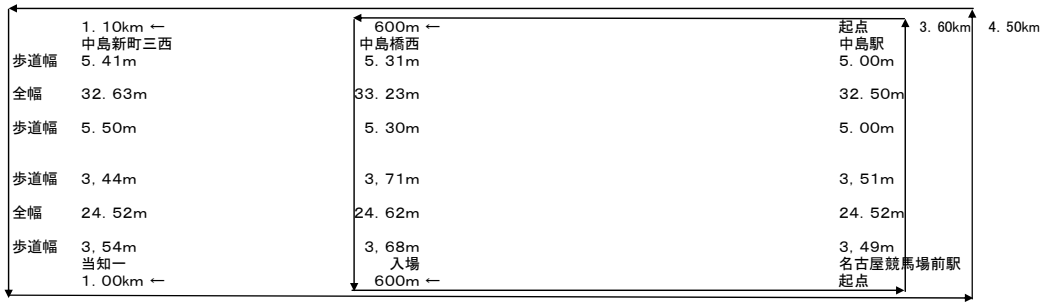


南荒子駅から中島駅まで（南北）

歩道幅	全幅	歩道幅	歩道幅	全幅	歩道幅	歩道幅	全幅	歩道幅
3, 03m	19. 98m	3. 06m	3, 55m	30. 15m	3. 52m	1. 99m	10. 05m	1. 50m
起点	一柳中学校南		起点	荒中町		起点	南荒子駅	
3, 48m	20. 00m	3. 29m	3, 34m	30. 02m	3. 63m	3, 04m	15. 99m	3. 00m
↓450m	中島新町二		↓450m	中島橋		↓400m		
3, 52m	20. 00m	3. 50m	3, 65m	30. 02m	3. 62m	3, 00m	10. 00m	23. 83m
↓900m	中島新町三西		↓900km	中島橋西		↓750m	中島駅	

中島駅道から名古屋競馬場前駅道

中島駅から名古屋競馬場前駅まで（東西）



中島駅から名古屋競馬場前駅まで（南北）

歩道幅	全幅	歩道幅	歩道幅	全幅	歩道幅	歩道幅	全幅	歩道幅
3, 52m	20. 00m	3. 50m	3, 65m	30. 02m	3. 62m	3, 00m	10. 00m	23. 83m
起点	中島新町三西		起点	中島橋西		起点	中島駅	
3, 37m	19. 97m	3. 38m	3, 68m	29. 95m	3. 74m	4. 32m	16. 29m	2. 84m
↓850m	小碓三		↓900m	小碓二 （下る）		↓900m	正保町	
3, 32m	19. 88m	3. 35m	3, 71m	29. 97m	3. 68m	3, 38m	17. 43m	3. 80m
1. 20km	当知一		1. 20km	入場		1. 20km	名古屋競馬場前駅	

名古屋競馬場前駅道から荒子川公園駅道

名古屋競馬場前駅から荒子川公園駅まで（東西）

	1. 00km ←		600m ←	起点	3. 54km
	当知一		入場	名古屋競馬場前駅	
歩道幅	3, 44m		3, 71m	3, 51m	
全幅	24. 52m		24. 62m	24. 52m	
歩道幅	3, 54m		3, 68m	3, 49m	
歩道幅	m		3. 00m	4. 50m	
全幅	m		16. 00m	18. 00m	
歩道幅	m		3. 00m	4. 50m	
	油屋町三		善進橋西	品川町	（下る）
	1. 48km ←		830m ←	起点	

名古屋競馬場前駅から荒子川公園駅まで（南北）

歩道幅	全幅	歩道幅	歩道幅	全幅	歩道幅	歩道幅	全幅	歩道幅
3, 32m	19. 88m	3. 35m	3, 71m	29. 97m	3. 68m	3, 38m	17. 43m	3. 80m
起点	当知一		起点	入場		起点	名古屋競馬場前駅	
3, 45m	19. 97m	3. 51m	3, 55m	18. 06m	3. 47m	4. 90m	24. 70m	10. 44m
↓620m	当知二		↓620m	入場二		↓620m	港北町	
3, 30m	20. 00m	3. 30m	4, 00m	18. 02m	4, 00m	5. 12m	20. 00m	3. 30m
1. 13km	油屋町三		1. 13km	善進橋西		1. 03km	品川町	（下る）

（2）「駅前スペース」を活用しよう。スペース写真を次頁以降に掲示した。

小本駅前スペース・南荒子駅前はスペース・名古屋競馬場前駅前スペース・稲永駅前スペース・野跡駅前スペースは狭小につき活用できない。

小本駅　駅前スペース

荒子駅　駅前スペース

南荒子駅　駅前スペース

中島駅　駅前スペース

名古屋競馬場前駅　駅前スペース

荒子川公園駅　駅前スペース

稲永駅　駅前スペース

野跡駅　駅前スペース

金城ふ頭駅　駅前スペース

荒子駅前スペース・中島駅スペース・荒子川公園駅スペース・金城ふ頭駅スペースでは、「ミニコンサート」を開催しよう。土日祭日に開催しよう。歌謡曲・演歌・ポピュラー・ロック・ジャズ・クラシック等とジャンルは問わない。出演制限も問わない。誰でもが自由に参加出来るようにしよう。

「漫才・落語会・茶会」を開催しよう。これらは、上述の狭小スペースでも可能である。

「朝市・夕市」を開催しよう。土日祭日に開催しよう。フリーマーケット形式でもいいだろう。中川区・港区で収穫できた野菜・果物や加工食品を無人販売でなく、コミュニケーションを伴った対面販売にしよう。

（3）「歩行者天国」にしよう。

まず手始めに、荒子駅道から荒子川の境橋を経由して野田小学校までの１，２００ｍを歩行者天国にしょう。徐々に歩行者天国を駅道毎に増やしていこう。前述と関連させて開催しよう。

（4）「ミニＦＭ局」を開局しよう。

ミニＦＭ局（８５．０ＭＨｚ）のデメリットは、放送範囲２００ｍと狭小である。メリットは、届出が不要であること、狭小が故の地域密着であること、まちのコミュニーション手段に活用出来ること、廉価（開局構築費用は４０万円位）で簡単に取り組めること等である。

まず手始めに、荒子駅道に開局してみよう。荒子一丁目交差点・地下鉄高畑・荒子川の境橋の３拠点とする半径１００ｍに開局しょう。年会費５，０００円、放送時間午後１２時から２１時まで､番組編成は地域の人々を巻き込んだ登録制等とする。基本理念は、「地域に明るさを届ける！」である。

将来は、コミュニティＦＭ局（７６．１ＭＨｚから９０ＭＨｚ）を視野に入れてもよかろう。

（5）「コミュニティ新聞」を発行しよう。

（4）「ミニＦＭ局」と関連させて、小本駅道・荒子駅道・南荒子駅道・中島駅道・

名古屋競馬場前駅道・荒子川公園駅道・稲永駅道・野跡駅道・金城ふ頭駅道毎に駅を拠点とした「駅道新聞」を発行しよう。新聞発行費用は、企業・店舗の年会費７，３００円・地域住民の年会費３６５円・コミュニティ新聞会員３，６５０円とする。新聞編成は地域住民の投稿と会員の記事とする。発行は月１回、将来は週１回を目指そう。基本理念は、「地域情報を正確に届ける！」である。

（６）地域を特定してまちなみを作ろう。時空を駆け巡る明治・大正・昭和・平成までのまちなみを作ろう。

（７）「エコマネー」を活用しよう。貨幣ではかれないことを「エコマネー」で活用しよう。

＜自分でできること＞

道を案内する。荷物を持つ。裁縫ができる。道路・公園の掃除をする等。

＜自分がしてもらいたいこと＞

家事の手伝い。道案内。掃除の手伝い。買い物の手伝い。話し相手。散歩の相手等。

以上のことをエコマネーによって地域にて、誰でも、何処でも、活動・利用できるようにしよう。

６　提案６：　「人的資産を活かそう！」

第２章６　バリアフリー（点字ブロック）で述べたように、中川区・港区には一般機械器具製造業を初めとする数多くの業種がある。更に同章８　人的資産では、人口と地域密着人的資産の写真師を初めとする数多くの業種がある。名古屋市技能功労者アンケートから「仕事が好き、仕事に自信がある、努力」等が重要であることが判明した。

そこで、下記の４点を提案する。

（１）「製作実演」をしよう。

帽子製造職を初めとする失われつつある職種人を学区毎に招聘して製作実演してもらおう。荒子駅・中島駅・荒子川公園駅・金城ふ頭駅のスペースを利用して製作実演してもらおう。更に、学校・公民館・コミュニティーセンター・公園等で製作実演してもらおう。

（２）「教室」を開こう。

製作実演だけではなく、技能・技術を伝承していくためにも人に教えることが必要と考える。幼児期から遊びを取り入れて教えよう。幼稚園・保育園に出かけて教えよう。小学校・中学校・高等学校・大学は授業の一環に取り入れてもらおう。それによって、「キッザニア」のように大人の仕事を子供が体験できるような機会もできる。

（３）自分のものは自分で作ろう。

（１）で上げたような帽子については、学校に入学後に自分で作ることによって、ものづくりの大切さ、大変さそしてものを大切にする気持ちを養おう。

（４）「名スター」になろう。

今までの社会生活や学生生活から学んだことや技術を、世の中のため、人のために活かそうとする粋な人を「名スター（メイスター：名古屋のマイスター、名古屋の輝いている人）」に認定・登録し、地域貢献のバックアップをしよう。

７　提案７：　「藤前干潟へ出掛けよう！」

藤前干潟は鳥の餌場であると共に市民にとっても鳥を見ることができる場、直接海水に触れることができる場である。そして、干潟に足を踏み入れるとそこから無数の生命の息吹きを感じることができる。

その藤前干潟を広く市民に知ってもらうために下記の５つの提案をする。

（１）あおなみ線の名古屋駅構内や入口付近に名古屋市野鳥観察館や稲永ビジターセンターのピーアールを行おう。

（２）「自然観察会」「勉強会」を開こう。

自然観察会や勉強会を行うことで、知識そして体験できる機会を増やす。

（３）木工技術者や「木っ端の会」とのコラボレーションを図ろう。

鳥の観察だけではなく、木工技術者や「木っ端の会」の人々の彫刻技術をウッドカービングに活かし、鳥の彫刻をするような機会を作ろう。

（４）干潟をテーマとした自由研究の公募をしよう。

夏休みの子供の自由研究だけでなく、大人の自由研究を公募し、研究成果の発表の機会を作ろう。商品や賞金については、名古屋市野鳥観察館や稲永ビジターセンターだけでなく、環境関連の地元企業などから協賛を受ける形で進めることで持続性を持たせるだけでなく、企業のピーアールにもつながるようにする。

（５）野跡側の川べりに石を点在させて自然に近い状態で座ってゆっくりと鳥の観察ができるようにする。日が落ちたら、鳥たちを驚かさないために、研究等の目的の人以外は川べりにできるだけ近づかないようにする。そのため、照明については設置しない。

８　提案８：　「みなと・みらい・ゆめ公園を創ろう！」

金城ふ頭に人々が集る「みなと・みらい・ゆめ公園」を創る。その公園には下記のような提案をする。

（１）芝生等に巨大な升目を作り、オセロ、将棋、チェス等が大人数でできるようにする。

（２）巨大なビリヤード台を地面に作り、足で玉を蹴ってビリヤードを行う。

（３）長いローラー滑り台を作る。

（４）小さな小川を作り、浮かべたものがゴールまで流れ着く競争ができるようにする。

（５）照明やイルミネーション等の電気設備は太陽電池や燃料電池等の省エネルギー型のものとし、これらのシステムは企業の協賛や実証化設備として利用してもらう。企業のピーアールも可能とする。

（６）歩道は木工廃材や建築廃材等の木のチップ等を敷きつめた道にする。

（７）モニュメントやオブジェ探しができるようにする。

（８）全天候型ウォーキングロード（１日１万歩の道）を設置する。また、ダイエット用、メタボリック対策用、リハビリ用、アスリート用等の各種ウォーキングロードを設定する。

（９）公園に植える木の費用や公園のみどりを維持するために寄付した人、企業、団体が分かるように名前を掲載したり、木に名札を取り付ける。個人情報保護のため、実名を避けたい人には、匿名や芸名での掲載とする。遊具等についてもみどりと同様に扱う。

（１０）ブルーボネットや名古屋港水族館への海上アクセスができるようにすることによって、金城ふ頭から名古屋港等に移動できるようにする。さらには、セントレア（中部国際空港）への海上アクセスができるようにすることで、飛行機による国内外の観光客が来易いようにする。

（１１）名古屋港へあおなみ線で移動できるようにして、行動範囲が広げられるようにする。鉄道の敷設が困難な場合にはＤＭＶ（デュアル・モード・ビークル）のような線路も道路も走ることができる乗り物を利用することを考える。

第４章　持続可能な提案とするためには

ボランティアだけでは持続性がない。そのため、誰でも、何処でも、どんなことでもできるような仕組みを考える必要がある。

更には、その資金についても公的資金だけでは賄えないことも起ってくるので、一般企業の積極的な参加を要請する必要がある。どちらかが我慢するような状況ではお互いに長続きしないことになるので、お互いがＷｉｎ＆Ｗｉｎとなるような仕組みも考える必要がある。今回、われわれグループが提案した内容は、現時点でわれわれが良いと考えた活用アイデアであるが､別の視点から見ると更に良い提案が出ることが予想される｡そのため、われわれの提案が実施に移す価値があるかどうかを評価する部会、実施に移す部会、実施に移した場合にその計画を審査する部会、そしてそれを見直す部会をそれぞれ立ち上げることにより、より良い資産の活用アイデアとなり、そして中川区・港区の発展につながると考える。

平成18年度市民研究報告書

私たちの住む街なかの「魅力資産」の
再発見とユニーク活用アイデア
（中川区・港区）

発　行　　平成19年３月
財団法人　名古屋都市センター
〒460-0023　名古屋市中区金山町一丁目１番１号
TEL　052-678-2200
FAX　052-678-2211
印　刷　　マツモト印刷株式会社

この印刷物は再生紙（古紙配合率100％白色度70％）を使用しています。